

若者が住みたくなる・住み続けたくなるまちづくり に関する調査研究

平成 28 年 3 月

福井県 鯖江市
一般財団法人 地方自治研究機構

若者が住みたくなる・住み続けたくなるまちづくり
に関する調査研究

平成 28 年 3 月

福井県 鯖江市

一般財団法人 地方自治研究機構

はじめに

少子高齢化の進行に伴う本格的な人口減少社会が現実のものとなる中で、地方では雇用の安定や個人所得の緩やかな改善がみられ、地域経済の好循環に向けた動きが波及しつつある一方、地方公共団体を取り巻く環境の変化は厳しさを増しています。地方公共団体は、安心・安全の確保、地域産業の振興、地域の活性化、公共施設の維持管理等の複雑多様化する課題を地域の特性に即して解決していかなくてはなりません。

また、住民に身近な行政は、地方公共団体が自主的かつ主体的に取り組むとともに、地域住民が自らの判断と責任において地域の諸課題に取り組むことが重要となってきています。

このため、当機構では、地方公共団体が直面している諸課題を多角的・総合的に解決するため、個々の地方公共団体が抱える課題を取り上げ、当該地方公共団体と共同して、全国的な視点と地域の実情に即した視点の双方から問題を分析し、その解決方策の研究を実施しています。

本年度は8つのテーマを具体的に設定しており、本報告書は、そのうちの一つの成果を取りまとめたものです。

本研究の対象である鯖江市は、平成19年まで人口増加を続けてきましたが、それ以降から現在に至るまではほぼ横ばいとなっており、将来的には、今後減少していくと推計されています。本研究では、鯖江市の実情を踏まえ、「鯖江市まち・ひと・しごと創生総合戦略」との連携を勘案しながら、若者にとって住みたくなる・住み続けたくなる魅力あるまちにするため、有効な方策や地域特性を活用したまちづくりのあり方を検討したほか、鯖江市らしい個性を活かした具体的な施策の考察をいたしました。

本研究の企画及び実施に当たりましては、研究委員会の委員長及び委員をはじめ、関係者の方々から多くの御指導と御協力をいただきました。

また、本研究は、公益財団法人 地域社会振興財団の交付金を受けて、鯖江市と当機構が共同で行ったものです。ここに謝意を表する次第です。

本報告書が広く地方公共団体の施策展開の一助となれば幸いです。

平成28年3月

一般財団法人 地方自治研究機構
理事長 山中 昭 栄

目次

序章 調査研究の概要	3
1. 調査研究の背景・目的・視点	3
2. 調査研究の流れと全体像	4
3. 調査研究の体制	5
4. 調査研究の経過	6
第1章 鯖江市の概況	9
1. 市の概要	9
2. 若年層の定住に向けた取組	10
3. 市民生活等の特性と課題	14
第2章 鯖江市の人口動向	23
1. 人口動向の現状分析	23
2. 人口の将来見通し	32
第3章 若年層の定住意向に関する概要把握	39
1. 若年層の一般的な居住地選択条件に関する意識調査の実施概要	39
2. 分析結果の概要	44
第4章 若年層の定住意向に関する詳細分析	57
1. グループインタビュー調査の実施概要	57
2. 分析結果の概要	58
第5章 若年層の定住促進に向けた今後の施策	69
1. 人口の将来ビジョンと人口ビジョン	69
2. 今後の有効な施策の検討	75
3. 総合戦略のローリングと施策の効果を評価する視点	81
調査研究委員会概要	87
1. 調査研究委員会名簿	87
2. 調査研究委員会開催経緯	89
資料編	93
1. WEBアンケート調査票	93
2. WEBアンケート調査結果の詳細	102
3. 委員アンケート調査結果の概要	123
4. 鯖江市から転出している若者へのアンケート調査結果の概要	129

序章 調査研究の概要

序章 調査研究の概要

1. 調査研究の背景・目的・視点

(1) 背景と目的

鯖江市においては、古くからの地場産業を活かした新産業の集積や、交通利便性の高さなどを背景に、県内市町のなかで唯一人口増加を続けてきたが、平成19年以降から現在に至るまでほぼ横ばいとなっている。また、高齢者の人口が増加しており、既に高齢社会に突入していることから、今後、少子・高齢化が一層進展することが懸念され、人口減少の克服、地域経済の活性化、さらには安全・安心で豊かな地域社会の形成などが課題となっている。その背景として、若年層の流出が主要な要因の一つとなっており、今後は若者定住を促進するための総合的な対策の拡充が求められてきている。

そこで、本調査研究では、若年層の流出をはじめとする鯖江市の人口減少の背景・要因を把握するため、出生率の動向、年齢別社会移動、将来人口等の分析を行い、若者定住の条件となる住環境（住宅・交通・商業等）、就学・就業環境、結婚・出産・子育て環境等の今後のあり方・方向性等を検討することを目的とする。

(2) 調査研究の視点

本調査研究では、既存統計データによる分析に加え、若年層が考える鯖江市の魅力・欠点、鯖江市への定住意向、望ましいまちづくりの方向性等をアンケート調査やヒアリング調査等を通じて多角的に把握する。

さらには、まち・ひと・しごと創生総合戦略に関連する「鯖江市人口ビジョン」及び「鯖江市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下、「総合戦略」と略す。）を策定又は見直す際の基礎資料として活用することを想定し、人口目標の設定に参考になるような施策効果等の検討を行うとともに、総合戦略における基本的な方向性及び具体的な施策KPI（Key Performance Indicator）を設定する際に参考になるようなデータ等を整備することを目指す。

2. 調査研究の流れと全体像

(1) 鯖江市の概況

若者が住みたくなる・住み続けたくなるまちづくりに向けた施策を検討するに当たっての前提として、まずは、鯖江市の概況特性を把握した。地域形成の沿革、地勢・気候、人口・世帯の推移、若年層の定住に向けたこれまでの取組については、鯖江市の計画書や総務省統計等の関連資料調査に基づいて整理した。また、市民性、市民の生活行動における特性や地域への誇り（シビックプライド）に係る意識等については、有識者で構成された調査研究委員会の委員に対するアンケートや鯖江市内在住の若年層に対するグループインタビュー、鯖江市出身で県外在住の大学生、社会人に対するメールでのアンケート、市内事業者に対するヒアリング等により把握・整理するとともに、これらの情報から鯖江市の特性と課題を整理した。

(2) 鯖江市の人口動向

次に、社会増減、自然増減の動向に着目して総人口、男女別人口、年齢階級別人口の推移を分析し、とりわけ社会増減の要因を検討した。また、これらの要因とそれに基づく趨勢的動向が今後も継続することを想定した人口の将来推計を行った。

(3) 若年層の定住意向に関する概要把握

福井県内、県外北陸地域、東京都区部の若年層を対象とし、これら若年層の居住地選択条件に関する意識を把握するため、インターネットリサーチ（WEBアンケート）による実態調査を実施した。これにより、定住意向を決定付ける、又は定住することへの期待感を高める効果が期待できる居住地の条件や行政サービス等に関する仮説を立案した。

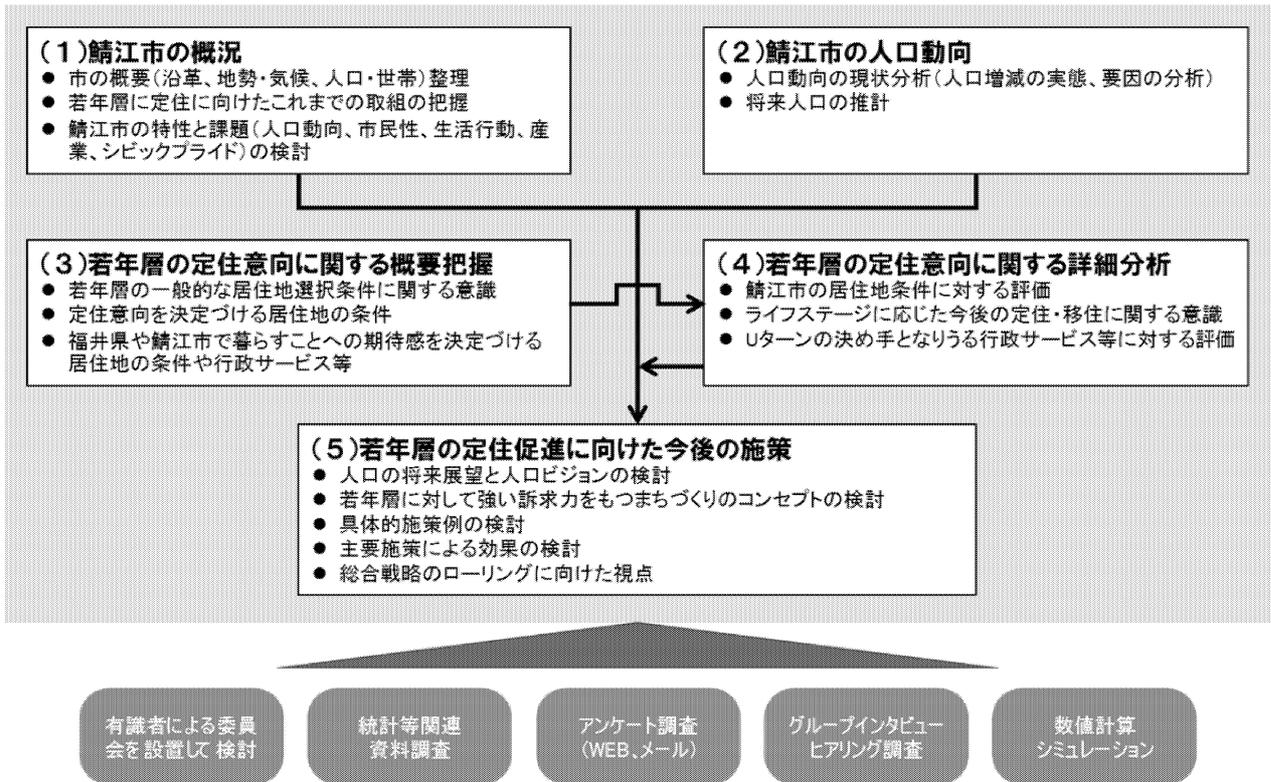
(4) 若年層の定住意向に関する詳細分析

上記(3)の実態調査による仮説を検証するとともに、鯖江市在住の若年層の定住に関する意識特性をより深く把握するために、「高校生」「就職後間もない独身者」「Uターン5年目頃の独身者」「世帯形成後の若年層」「大学在学中等の子を持つ親」等を対象として、鯖江市の居住地条件やUターン促進策等に対する評価、ライフステージに応じた今後の定住・移住に関するグループインタビューを行った。さらに、東京都内の大学生に対してもグループインタビューを行った。なお、併せて上記(1)に係る市民特性についても聞き取りを行った。

(5) 若年層の定住促進に向けた今後の施策

上記(1)(2)による検討の前提を踏まえ、(3)(4)で検討した若年層の定住意向に関する意識等を分析した結果を、調査研究委員会において検討し、人口の将来展望、今後のまちづくりのコンセプト、重点的な施策例を取りまとめた。施策例の取りまとめに当たっては、関連する事業者等へのヒアリングも行った。また、これらの施策と総合戦略のローリングとの関係についても検討した。

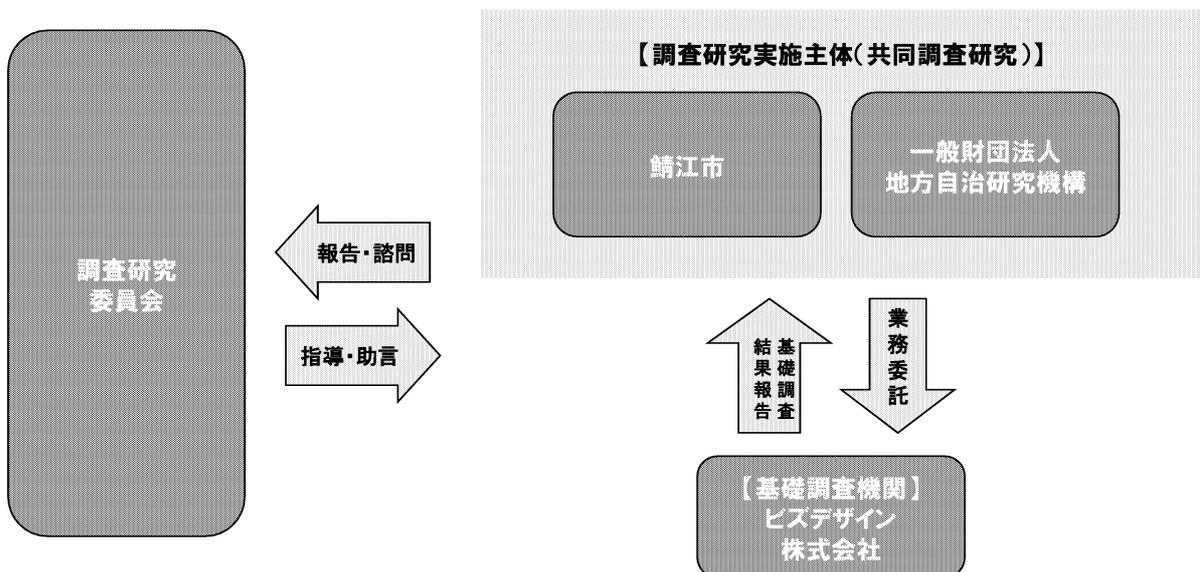
図表 序-1 調査研究の全体像



3. 調査研究の体制

本共同調査研究は、鯖江市及び一般財団法人地方自治研究機構を実施主体として、以下の体制で、調査研究委員会の指導・助言の下、基礎調査機関としてビズデザイン株式会社の協力を得て実施した。

図表 序-2 調査研究の体制図



4. 調査研究の経過

調査研究時期	調査研究内容
平成 27 年 7 月 15 日	第 1 回委員会
平成 27 年 8 月	有識者による委員会の委員に対するアンケート
平成 27 年 8 月～9 月	福井県内、県外北陸地域、東京都区部の若年層に対するインターネットリサーチ（WEBアンケート）
平成 27 年 9 月 12 日、13 日	鯖江市内在住の若年層に対するグループインタビュー
平成 27 年 10 月 2 日	第 2 回委員会
平成 27 年 10 月 18 日	東京都内の大学生に対するグループインタビュー
平成 27 年 10 月～11 月	鯖江市出身で県外在住の大学生、社会人に対するメールアンケート
平成 27 年 11 月 14 日	市内事業者に対するヒアリング
平成 28 年 1 月 22 日	第 3 回委員会

第1章 鯖江市の概況

第1章 鯖江市の概況

1. 市の概要

(1) 地域形成の沿革

明治22年（1889年）の市制町村制の町村制導入に伴い鯖江町が誕生した。それ以前から鯖江町の地域は丹生地域の中心として役場が置かれていた。

その後、周辺の町村を合併し、まちとしての規模を拡大させながら、昭和30年（1955年）には鯖江町と神明町、周辺5村（中河村・片上村・立待村・吉川村・豊村）の2町5村が合併し鯖江市が誕生した。同年に北中山村も編入合併、更に昭和32年（1957年）に河和田村も編入合併し、現在の鯖江市が完成した。

現在の市庁舎が旧鯖江町と旧神明町の間位置することや市街地が鯖江地域と神明地域との2地域に分かれているのは、こうした経緯が影響している。

(2) 地勢・気候

鯖江市は福井県のほぼ中央部、嶺北地域の丹南地区に位置しており、北は福井市、南は越前市、西は越前町に隣接している。

東西約19.2km、南北約8.3kmにわたる地域（面積84.59km²）のうち、その多くが平坦地であり、東部及び南西の一部が山地となっているコンパクトなまちである。

市の中央を低い丘陵が南北に細長く延び、これに沿って市街地が形成されているが、福井鉄道福武線の神明駅を中心とする神明地域と北陸本線の鯖江駅及び福井鉄道福武線の西鯖江駅を中心とする鯖江地域の2つの市街地に分けられる。東端にある河和田地区は山あいとなっている。

気候に関しては、冬期に曇りや雪の多い日本海式気候に属し、気温は低く冬期の降雪が多い。

(3) 人口・世帯

鯖江市では、昭和30年（1955年）の市制施行以来、順調に人口増加が続いてきた。平成19年（2007年）以降から現在に至るまでほぼ横ばいとなっているものの、直近の住民基本台帳人口は、平成28年2月1日時点で69,127人と過去最高水準となっている。平成25年中の社会増加数でも福井県内で唯一プラスとなっているように、いまだに明確な人口減少局面を迎えていない。これが鯖江市の最大の特徴の一つである。

世帯の状況を見ると、市制施行時には世帯当たり人員が約5人であったが、平成26年（2014年）には約3人となっている。世帯分離による世帯当たり人員の減少がその要因の一つであるとみられるが、親世帯と同じ敷地内に別世帯を構えるといった世帯分離も多く見受けられることから、都市部における一般的な核家族化とはやや様相が異なるものとみられる。

2. 若年層の定住に向けた取組

(1) 「第5次鯖江市総合計画改定版」にみる取組

鯖江市では、平成22年3月に第5次鯖江市総合計画（計画期間：平成22年度～26年度）を策定しているが、人口減少局面の到来、地域経済及び地方自治体を取り巻く情勢の厳しさの深刻化など時流に応じた諸課題に的確かつ迅速に対応する必要があるとの認識の下、平成27年3月に基本計画の一部を見直し、計画期間を2年間延長（計画期間：平成22年度～28年度）する改訂版を策定している。

改訂版では、先導的、横断的な取組として、「鯖江ブランド」づくりと「人の増えるまち」づくりの2つの施策からなる「重点施策__リーディングプロジェクト」と、基本構想における6つの基本目標の実現に向けた44の基本施策及びその達成のための実施施策を位置付けた「分野別計画__フィールドプラン」を掲げている。

この改訂版から、若者が住みたくなる・住み続けたくなるまちづくりを意図し、かつ「若年層」または「若者」を施策対象として明示している取組（施策・事業）を抽出した。

① 「重点施策__リーディングプロジェクト」にみる主な取組

若年層の定住や移住促進に向けた取組としては、「産業活性」「子育て」「若者・学生との連携」「定住促進」「ITのまちづくり」といった施策が該当する。

「産業活性」としては、眼鏡、繊維、漆器の三大地場産業におけるイノベーション、イメージアップにより若者や女性の就業につなげる取組を進めている。

「子育て」としては、妊娠期から学齢期までの切れ目のない子育て支援、ワーク・ライフ・バランスの推進に加えて、若年層の未婚や晩婚の解消をねらった出会いづくりなどを進めている。

「若者・学生との連携」としては、若者や学生が活躍できる地域社会を若者自身が主体となって構築することができるような環境整備を進めている。また、活用可能性の高い電子自治体をめざす「ITのまちづくり」もその方策の一つとして位置付けることができる。

「定住促進」としては、「産業活性」による雇用機会づくりのほか、河和田地区における地場産業に関わる若者の取組に対する支援や空き家の活用による住まいの確保などの取組を進めている。

図表 1-1 改訂版における「重点施策__リーディングプロジェクト」にみる若年層の定住、移住促進に向けた主な取組

第1章「鯖江ブランド」づくり
第1節 鯖江ならではのものづくり
(1) 産業活性
鯖江市には、眼鏡フレームの国内生産シェア約9割を占める眼鏡産業、繊維王国福井の中核を担ってきた繊維産業、約1500年の伝統を持ち、業務用漆器では全国の約8割を生産している漆器産業と、3つの地場産業があり、この三大地場産業とその関連産業で市内生産額の8割以上を占めています。チタン加工など本市の固有の要素技術を活かした医療やウェアラブル端末関連等の成長分野への進出を促し、地域産業のイメージアップを図ることで、若者や女性の就業につなげていきます。
第2章「人の増えるまち」づくり
第1節 安心して生み育てられる子育て環境の充実
(2) 子育て
子育ての喜びが実感できるとともに安心して子育てができるよう、妊娠期から学齢期まで切れ目のない子育て支援に取り組みます。また、仕事と子育てが両立でき、家族時間が伸張する環境づくりに向けて、ワーク・ライフ・バランスの啓発等の推進に取り組みます。さらに、未婚や晩婚の解消に向けて、若者の出会いや交流の場づくりによる縁結びなど、素敵な出会いができる環境づくりを進めます。
第2節 若者が住みたくなる・住み続けたくなるまちづくり
(1) 若者・学生との連携
柔軟で創造性豊かな発想と旺盛な行動力を持つ若者や学生を市政のパートナーと位置づけ、若者が主体となったまちづくり事業や大学・高専との連携事業など、若者や学生が活動しやすい環境整備を図ることで、若者の知恵と行動力を市政に活かしたまちづくりを進めます。
(2) 定住促進
若者が住みたくなる・住み続けたくなるまちづくりに向けて、本市固有の要素技術を活かした医療やウェアラブル端末関連等の成長分野への進出を促し、地域産業のイメージアップを図ることで、若者や女性に魅力ある雇用の場を創出します。また、起業・創業者への支援の充実や、IT企業などを誘致することにより、若者の働く場を創り、地域コミュニティの担い手となる若者の定住を促進します。特に、河和田地区では人口が減少する中、河和田アートキャンプを経験した若者が、地元の漆器や眼鏡産業に従事し、新たな活力や賑わいの創出に向けた活動などをスタートしています。彼らの活動を支援するとともに、空き家の活用など住環境の整備にも取り組み、新たな定住者の増加を目指します。
(3) ITのまちづくり
市民が豊かに楽しく暮らすためにITは大きな力となります。IT推進フォーラムやタブレット端末、アプリ出前講座の開催、オープンデータの推進等に取り組み、誰もがITを活用できる暮らしやすいまちづくりを目指します。

(出所)第5次鯖江市総合計画改定版より作成

② 「分野別計画__フィールドプラン」にみる主な取組

若年層の定住や移住促進に向けた取組としては、「活力ある産業と賑わいのあるまちづくり」と「市民が主役の地方分権のまちづくり」が該当する。

具体的な事業としては、若年層の市内就業を促す企業等の合同説明会、インターンシップ、企業と大学との交流事業や県内大学生等に対する就活支援、市内企業等のPR事業等が挙げられる。

また、鯖江市に滞在し、市民との交流等を深める中で、まちづくりに向けた調査や研究を行う大学生等のグループに対する活動費助成のようなユニークな事業も盛り込まれている。

図表 1-2 改訂版における「分野別計画_フィールドプラン」にみる若年層の定住、移住促進に向けた主な取組

第1章 活力ある産業と賑わいのあるまちづくり
第2節 「工業」…若者に魅力あるものづくり産業を創出する
● 販路開拓、企業マッチング事業 中小企業等が行う新たな販路開拓、企業マッチング事業に対して支援します。
● 創業・第2創業、異分野進出事業 本市の地場産業の技術を活かした新産業への進出、新製品開発や販路開拓事業等の支援による異分野進出や創業・第2創業、農商工連携等への支援を進めます。
第6節 「労働」…誰もが働きやすい環境を充実する
● 関係機関との連携・協力、大学連携事業 公共職業安定所等の県内就労関係機関と連携・協力し、地元地域における雇用創出の拡充に努めるとともに、商工会議所、地元大学等との連携事業として、企業合同説明会、インターンシップ、企業と大学との交流事業等を行い、地元企業、地域の産業の魅力を積極的に発信・PRします。
● 中小企業の子育て・介護応援事業 中小・零細企業が大半を占める本市において、働きながらいきいきと子育てや家族の介護を行い、家庭や地域生活などの私生活を充実させるために、事業所への支援や地域社会に向けた啓発活動を行い、仕事と生活の調和を図りながら職場環境を整えます。
● 地元企業の魅力発信事業 県内の就労関係機関と連携して各種出前相談会を実施するとともに、若年層や学生を対象とした就活支援セミナーを開催したり、高校生の地元企業への興味・関心を喚起するため、地元企業訪問や若手職人等を講師としたセミナー等を開催し、地元への就職就労に対する意識の啓発に努めます。
● 地域で育む子育て支援ネットワーク 事業地区ごとに設置された「地区子育て支援ネットワーク委員会」が、地区の子育て支援関係団体等と連携・情報を共有し、地域ぐるみで子育て支援の研修や事業を実施します。
第6章 市民が主役の地方分権のまちづくり
第1節 「情報共有」…市民との情報共有化を推進する
● 市政への参画機会の充実 市長と語り合う会やふれあい談論、行政出前講座、市長へのメールや手紙等を通して市民の意見を聞く機会をつくり、市民参画機会の充実を図ります。また、オープンデータを推進することにより市政への市民参加や官民共同の公共サービスを図ります。
第9節 「市政参画」…市民主役のまちづくりを推進する
● 市民同士の熟議の場の創出事業 地域課題を自ら発見し、市民同士の熟議により未来志向で解決策を見い出していくフューチャーセンター・セッションを開催しながら、「市民力」の向上を図ります。
● 学生滞在型まちづくり活動支援事業 鯖江市に滞在し、市民との交流等を深める中で、まちづくりに向けた調査や研究を行う大学生等のグループに対し、宿泊費の一部を助成し、柔軟で創造性豊かな提案を市のまちづくり施策に反映します。

(出所)第5次鯖江市総合計画改定版より作成

(2) 「鯖江市まち・ひと・しごと創生総合戦略」にみる今後の主な取組

「鯖江市まち・ひと・しごと創生総合戦略」においては、市内への就業を促すインターンシップ事業やハローワーク武生（越前市）との連携、UIターン者の誘導を意図する創業支援、お試し移住事業、シェアハウス、シェア工房事業など、実践的な施策が数多く掲げられている。

図表 1-3 「鯖江市まち・ひと・しごと創生総合戦略」にみる若年層の定住、移住促進に向けた主な取組

基本目標Ⅰ 魅力ある雇用の創出	
基本施策3 若者に魅力ある働く場の確保	
実施施策② 若者の就労機会の確保	
	産業界と連携したキャリア教育の実施や若者に対する職業相談、情報提供、企業合同説明会・セミナー、職業紹介等の実施を通じて、地元企業や地域産業の魅力を積極的に発信し、地元地域における若者の雇用創出の拡充に努めます。 ○大学連携によるインターンシップ事業 ○ハローワーク武生との雇用連携協定（仮称）に基づく支援事業
基本目標Ⅱ 若者が住みたくなるまちの創造	
基本施策1 若者の夢を応援するまち ～よそ者に寛大で多様性があるまち～	
実施施策① 学生連携事業	
	地元住民との交流や地域産業との触れ合いを通じて、学生が主体となり地域活性化や観光振興など、まちづくりへの提案を議論する場を設けること等を通じて、若者の柔軟で創造性豊かな提案を市の施策に反映することにより、若者が活動しやすい、市民主役のまちづくりに努めます。 ○学生連携事業(鯖江市地域活性化プランコンテスト、明治大学鯖江ブランド創造プロジェクトほか)
実施施策③ ふるさと納税の推進	
	お礼品の充実に加え、インターネット広報の活用や各地でのイベントにおける制度の徹底した周知活動を通じて、ふるさと納税のさらなる啓発に努めるとともに、ふるさと納税のお礼品を通して鯖江の魅力を全国に発信し、若者の交流人口・定住人口の増加につなげます。 ○ふるさと納税事業
実施施策④ U I ターン者定住促進	
	鯖江のものづくり産業や自然、文化等の地域資源の魅力、住み良さや子育て環境の良さを発信し、U I ターン者の増加を図ります。また、体験型移住プロジェクト（お試し移住事業）を通じて、移住希望者のニーズを調査・分析することにより、全国に発信できる移住モデルの構築を目指します。また、U ターン・I ターンにより伝統的なものづくり産業に従事したいという若者に対する支援を促進し、地域産業における雇用の拡大を図ります。 ○鯖江の魅力発信事業 ○お試し移住事業 ○シェアハウス、シェア工房事業 ○空き家有効活用推進事業 ○ハローワーク武生との雇用連携協定（仮称）に基づく支援事業
基本施策3 河和田キャンパス(創造産地)の構築	
実施施策① 河和田地区への移住・定住促進	
	「うるしの里かわだ元気再生プロジェクト」に基づき、河和田地区で起業または働きたい人への移住・定住に対する補助や暮らしのサポート、伝統的な地域産業の魅力を積極的にPR・対外発信することにより、移住人口・定住人口の増加を図ります。 ○シェアハウス、シェア工房事業 ○空き家有効活用推進事業 ○鯖江の魅力発信事業
実施施策② 交流人口増加への取組み	
	学生を対象とした現地でのものづくり創作活用(河和田アートキャンプ)や越前漆器に代表される河和田の魅力を体験するまち歩きイベント等を通じて、河和田地区の豊かな地域資源を全国的に情報発信することにより交流人口の増加を図り、地域の賑わいを創出して、活力のある元気なまちづくりに取り組みます。 ○河和田アートキャンプ事業 ○河和田くらしの祭典事業 ○工房ショップ等改修支援事業 ○伝統工芸産地体験事業 ○伝統工芸とITを生かした地方創生事業
基本施策5 参加と協働による市民主役	
実施施策① 市民主役の推進	
	市民提案から「鯖江市民主役条例」（平成22年制定）を創り上げ、早い時期から「市民主役」「市民協働」のまちづくりを進めてきた鯖江市において、若者を含む幅広い層の市民がふるさとに愛着を持ち、誇りややりがいを持って自ら市政や地域経営に直接携わるような仕組みづくりをさらに進めることで、一人でも多くの市民参加によるまちづくりを目指します。また、各地区において住民自らが創意工夫を凝らした事業を行い、地区の活性化に取り組む住民自治の更なる充実を図ります。 ○提案型市民主役事業 ○まちづくり基金事業 ○融和と協働のまちづくり事業 ○市民まちづくり応援団事業
実施施策② (女子) 高校生のまちづくり参加の促進	
	若者や女性が進んで行政参画を図っていく新たなモデル都市を目指し、市政に関して「無関心層」と言われていた女子高校生によるまちづくりチーム(鯖江市役所JK課)を結成するなど、常に新しい取組を進めている。こうした地域活動を通じて、柔軟で創造性豊かな発想や行動力のある若者・女性との

<p>更なる連携を進め、次世代のふるさとを担う人材の育成を目指します。</p> <p>○鯖江市役所JK課事業</p>
<p>基本目標Ⅲ 若くて元気なまちの創造</p>
<p>基本施策1 安心して結婚・出産・子育てができるまち</p>
<p>実施施策① 出会い交流等のサポート</p>
<p>未婚率の上昇や晩婚化に歯止めをかけるため、結婚を希望する人に対して出会い・交流できる場を提供するイベント等を企画・運営し、若者の結婚へのきっかけづくりを支援します。</p>
<p>○出会い交流サポート事業</p>

(出所)鯖江市まち・ひと・しごと創生総合戦略より作成

3. 市民生活等の特性と課題

調査研究委員会の委員に対するアンケート、鯖江市内在住の若年層に対するグループインタビュー、鯖江市出身の県外在住若年層に対するメールアンケート、市内事業者に対するヒアリング等に基づき、鯖江市における市民生活等の特性と課題を次のとおり整理した。

(1) 市民性の特性と課題

○ 忍耐強い、粘り強い、コツコツと仕事熱心である

この市民性は、特に中高年層にみられる特性のようである。若年層にとってはあまり実感がないようだが、県外在住の若年層の約半数はこのような特性が鯖江市民に当てはまると回答している。

○ 地縁・血縁・取引縁など人のつながり、協力意識、助け合い意識が強い

この市民性は、年齢層を問わず、鯖江市民に当てはまる特性のようである。

このことは地域活性化を目指す上で大切な意識風土であると言えるが、一方で他地域からの転入者(移住者)に対する閉鎖性というかたちで発揮されうることに注意が必要である。特に、若年層に対するグループインタビューにおいても、同じ市内であってもこれまでとは違うコミュニティに住替える場合には、そのコミュニティに円滑に溶け込んでいけるような丁寧なケアが必要であるという指摘がなされている。また、事業者からも地域外からの新入社員の受入れに当たって、田舎のしきたり、行儀、礼儀を教えることの重要性が指摘されている。

○ 中高年層のまちづくり・市政・自治会などに対する参加意識、当事者意識が強い

古くから続くコミュニティでは、こうした市民性が根強く当てはまるということが中高年層から指摘されているが、若年層にとってはあまり実感がないようである。若年層に対するグループインタビューにおいて、青年会や消防団等への参加に関するある種の義務感があることが確認されていることを考え合わせると、鯖江市は、地縁・血縁という人間関係を基盤とした互助意識が強い一方で、人間関係を伴わない場合には公的な枠組みによる活動への参加意欲があまり高くないのではないかと推察される。

○ 自己主張をしない、恥ずかしがり屋である

この特性については、年齢層を問わず、福井県民共通の県民性であるにとらえている。そのため、何らかの施策を講じるに当たっては、日常的な人間関係における互助意識の強さを活かした体制をとることが必要になるということ認識しておくべきであろう。

○ 寺社信仰心が強い

若年層では中高年層ほどは寺社信仰心が強くないとの指摘はあるが、鯖江市民に当てはまる特性としておおむね認識されている。

○ 躰が厳しく、教育にも熱心、学力が高い

このことは年齢を問わず、鯖江市民に当てはまる特性として認識されているようである。

○ 習い事やスポーツに親が熱心、体力・運動能力が高い

このことは年齢を問わず、鯖江市民に当てはまる特性として認識されているようである。

(2) 市民生活行動の特性と課題

○ コンパクトなまとまりのある市街地で車を使って便利に暮らせる

鯖江市は、市街地がコンパクトにまとまっており、車での移動を前提とすれば通勤も買い物も便利に生活できる。ただし、一方でどこへ行くにも車が必要であり車の維持費がかかるという声もある。

U I J ターンを促す上では、車両の取得、車庫の確保、経済的な車両維持などマイカー生活に係る便利でお得な情報を充実することも課題の一つとなるであろう。

○ 保育所、幼稚園が多く、入所・入園に困ることはない

保育園の待機児童が発生すればむしろその方がニュースになるという認識があるほどに、乳幼児の保育、教育環境が充実している。ただし、このことは市民にとって“当たり前”のこととなっており、都市部に比較してたいへん恵まれた環境であるという認識に乏しいと思われる。鯖江市民や潜在的なU I J ターン者にこうした豊かさを認識、再認識してもらうことが重要な課題になると考えられる。

○ 隣接する福井市、越前市と一体の生活圏となっている

隣接する福井市や越前市、越前町について、「市外」との認識は薄く、隣接市町と一体の生活圏となっているようである。例えば、市内には映画館があり、日常の買い物は何でも揃うという便利さがあることに加えて、隣接市町を含めれば、高等学校への進学の実選択肢も多く、習い事やちょっとした外食、洋服の買い物なども十分事足りるといった認識は、この隣接市と一体の生活圏意識に

よるものとみられる。潜在的なU I Jターン者に対して、鯖江市の良さPRする際には、鯖江市内の情報だけでなくこうした市内外の生活圏の情報も合わせて周知することが重要であると考えられる。

○ 店舗や飲食店がばらついている、若い人が集まって楽しめるところが少ない

鯖江市では、鯖江地区と神明地区に市街地が二分されているためか、店舗や飲食店が散在しておりにぎやかな中心部がなく求心力がなく、また、若い人が集まって楽しめるところが少ないとの声もある。U I Jターンを促す上で、市外を含めた日常生活の楽しみ方や都会とは異なる暮らしの豊かさを伝えることが課題となろう。

○ ちょうどよいサイズのマンション、アパートがない、空き家を借りにくい

鯖江市には、若年層世帯が入居するのにふさわしいちょうどよいサイズのマンション、アパートが少ないという声がある。また、不動産事業者によると、1K、1DKなどの単身者向けの賃貸物件が足りないとの認識が示されており、特に、従業員のための住宅を確保したい企業から物件不足の指摘が多いという。一方で、ファミリータイプ、2DKくらいの広さで6～7万円位を相場とする新婚向け賃貸物件は結構あるのではないかとのことである。ただし、テラスハウス等の戸建て風物件はあるものの、戸建て賃貸物件が少ないとのことである。

U I Jターン者の定住を促す上で、住まいの確保は重要課題の一つである。住まいについての相談対応、きめ細かなサポート策を講じる必要があるであろう。

○ 冬期の積雪（除雪、融雪）による不便さや苦勞が多い

積雪のある生活に慣れている住民にとってさえ、積雪に伴う除雪、融雪が大変であり、生活に不便という認識をもっている。地元住民にとっては常識である冬期の日常動作、装備等も、積雪に慣れていないI Jターン者（及びその予備軍）にとっては“非日常”の未知の動作、装備等であるということを十分に認識して、冬期の生活における便利でお得な情報を充実することが課題の一つとなるであろう。

(3) 地域産業と市民生活の関係に関する特性と課題

「鯖江と言えば眼鏡」というアイデンティティは年齢層を問わず根強く持っているように見受けられる。その一方で、「漆器」については中高年は愛着を感じているようであるが、若年層ではそのような意識は希薄である。

ただし、「眼鏡工場、めがね会館（メガネミュージアム）」「漆器産業、うるしの里会館（越前漆器伝統産業会館）、河和田の街並みや工房」を市外から来た人を「ぜひ連れていきたい」「ぜひ見せてあげたい」「ぜひ教えてあげたい」と思う場所として挙げる若年層は少ない。

このことから、生活の中で普段使いされているものであるかどうかということや、鯖江市ならではのイメージとして定着させる取組（JR鯖江駅前のモニュメントやめがねのまち元気再生協議会等）がなされてきたかどうかということが、若年層の「眼鏡」と「漆器」への伝統産業としての愛着や誇りの意識の違いとなって表れているものと解するのが適当であろうと考えられる。

事業者からは、「眼鏡」にはファッション性があるが、「漆器」にはそれがないということが指摘されている。また、魅力とは一種の“憧れ”であるが、製品そのものを大衆化させてしまったことが「漆器」を“憧れ”の対象ではないものにしてしまったのではないかと、さらに、産地の人自身が“憧れ”の対象となるような「漆器」を使っていないのではないかと指摘もある。

(4) 地域情報に関する特性と課題

○ ケーブルテレビ加入率約70%の準公共メディアがある

丹南ケーブルテレビの地元加入率（丹南地域）は約70%であり、ある意味で公共メディアとしての側面をもつ。丹南ケーブルテレビでは、「地域内の情報を地域内に、地域外の情報を地域内に、地域内の情報を地域外に」という3つの使命に基づき、マスメディアが取り上げないような地域情報をテレビ、インターネットを通じて内外に発信しており、地域独自の情報インフラがあるといえる。

また、ケーブルテレビネットワークの中で地域間のコンテンツ交換を行っていることから、県外に向けた情報発信のためのメディアとしても有効である。

○ 若者が参加できるメディア

丹南ケーブルテレビでは、月に1回、JK課スタッフにレポーターとして番組作りに参加してもらっているほか、アートキャンプと連動して情報発信をしたり、福井高専と連携して工作教室を開催したりもしている。今後も若い人を巻き込みたい、大学生に参加してもらって番組作りをやりたいという意向もあり、若者が参加できるメディアとして期待できる。

(5) シビックプライド（お国自慢）に関する特性と課題

○ 郷土愛が強い

年齢層を問わず、鯖江市に対する郷土愛の強さは自覚しているようである。県外で出身地を聞かれたら「福井ではなく鯖江と答える」といった面にその自覚が表れているといえる。このような郷土愛の強さはUターンの増加を目指す上で大変重要な前提条件となるであろう。

○ 西山公園に愛着を感じている

年齢層を問わず、西山公園に対する愛着がみられる。県外在住の若年層でも8割以上が市外から来た人を「ぜひ連れていきたい」「ぜひ見せてあげたい」「ぜひ教えてあげたい」と思うものとして挙げている。つつじまつり、もみじまつり、道の駅、西山動物園、展望台からの風景など、その愛

着の源泉となっているコトやモノ、バシヨも具体的に挙げられている。なお、眼鏡や漆器などの地場産業、鯖江藩主・間部公にちなんだ「まなべの館」など他の名所と比べても、西山公園に対する愛着は抜きんでて高いようである。

○ 市役所によるユニークな取組についてもある程度自慢に思う気持ちがみられる

市役所における「JK（女子高生）課」や「OC（おばちゃん）課」等の施策・事業については、そのユニークさから全国的にも認知が進んでいることもあり、鯖江市の若年層にとってはある程度自慢に思う気持ちが見受けられる。

図表 1-4 グループインタビューによる市民性、シビックプライド(お国自慢)に関する検証結果のまとめ

		高校卒業前後	大卒間もない独身社会人	若年層の親世代
市民性	忍耐強い、粘り強い、コツコツと仕事熱心	感じない(人による)	—	一世代前の人たちの特徴
	賑やかなこと、目立つこと、新しいことが好き、起業精神、チャレンジ精神、先進的な考え方	年代による	○ 越前市民も同じ	人による
	地縁・血縁・取引縁など人のつながり、協力意識、助け合い意識の強さ	○	○	○
	まちづくりへの参加意識、市政への参加意識、自治意識、当事者意識が強い	×	—	古い田舎の地区では強い
	自己主張をしない、恥ずかしがりや	福井県共通の県民性	福井県共通の県民性	福井県共通の県民性
	寺社信仰心が強い	○	△ 年配の人ほどではない	○
	方言が強くコンプレックスをもつ(恥ずかしがる)人が多い	—	—	×
	躰が厳しく、教育にも熱心、学力が高い	○	○	○
	習い事やスポーツに親が熱心、体力・運動能力が高い	—	—	○ ただし、福井県は学力が高いというよりも宿題が多いというのが特徴
	地場産業(眼鏡、漆器)に対する誇りを持っている	眼鏡に対しては多少そういう気持ちがある 漆器は使わないし、何も感じない	眼鏡に対しては誇りがある 漆器に対する思いはない	眼鏡に対しては誇りがある 漆器も少しだが使っている
お国自慢	郷土愛が強い	○	○	○ 出身地を聞かれたら「福井」ではなく「鯖江」と答える
	西山公園(つつじまつり、もみじまつり、道の駅、西山動物園、展望台からの風景)	○	○	○
	眼鏡産業、眼鏡工場、めがね会館(メガネミュージアム)	—	行ったことがない	○
	漆器産業、うるしの里会館(越前漆器伝統産業会館)、河和田の街並みや工房	—	—	○

お国自慢	市役所の取組(めがねのまち元気再生協議会、オープンデータ、JK 課)	—	—	—
	まなべの館(総合博物館)	—	そうでもない	—
	市民主役の良さ、提案型市民主役事業化制度、まちづくり応援団	—	—	—

図表 1-4 グループインタビューによる市民性、シビックプライド(お国自慢)に関する検証結果のまとめ(続き)

		UJ ターン独身社会人	UJ ターン家族世帯
市民性	忍耐強い、粘り強い、コツコツと仕事熱心	—	○
	賑やかなこと、目立つこと、新しいことが好き、起業精神、チャレンジ精神、先進的な考え方	—	○
	地縁・血縁・取引縁など人のつながり、協力意識、助け合い意識の強さ	○ 生活圏内はみな知り合い	○
	まちづくりへの参加意識、市政への参加意識、自治意識、当事者意識が強い	—	×
	自己主張をしない、恥ずかしがりや	—	福井県共通の県民性
	寺社信仰心が強い	—	○
	方言が強くコンプレックスをもつ(恥ずかしがる)人が多い	—	外のまちで暮らしているときにはあった
	躰が厳しく、教育にも熱心、学力が高い	—	○
	習い事やスポーツに親が熱心、体力・運動能力が高い	—	○
	地場産業(眼鏡、漆器)に対する誇りを持っている	—	眼鏡に対しては誇りがある 漆器に対する思いはない
郷土愛が強い	—	○	
お国自慢	西山公園(つつじまつり、もみじまつり、道の駅、西山動物園、展望台からの風景)	—	○
	眼鏡産業、眼鏡工場、めがね会館(メガネミュージアム)	—	—
	漆器産業、うるしの里会館(越前漆器伝統産業会館)、河和田の街並みや工房	—	—
	市役所の取組(めがねのまち元気再生協議会、オープンデータ、JK 課)	—	—
	まなべの館(総合博物館)	—	—
	市民主役の良さ、提案型市民主役事業化制度、まちづくり応援団	—	—

第2章 鯖江市の人口動向

第2章 鯖江市の人口動向

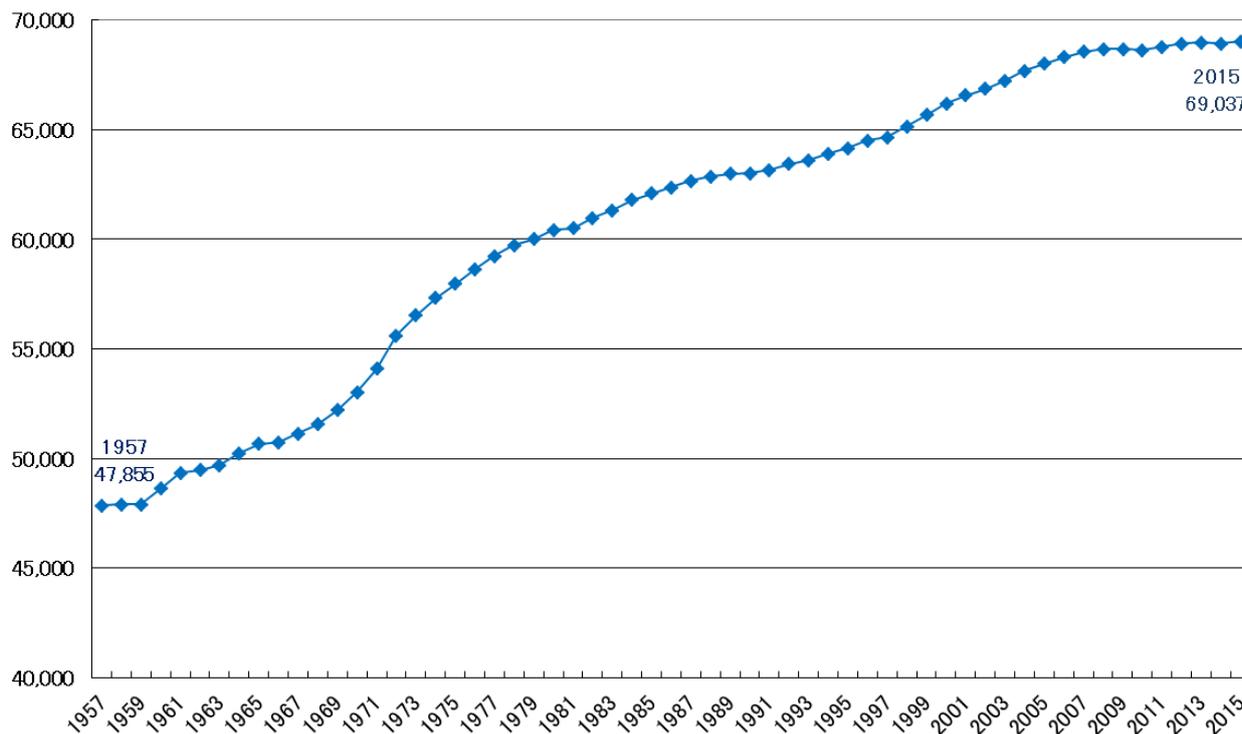
1. 人口動向の現状分析

(1) 総人口の推移

①総人口の長期推移

鯖江市では、市制施行以来、ほぼ順調に人口増加が続いてきたが、平成19年（2007年）以降から現在に至るまでほぼ横ばいとなっている。

図表 2-1 鯖江市の人口推移（単位：人）



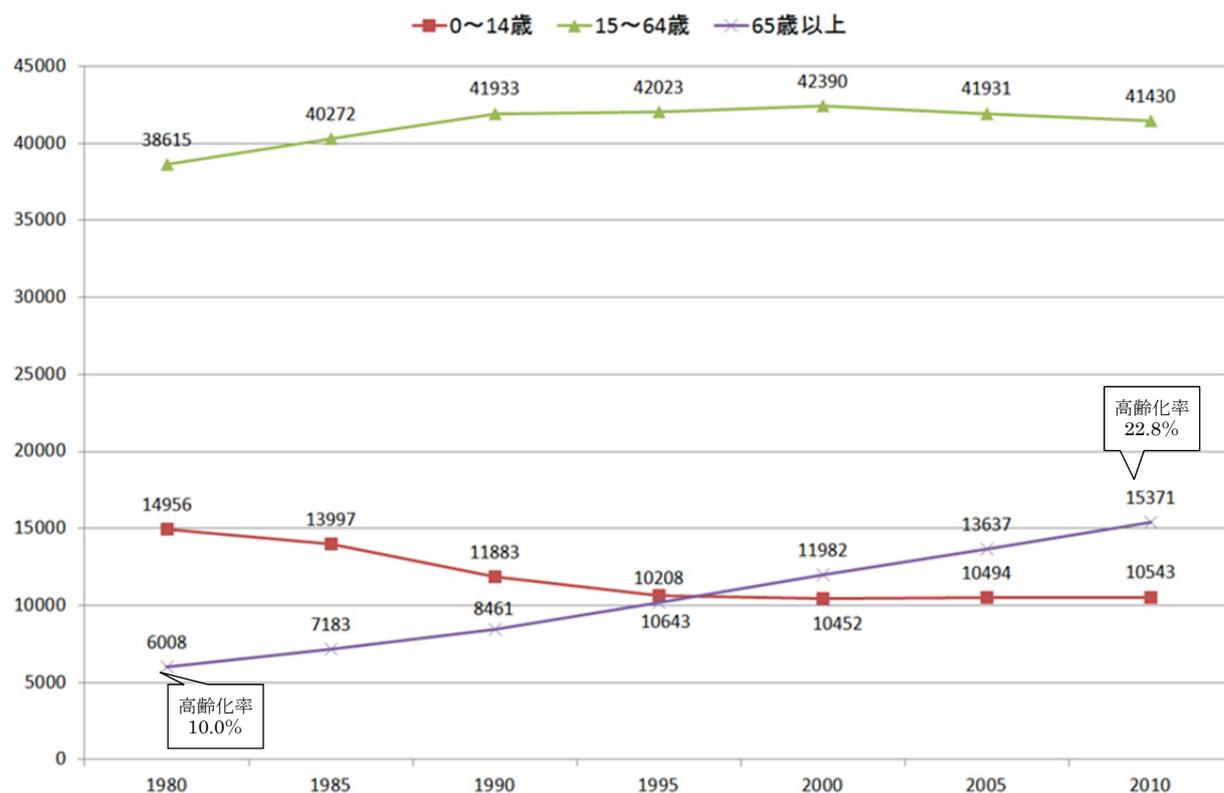
（出所）住民基本台帳人口（毎年10月1日時点）

②年齢区分別推移

また、人口を年齢区分別に見ると、年少人口（0歳～14歳）については、国の傾向と同様に、昭和46～49年（1971～1974年）にはいわゆる「団塊ジュニア世代（第二次ベビーブーム世代）」の誕生により一時期増加傾向となったが、その後は長期的には減少傾向が続いている。

一方で、老年人口（65歳以上）は、生産年齢人口（15～64歳）世代が順次老年期に入り、また、平均寿命が延びたことから、一貫して増加を続け、2000年代には年少人口数を上回り、平成22年（2010年）の高齢化率（総人口に占める老年人口の割合）は22.8%に達している。生産年齢人口は、平成12年（2000年）頃までは増加していたが、それ以降は減少し続けている。

図表 2-2 鯖江市の年齢3区分別の人口推移(単位:人)



(出所)総務省「国勢調査」

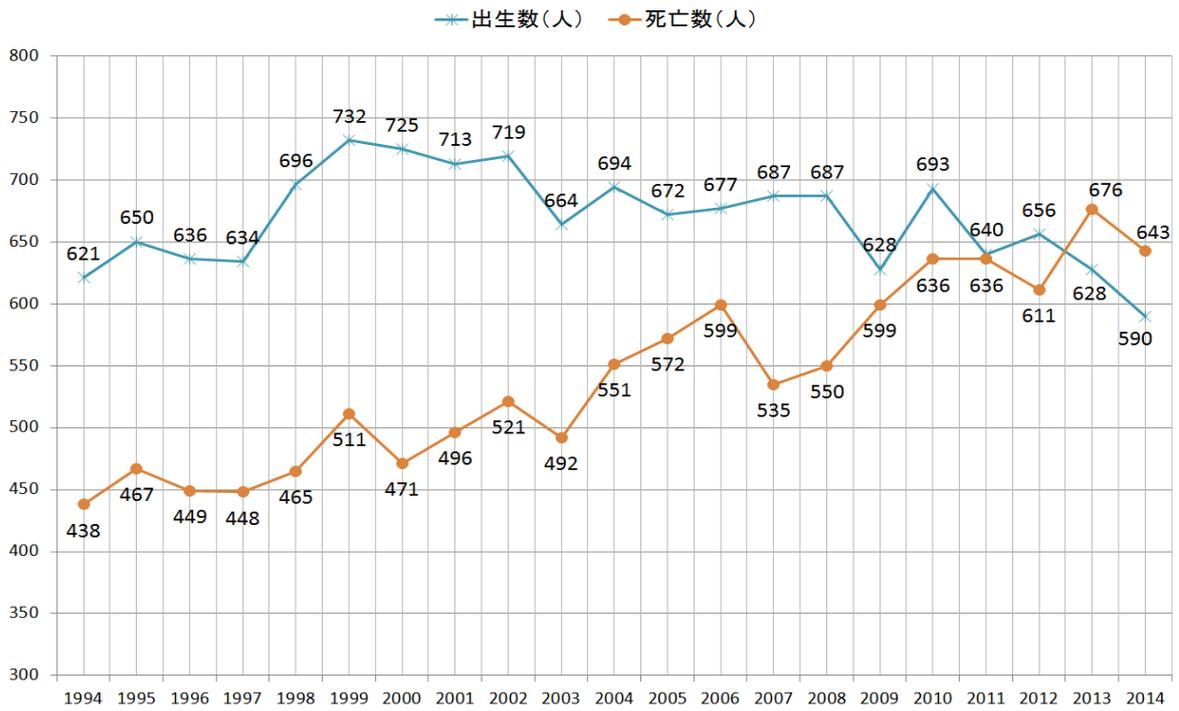
(2) 人口増減の推移

①自然増減

自然増減については、直近の平成 25 年（2013 年）と平成 26 年（2014 年）においては、死亡数が出生数を上回る自然減の状態となっている。

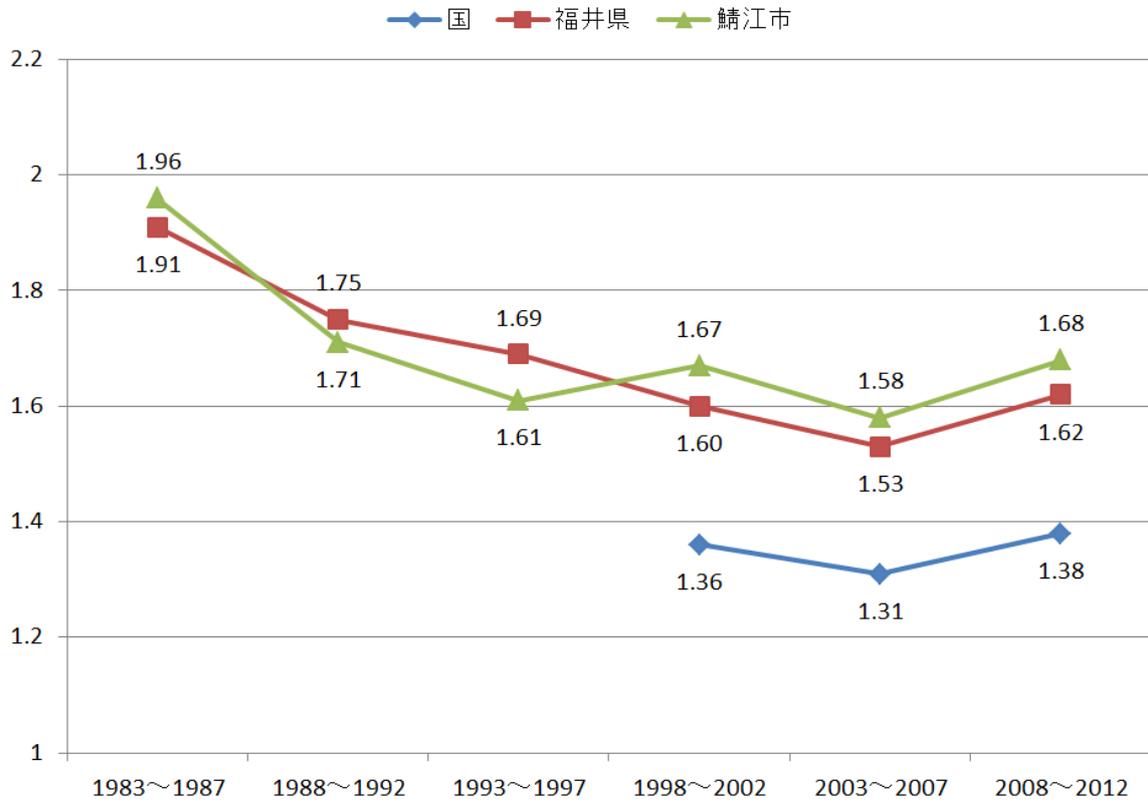
また、出生数に大きな影響を与える合計特殊出生率の推移をみると、鯖江市は 1.68（平成 20～24 年（2008～2012 年）の 5 ヶ年平均）と、国の 1.38 及び福井県の 1.62 を上回る、比較的高めの水準となっているものの、県内の他市町と比較すると、敦賀市、小浜市のほか高浜町、おおい町、若狭町よりも低く、また、長期的に人口を維持することができる水準（2.07：人口置換水準）には届いていない。

図表 2-3 鯖江市の出生・死亡の推移(単位:人)



(出所)総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

図表 2-4 国、福井県及び鯖江市における合計特殊出生率の推移



(出所)厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計」

図表 2-5 県内市町における合計特殊出生率

市区町村名	1998-2002 年	2003-2007 年	2008-2012 年
	平成 10～14 年	平成 15～19 年	平成 20～24 年
福井市		1.53	1.65
敦賀市	1.70	1.56	1.72
小浜市	1.72	1.63	1.77
大野市		1.57	1.49
勝山市	1.55	1.52	1.53
鯖江市	1.67	1.58	1.68
あわら市		1.38	1.42
越前市		1.50	1.54
坂井市		1.47	1.57
永平寺町		1.39	1.40
池田町	1.65	1.51	1.61
南越前町		1.59	1.58
越前町		1.53	1.60
美浜町	1.62	1.48	1.63
高浜町	2.03	1.66	1.76
おい町		1.69	1.94
若狭町		1.65	1.77

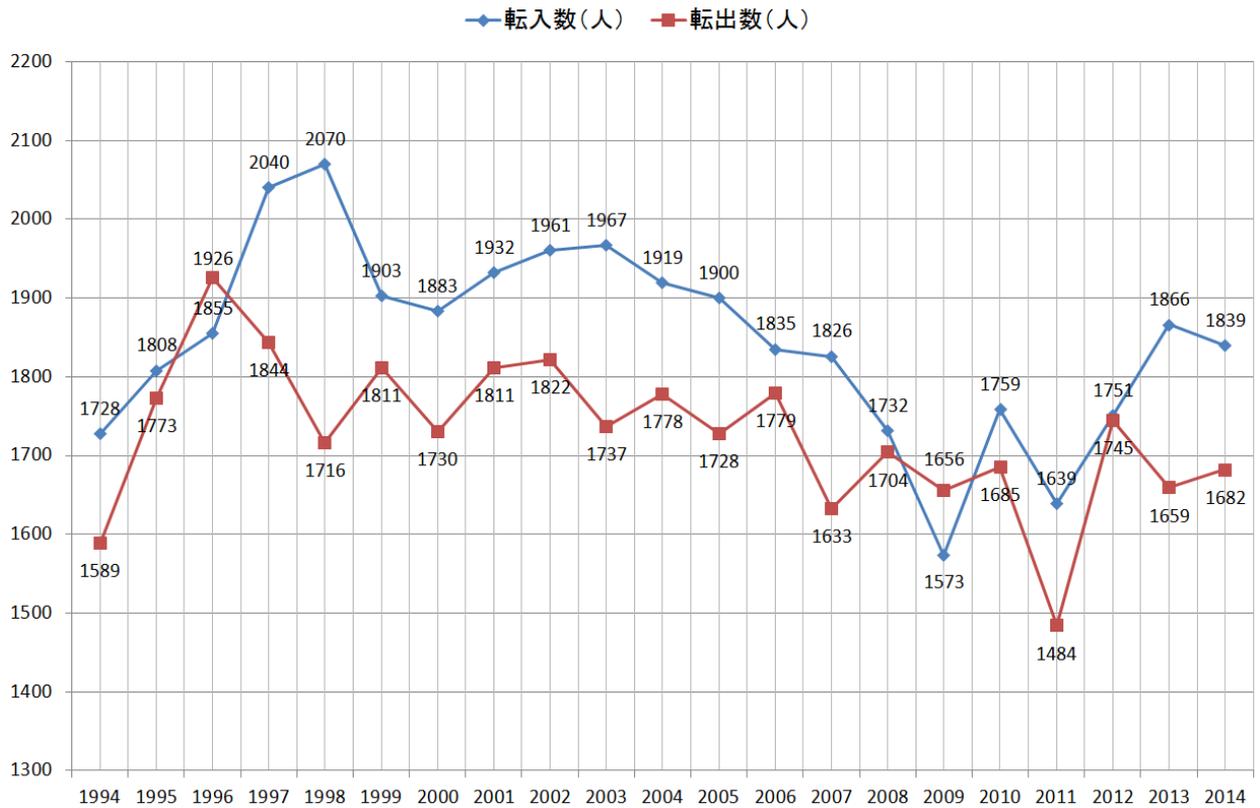
(出所)厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計」

(注)1998-2002 年の数値については、平成の合併等で合併しなかった市町のみ記載

②社会増減

社会増減については、転入数は平成 10 年（1998 年）の 2,070 人をピークに、転出数は平成 8 年（1996 年）の 1,926 人をピークに、転入数、転出数ともに減少傾向にある。近年では、平成 21 年（2009 年）は転出数が転入数を上回る「転出超過（社会減）」となっているが、基本的には、転入数が転出数を上回る「転入超過（社会増）」傾向が続いている。

図表 2-6 鯖江市の転入・転出の推移(単位:人)



(出所)総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

(3) 転入元・転出先別社会移動動向

① 転入元別転入数

平成 26 年（2014 年）の鯖江市への転入者総数は 1,587 人（日本人のみ）であり、都道府県で見ると福井県内からの転入が約 7 割を占めている。また、福井県内からの転入者数 1,091 人のうち、福井市と越前市が約 7 割を占めている。

県外からの転入で多いのは、愛知県、石川県、東京都、京都府、大阪府、兵庫県、富山県、滋賀県と、東京都のほか、中部・近畿一円に分布している。愛知県からの 75 人のうち名古屋市は 24 人であり、その他の愛知県内からの転入が 3 分の 2 を占めている。石川県からの 55 人のうち金沢市と加賀市が 33 人を、京都府からの 41 人のうち京都市が 30 人を占めており、隣接県の大きな都市からの転入が多いことがうかがえる。

図表 2-7 平成 26 年(2014 年)の鯖江市への転入元別転入数(年齢区分別)(単位:人)

都道府県別	総数	構成比	0~9 歳	10~19 歳	20~29 歳	30~39 歳	40~49 歳	50~59 歳	60 歳~
福井県	1,091	68.7%	150	60	367	290	112	53	58
愛知県	75	4.7%	3	10	37	12	6	3	4
石川県	55	3.5%	7	1	21	15	9	1	1
東京都	48	3.0%	7	4	15	10	6	4	2
京都府	41	2.6%	5	3	16	9	4	1	3
大阪府	39	2.5%	0	5	20	7	1	4	2
兵庫県	30	1.9%	1	0	13	6	2	2	6
富山県	27	1.7%	4	1	6	7	4	5	0
滋賀県	23	1.4%	3	2	7	3	7	1	0
埼玉県	16	1.0%	0	0	5	5	1	2	3
新潟県	14	0.9%	4	0	4	5	1	0	0
千葉県	12	0.8%	1	0	5	1	3	1	1
静岡県	12	0.8%	4	0	2	2	1	1	2
神奈川県	11	0.7%	1	1	5	2	0	1	1
北海道	10	0.6%	2	0	3	2	2	0	1
岐阜県	10	0.6%	0	1	9	0	0	0	0
三重県	10	0.6%	0	1	7	0	0	0	2
その他の都道府県	63	4.0%	6	5	23	12	14	3	0
合計	1,587	100.0%	198	94	565	388	173	82	86

政令指定都市等別	総数	構成比	0~9 歳	10~19 歳	20~29 歳	30~39 歳	40~49 歳	50~59 歳	60 歳~
東京都特別区	37	2.3%	6	2	10	9	5	3	2
京都市	30	1.9%	4	2	15	4	2	0	3
名古屋市	24	1.5%	2	1	12	4	4	0	1
大阪市	14	0.9%	0	0	8	3	0	2	1
神戸市	11	0.7%	0	0	7	2	0	1	1
その他の市区町村	1,471	92.7%	186	89	513	366	162	76	78
合計	1,587	100.0%	198	94	565	388	173	82	86

市町・区・特別区別	総数	構成比	0~9 歳	10~19 歳	20~29 歳	30~39 歳	40~49 歳	50~59 歳	60 歳~
福井市	432	27.2%	71	14	133	128	46	21	19
越前市	326	20.5%	36	27	117	68	38	16	24
越前町	122	7.7%	19	10	31	35	17	6	4
坂井市	49	3.1%	5	3	16	14	4	4	3
敦賀市	40	2.5%	9	1	13	12	2	2	1
南越前町	34	2.1%	3	3	15	12	1	0	0
愛知県豊川市	27	1.7%	0	8	16	3	0	0	0
石川県金沢市	22	1.4%	2	1	10	5	4	0	0
大野市	18	1.1%	0	0	11	4	0	2	1
あわら市	18	1.1%	2	0	10	5	0	0	1
富山県富山市	16	1.0%	2	1	5	2	2	4	0
勝山市	16	1.0%	2	2	5	3	3	1	0
永平寺町	15	0.9%	2	0	6	3	1	0	3
石川県加賀市	11	0.7%	0	0	7	3	1	0	0
名古屋市千種区	10	0.6%	2	1	4	0	3	0	0
京都市伏見区	10	0.6%	2	0	6	1	0	0	1
その他の市区町村	421	26.5%	41	23	160	90	51	26	29
合計	1,587	100.0%	198	94	565	388	173	82	86

(出所)総務省「住民基本台帳人口移動報告」に基づき作成

②転出先別転出数

平成 26 年(2014 年)の鯖江市からの転出者総数は 1,512 人(日本人のみ)であり、都道府県で見ると福井県内への転出が約 6 割を占めている。また、福井県内への転出者数 905 人のうち、福井市と越前市が 7 割以上を占めている。

県外への転出で多いのは、東京都、石川県、大阪府、神奈川県、富山県、滋賀県など、東京都のほか、中部・近畿一円に分布している。石川県への79人のうち金沢市が53人を、大阪府への46人のうち大阪市が約半数の25人を、神奈川県の36人のうち横浜市と川崎市が26人を占めており、県外への転出先は大都市に集中していることがうかがえる。

図表 2-8 平成26年(2014年)の鯖江市への転出先別転出数(年齢区分別)(単位:人)

都道府県別	総数	構成比	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳～
福井県	905	59.9%	132	45	291	245	91	39	58
東京都	81	5.4%	4	9	50	12	3	3	0
石川県	79	5.2%	9	8	32	12	10	2	6
大阪府	46	3.0%	0	5	28	4	6	2	1
神奈川県	36	2.4%	0	6	20	2	2	1	5
富山県	35	2.3%	8	2	16	6	3	0	0
滋賀県	34	2.2%	5	3	9	11	3	0	3
京都府	28	1.9%	0	3	16	5	3	0	1
兵庫県	27	1.8%	3	4	16	2	2	0	0
千葉県	19	1.3%	0	3	9	2	2	0	3
埼玉県	13	0.9%	1	2	3	7	0	0	0
静岡県	12	0.8%	2	0	6	2	2	0	0
北海道	11	0.7%	1	0	5	2	3	0	0
三重県	11	0.7%	2	0	3	3	0	1	2
その他の都道府県	175	11.6%	18	23	85	23	11	6	9
合計	1,512	100.0%	185	113	589	338	141	54	88

政令指定都市等別	総数	構成比	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳～
東京都特別区	70	4.6%	4	8	43	10	2	3	0
名古屋市	29	1.9%	1	5	15	5	1	1	1
大阪市	25	1.7%	0	2	16	1	4	2	0
京都市	19	1.3%	0	0	13	2	3	0	1
横浜市	14	0.9%	0	1	10	0	1	0	2
川崎市	12	0.8%	0	3	7	1	0	0	1
神戸市	10	0.7%	0	2	8	0	0	0	0
その他の市区町村	1,333	88.2%	180	92	477	319	130	48	83
合計	1,512	100.0%	185	113	589	338	141	54	88

市町・区・特別区別	総数	構成比	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳～
福井市	431	28.5%	66	18	134	113	55	16	29
越前市	241	15.9%	27	18	74	71	17	13	21
金沢市	53	3.5%	7	5	24	7	5	1	4
坂井市	51	3.4%	10	4	12	16	5	2	2
敦賀市	39	2.6%	6	2	16	9	4	1	1
南越前町	20	1.3%	4	0	6	6	1	1	0
富山県富山市	18	1.2%	1	2	12	1	2	0	0
大野市	16	1.1%	3	1	5	5	1	1	0
愛知県豊川市	16	1.1%	0	4	11	1	0	0	0
あわら市	14	0.9%	2	0	5	3	2	1	1
永平寺町	11	0.7%	3	0	5	3	0	0	0
東京都杉並区	10	0.7%	1	1	6	2	0	0	0
その他の市区町村	592	39.2%	55	58	279	101	49	18	30
合計	1,512	100.0%	185	113	589	338	141	54	88

(出所)総務省「住民基本台帳人口移動報告」に基づき作成

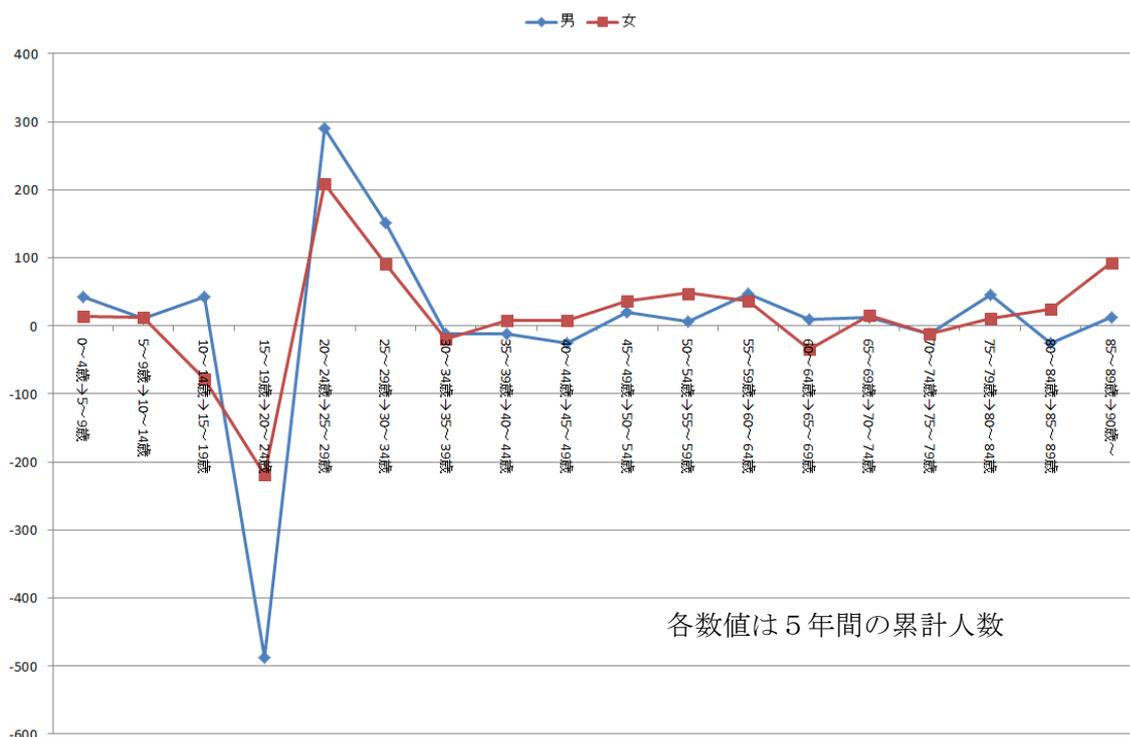
(4) 年齢階級別社会移動動向

鯖江市における5歳ごとの年齢階級別の純移動数（転入数から転出数を引いた数）をみると、15～19歳の年齢階層人口が5年後に大きな転出超過（社会減）となっていることがわかる。大学・短大等の進学時や卒業後の就職時に、東京圏をはじめとした県外に転出する若者が多いことが背景にあると考えられる。

一方、20～24歳及び25～29歳の年齢階層人口が5年後に大きく転入超過（社会増）となっている。しかしながら、20～29歳では県外との関係では転出超過（社会減）であることから、この転入超過（社会増）は、県内他市町からの転入者による影響が大きく、県外からのUターンやIターンによる若年世代の転入が影響しているものとは考えにくい。

また、データの年次が異なるが、平成26年（2014年）のデータをも、福井県内との間では10歳代～20歳代の転入超過が多い一方で、県外、特に東京都、石川県、新潟県との間での転出超過が目立っている。

図表 2-9 鯖江市における平成17年(2005年)から平成22年(2010年)にかけての純移動数(単位:人)



(出所)総務省「国勢調査」、総務省「住民基本台帳人口移動報告」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

図表 2-10 平成 26 年(2014 年)の鯖江市の相手先別純移動数(年齢区分別)(単位:人)

都道府県別	総数	0～9 歳	10～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60 歳～
福井県	186	18	15	76	45	21	14	0
愛知県	75	3	10	37	12	6	3	4
京都府	13	5	0	0	4	1	1	2
神奈川県	11	1	1	5	2	0	1	1
岐阜県	10	0	1	9	0	0	0	0
埼玉県	3	-1	-2	2	-2	1	2	3
兵庫県	3	-2	-4	-3	4	0	2	6
静岡県	0	2	0	-4	0	-1	1	2
北海道	-1	1	0	-2	0	-1	0	1
三重県	-1	-2	1	4	-3	0	-1	0
千葉県	-7	1	-3	-4	-1	1	1	-2
大阪府	-7	0	0	-8	3	-5	2	1
富山県	-8	-4	-1	-10	1	1	5	0
滋賀県	-11	-2	-1	-2	-8	4	1	-3
新潟県	-22	4	-6	-16	3	-1	-1	-5
石川県	-24	-2	-7	-11	3	-1	-1	-5
東京都	-33	3	-5	-35	-2	3	1	2
その他の都道府県	-112	-12	-18	-62	-11	3	-3	-9
合計	75	13	-19	-24	50	32	28	-2

政令指定都市等別	総数	0～9 歳	10～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60 歳～
京都市	11	4	2	2	2	-1	0	2
神戸市	1	0	-2	-1	2	0	1	1
名古屋市	-5	1	-4	-3	-1	3	-1	0
大阪市	-11	0	-2	-8	2	-4	0	1
川崎市	-12	0	-3	-7	-1	0	0	-1
横浜市	-14	0	-1	-10	0	-1	0	-2
東京都特別区	-33	2	-6	-33	-1	3	0	2
その他の市区町村	138	6	-3	36	47	32	28	-5
合計	75	13	-19	-24	50	32	28	-2

市町・区・特別区別	総数	0～9 歳	10～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60 歳～
越前町	122	19	10	31	35	17	6	4
越前市	85	9	9	43	-3	21	3	3
勝山市	16	2	2	5	3	3	1	0
南越前町	14	-1	3	9	6	0	-1	0
石川県加賀市	11	0	0	7	3	1	0	0
愛知県豊川市	11	0	4	5	2	0	0	0
名古屋市千種区	10	2	1	4	0	3	0	0
京都市伏見区	10	2	0	6	1	0	0	1
あわら市	4	0	0	5	2	-2	-1	0
永平寺町	4	-1	0	1	0	1	0	3
大野市	2	-3	-1	6	-1	-1	1	1
福井市	1	5	-4	-1	15	-9	5	-10
敦賀市	1	3	-1	-3	3	-2	1	0
富山県富山市	-2	1	-1	-7	1	0	4	0
坂井市	-2	-5	-1	4	-2	-1	2	1
杉並区	-10	-1	-1	-6	-2	0	0	0
石川県金沢市	-31	-5	-4	-14	-2	-1	-1	-4
その他の市区町村	-171	-14	-35	-119	-11	2	8	-1
合計	75	13	-19	-24	50	32	28	-2

(出所)総務省「2014 年 住民基本台帳人口移動報告」に基づき作成

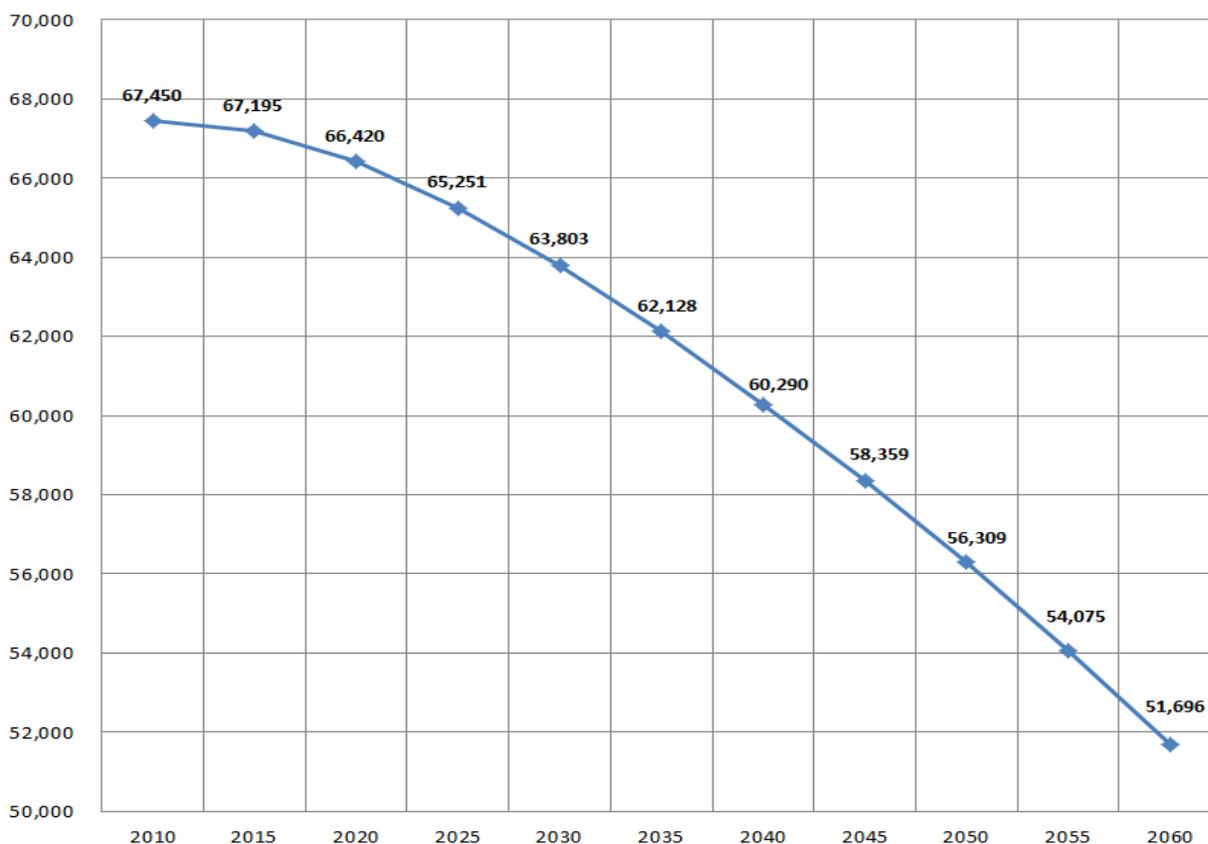
2. 人口の将来見通し

(1) 総人口及び年齢3区分別人口の将来推計

①総人口の推計

鯖江市の総人口は、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）「日本の地域別将来推計人口」に基づくまち・ひと・しごと創生本部の推計によれば、今後減少を続け、2060年には、約51,700人（2010年から約23%減少）になると推計されている。

図表 2-11 鯖江市の人口推計(単位:人)



(出所)社人研「日本の地域別将来推計人口」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

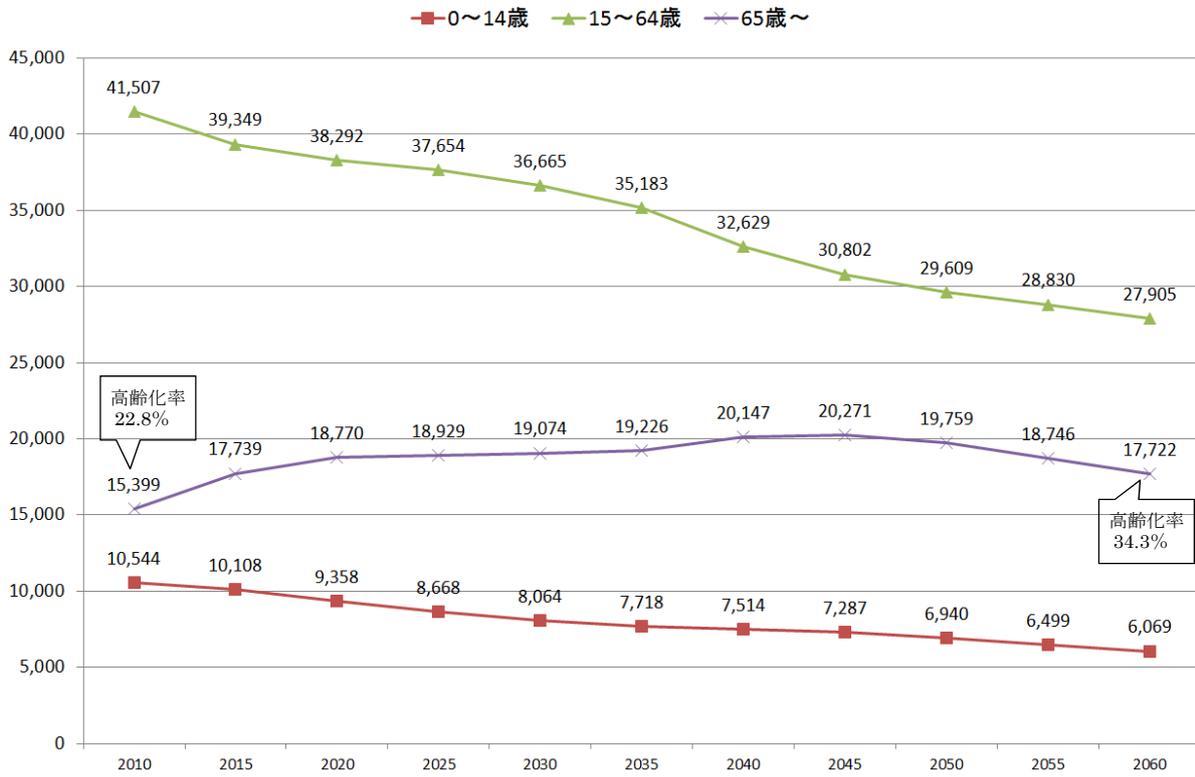
②年齢3区分別人口の推計

年齢階層別に見ると、年少人口及び生産年齢人口は大幅に減少し続けていく一方で、老年人口は、2040年頃まで増加し続け、結果として、2060年には高齢化率が約34%に達し、国と同様、鯖江市でも急速に少子・高齢化が進むこととなる。

③自然増減・社会増減の推計

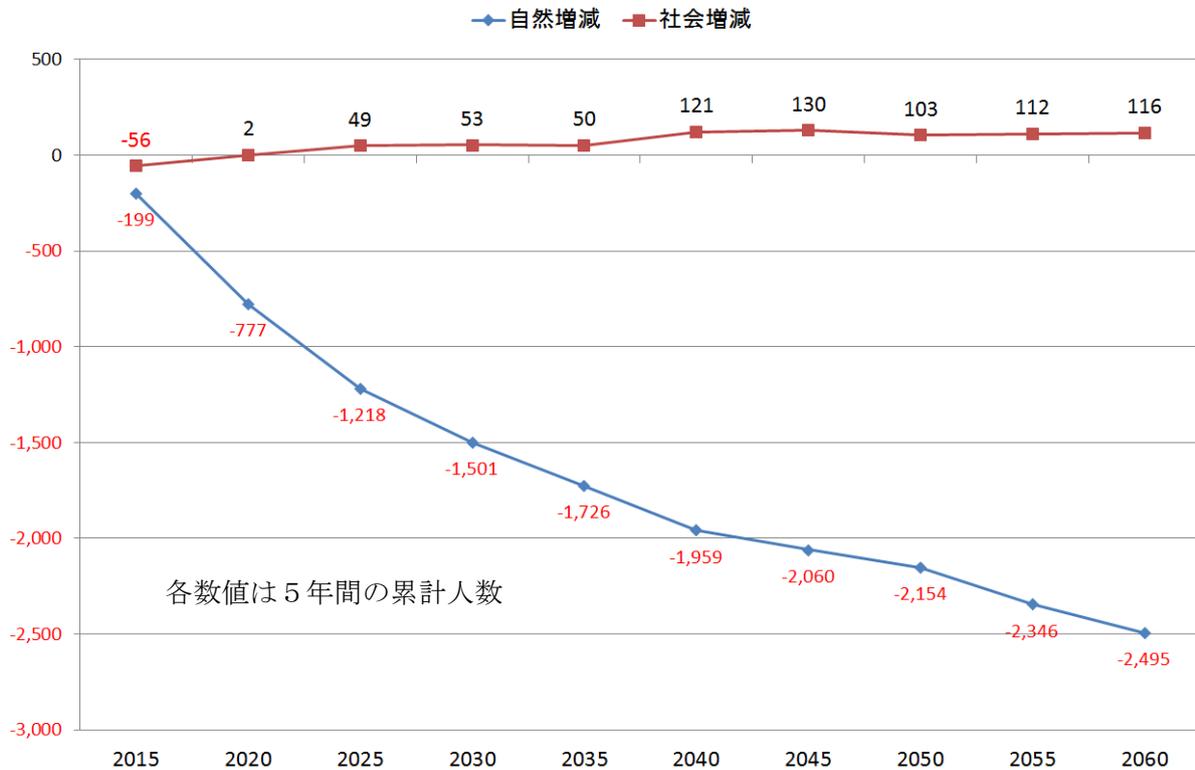
自然増減と社会増減に分けてみると、社会増減は2060年までやや増加で推移するが、自然増減については、出生数の減少と死亡数の増加がともに進んでいくため、自然減の減少幅が大幅に拡大していくこととなる。

図表 2-12 鯖江市の年齢3区分別人口推計(単位:人)



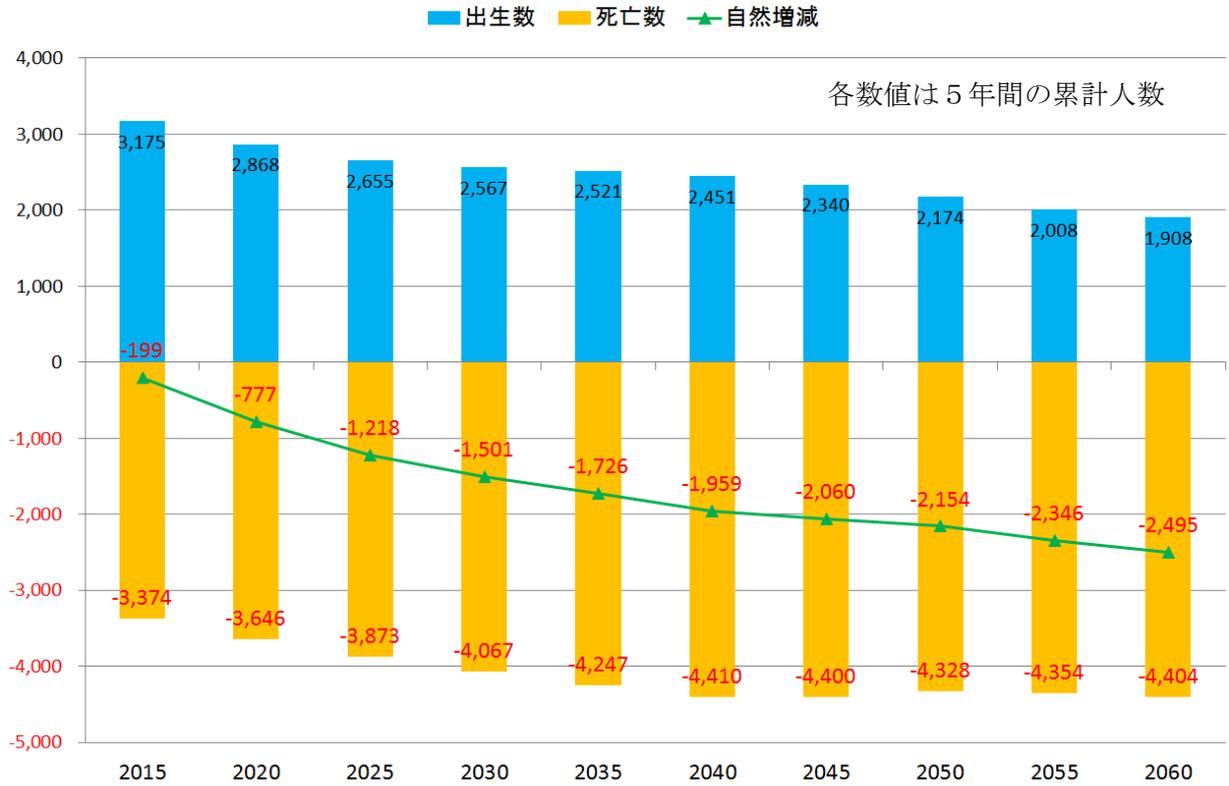
(出所) 社人研「日本の地域別将来推計人口」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

図表 2-13 鯖江市の自然増減・社会増減の推計(単位:人)



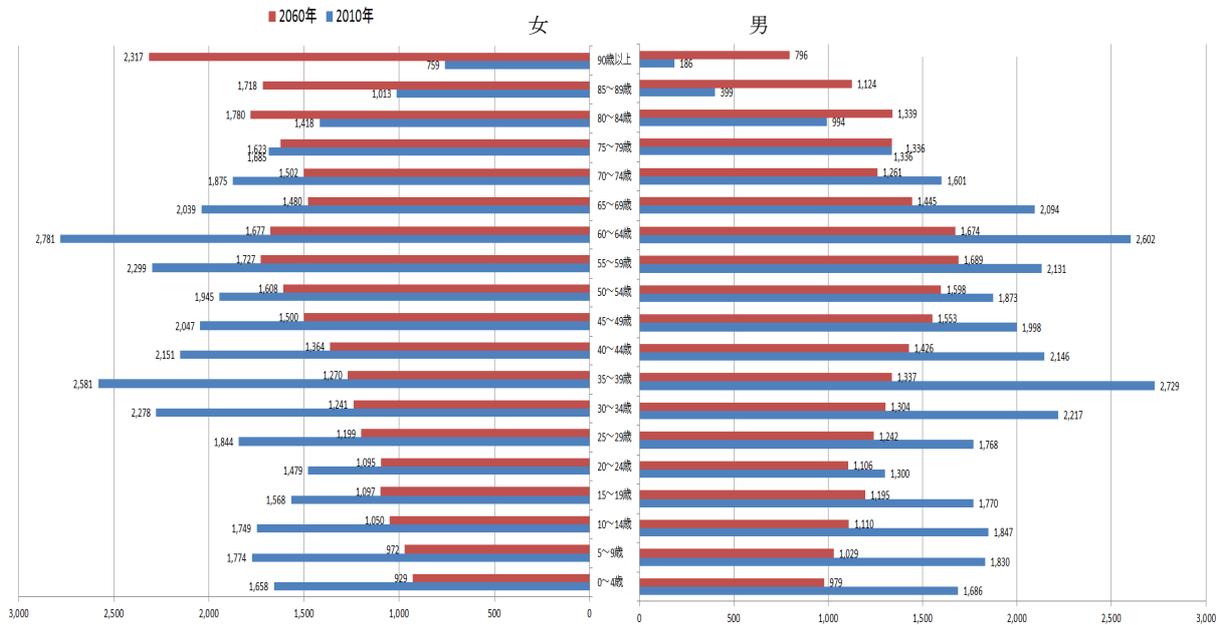
(出所) 社人研「日本の地域別将来推計人口」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

図表 2-14 鯖江市の出生数・死亡数の推計(単位:人)



(出所)社人研「日本の地域別将来推計人口」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

図表 2-15 鯖江市の人口ピラミッドの推移(単位:人)



(出所)社人研「日本の地域別将来推計人口」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

(2) 人口の変化が将来に与える影響

以上で分析してきたように、鯖江市の人口は、将来的には、社会増減についてはやや増加傾向で推移するものの、若者を中心とした県外への転出超過（社会減）が多く、特に、15～19歳の年齢階層人口が大きな転出超過（社会減）となる状況が今後も続いていくものとみられる。

その結果、出生数に影響を与える（子どもを産み、育ててくれる）母親世代人口（15～49歳の女性）についてはやや社会減で推移することが見込まれ、こうした影響等により、出生数の減少が続くとともに、老年人口の増加に伴い死亡数の増加が続くことから、大幅な自然減が進んでいく見通しである。

また、2060年の鯖江市の総人口は約51,700人まで減少すると推計されているが、このような人口減少は経済や財政面で大きな影響を与えることとなる。人口、特に労働力である生産年齢人口の急激な減少は地方経済や消費市場を縮小させ、商業施設等の民間施設の撤退などが懸念される。また、財政面では、人口減少により税収が減少する一方で、市民一人当たりの生活インフラの維持管理コストが増大することや、高齢化の進行等によって医療・介護需要の増大により社会保障関係費が増大することが想定される。現在既に鯖江市の財政はひっ迫しており、将来的に余裕がある状況ではないことも踏まえると、このように、将来的な人口減少を放置しておくことは、市民生活に重大な影響を及ぼすことになるものと予想される。

第3章 若年層の定住意向に関する概要把握

第3章 若年層の定住意向に関する概要把握

1. 若年層の一般的な居住地選択条件に関する意識調査の実施概要

(1) 実施要領と回収結果

①方法

マクロミル（インターネット調査会社）によるWEBアンケート方式により実施した。

②実施期間

2015年8月27日(木)～9月6日(日)

③対象及び回収結果

調査対象の年齢はすべて18歳～34歳の若年層とし、対象者の属性によって下記のとおりサンプル数を配分した。県内の大学生については元々のモニター登録者数が寡少のため回収目標数に届かなかった。

図表 3-1 回収結果

属性区分				目標数	回収数	不足分
1	県内の若者	大学生	県内他市町	40	23	-17
2	他県地方都市の若者	大学生	石川県金沢市	50	52	2
3	他県地方都市の若者	大学生	富山県富山市	25	26	1
4	都心の若者	大学生	東京都23区	100	103	3
5	県内の若者	社会人	鯖江市	35	35	0
6	県内の若者	社会人	県内他市町	150	155	5
7	他県地方都市の若者	社会人	石川県金沢市	100	103	3
8	他県地方都市の若者	社会人	富山県富山市	100	103	3
9	都心の若者	社会人	東京都23区	100	103	3
全体				700	703	3

④設問構成

設問は全7問とし、下記の構成により実施した。

図表 3-2 設問構成

番号	項目	回答方法
Q 1	住む地域を選択する条件の重要度	36項目*1について10点満点評価
Q 2	現在住んでいる地域への定住意向	意向の強さを10点満点で評価
Q 3	現在住んでいる地域	鯖江市、鯖江市以外の県内、金沢市、富山市、東京都23区から選択
Q 4	(県外居住者に対して) 福井県で暮らすことへの期待度	期待の強さを10点満点で評価
Q 5	(鯖江市以外の県内居住者に対して) 鯖江市で暮らすことへの期待度	期待の強さを10点満点で評価
Q 6	現在住んでいる地域から転居することのきっかけとなる条件の重要度	36項目*2から5項目まで選択
Q 7	居住地を選択する際の決め手となりうる行政サービス等の重要度	12項目*3について10点満点評価

(注) *1、*2及び*3については図表3-3、図表3-4及び図表3-5を参照のこと。

図表 3-3 居住地を選択する際の条件の一覧(36項目)

番号	条件
①	手頃な家賃、広さ、間取りの住宅が見つかりやすい
②	地域の祭りや催事が盛んである
③	頼りがいのある近所づきあいがある
④	大学、予備校、専修学校、専門学校などに通いやすい
⑤	図書館、美術館・博物館等を利用しやすい
⑥	スポーツ施設・広場を利用しやすい
⑦	音楽や演劇等のイベントが楽しめるところが多い
⑧	繁華街など飲食が楽しめるところが多い
⑨	買い物を楽しめるところが多い
⑩	遊べる場所の選択肢が多い
⑪	希望の職種で通える就職先（バイト先）が見つかりやすい
⑫	希望する収入を得られる就職先（バイト先）が見つかりやすい
⑬	休暇をとりやすい就職先（バイト先）が見つかりやすい
⑭	農業や水産業などに関係する仕事（バイト）が見つかりやすい
⑮	地場産業や伝統産業に関係する仕事（バイト）が見つかりやすい
⑯	医療施設（病院・診療所・歯科など）が利用しやすい
⑰	子育てがしやすい
⑱	台風・地震・津波等の自然災害の心配が少ない
⑲	治安がよい
⑳	火災や交通事故が少ない
㉑	気候がよい
㉒	緑が多い
㉓	水や空気がおいしい
㉔	ごみごみした様子がなく清潔感がある
㉕	悪臭や騒音などの公害が少ない
㉖	新幹線や空港が利用しやすい
㉗	電車やバスが利用しやすい
㉘	高速道路が利用しやすい
㉙	ブランドイメージがある
㉚	歴史や伝統を感じられる街並みがある
㉛	ファッションブルでおしゃれな雰囲気がある
㉜	若者が活躍している
㉝	行政が信頼できる
㉞	観光地である
㉟	親しい友人や趣味の仲間達と活動しやすい
㊱	親元と往来しやすい、または親と同居できる

図表 3-4 現在住んでいる地域から転居することのきっかけとなる条件の一覧(36項目)

番号	条件
①	手頃な家賃、広さ、間取りの住宅が見つからない
②	地域の祭りや催事がない
③	頼りがいのある近所づきあいが無い
④	大学、予備校、専修学校、専門学校などに通にくい
⑤	図書館、美術館・博物館等を利用しにくい
⑥	スポーツ施設・広場を利用しにくい
⑦	音楽や演劇等のイベントが楽しめるところが少ない
⑧	飲食が楽しめる繁華街が少ない
⑨	買い物を楽しめるところが少ない
⑩	遊べる場所の選択肢が少ない
⑪	希望の職種で通える就職先(バイト先)が見つかりにくい
⑫	希望する収入を得られる就職先(バイト先)が見つかりにくい
⑬	休暇をとりやすい就職先(バイト先)が見つかりにくい
⑭	農業や水産業などに関係する仕事(バイト)が見つかりにくい
⑮	地場産業や伝統産業に関係する仕事(バイト)が見つかりにくい
⑯	医療施設(病院・診療所・歯科など)が利用しにくい
⑰	子育てがしにくい
⑱	台風・地震・津波等の自然災害の心配がある
⑲	治安が悪い
⑳	火災や交通事故が多い
㉑	気候がよくない
㉒	緑が少ない
㉓	水や空気がおいしくない
㉔	ごみごみした様子で清潔感がない
㉕	悪臭や騒音などの公害が多い
㉖	新幹線や空港が利用しにくい
㉗	電車やバスが利用しにくい
㉘	高速道路が利用しにくい
㉙	ブランドイメージがない
㉚	歴史や伝統を感じられる街並みが少ない
㉛	ファッションブルでおしゃれな雰囲気が少ない
㉜	若者が活躍しにくい
㉝	行政が信頼できない
㉞	観光地がない
㉟	親しい友人や趣味の仲間達と活動しにくい
㊱	親元と往来しにくい、または親と同居できない

図表 3-5 居住地を選択する際の決め手となりうる行政サービス等の一覧(12項目)

番号	行政サービス等の内容
①	転入した際に給付される奨励金制度がある
②	充実した空き家情報が提供されている
③	住宅のリフォーム費用に対する助成金制度がある
④	転入に向けての親切丁寧な相談体制が整っている
⑤	転入後に起業するにあたっての低利子融資制度がある
⑥	婚活サポート体制がしっかりしている
⑦	地域コミュニティに溶け込むためのケアがしっかりしている
⑧	出産や子育てに対する支援制度がしっかりしている
⑨	その地域(自治体)での暮らしを一時的に体験する“お試し転居”ができる
⑩	若年層の転入者に対する家賃補助制度がある
⑪	その地域(自治体)での仕事体験ができるインターンシップ制度がある
⑫	就職した後にも大学の講座や専門学校等に通学するための奨学金制度が受けられる

(2) 分析の視点

①若年層の一般的な居住地選択条件に関する意識

- Q 1（住む地域を選択する条件の重要度）の単純集計
- Q 6（現在住んでいる地域から転居することのきっかけとなる条件の重要度）の単純集計
- Q 7（居住地を選択する際の決め手となりうる行政サービス等の重要度）の単純集計
- 上記Q 1、Q 6、Q 7について、性別、年齢別、未既婚、子の有無、居住地によるクロス集計
- Q 1（住む地域を選択する条件の重要度）の回答パターンに基づく因子分析

なお、「因子分析」とは、個々の回答結果にみられる潜在的な共通性を発見するための「多変量解析」という統計手法の一つである。

共通性は「因子」と表現される。その数値は「因子負荷量」と称し、それぞれの「因子」とのかかわり方の強さを示している。したがって、それぞれの因子に対応する因子負荷量大きいものは共通性が強いとみなされる。

②定住意向を決定づける居住地の条件

- Q 2（現在住んでいる地域への定住意向）を被説明変数とし、Q 1（住む地域を選択する条件の重要度）を説明変数とする重回帰分析
- 上記について、全サンプル、北陸在住者サンプル、東京在住者サンプルに分けた分析

なお、「重回帰分析」とは、ある回答結果（数値）をそれとは別の複数の回答結果（数値）の組み合わせによって説明させる「多変量解析」という統計手法の一つである。

個々の回答者の回答結果から共通性を見つけ出し、できるだけ同じ計算式で説明できるようにする方法である。例えば、「定住意向」の強さ（1～10点）は、居住地選択条件36項目それぞれに対する重要度評価（1～10点）の“意思の組み合わせ”として得られたものであると考える。この場合「定住意向」を「被説明変数（説明される側）」、居住地選択条件36項目を「説明変数（説明する側）」と呼ぶ。説明変数の組み合わせは、個々の説明変数に対して「相関係数」という数値が乗じられ、さらに「切片」という定数が加算された計算式として表現される。

$$\text{定住意向の点数} = (a \times \text{居住地選択条件1の点数}) + (b \times \text{居住地選択条件2の点数}) + (c \times \text{居住地選択条件3の点数}) + \dots + Z (\text{定数})$$

したがって、相関係数（上式ではa、b、c等）が大きければ大きいほど、定住意向の点数に対する影響が強いということになる。なお、表に示されていない項目は、定住意向に対する影響の仕方について個々の回答における共通性が見られず、説明変数としての影響力がないものとみなされたということになる。

③福井県で暮らすことへの期待感を決定づける居住地の条件

- Q 4（福井県で暮らすことへの期待度）を被説明変数とし、Q 1（住む地域を選択する条件の重要度）を説明変数とする重回帰分析
- 福井県外在住者全サンプル、金沢市・富山市在住者サンプル、東京都 23 区在住者サンプルに分けた分析

④鯖江市で暮らすことへの期待感を決定づける居住地の条件

- Q 5（鯖江市で暮らすことへの期待度）を被説明変数とし、Q 1（住む地域を選択する条件の重要度）を説明変数とする重回帰分析
- 鯖江市以外の福井県内在住者サンプルを対象にした分析

⑤福井県で暮らすことへの期待感を決定づける行政サービス等

- Q 4（福井県で暮らすことへの期待度）を被説明変数とし、Q 7（居住地を選択する際の決め手となりうる行政サービス等の重要度）を説明変数とする重回帰分析
- 福井県外在住者全サンプル、金沢市・富山市在住者サンプル、東京都 23 区在住者サンプルに分けた分析

⑥鯖江市で暮らすことへの期待感を決定づける行政サービス等

- Q 5（鯖江市で暮らすことへの期待度）を被説明変数とし、Q 7（居住地を選択する際の決め手となりうる行政サービス等の重要度）を説明変数とする重回帰分析
- 鯖江市以外の福井県内在住者サンプルを対象にした分析

2. 分析結果の概要

(1) 若年層の一般的な居住地選択条件に関する意識

① 因子分析による居住地選択条件（36項目）の分類

全サンプルを対象とした「因子分析」により、36項目の居住地選択条件は「因子1」～「因子4」の4つに分類し、共通性が強いとみなされた各項目の内容傾向をみて4つの「因子」を「穏やかで不安のない自然環境豊かなまちの条件」などと表現した。

なお、「①手頃な家賃、広さ、間取りの住宅が見つかりやすい」と「④大学、予備校、専修学校、専門学校などに通いやすい」については、いずれの因子とも明確な共通性がない条件となった。これらについては、すべての分類に共通する「基本的条件群」であるとみなして、以下の分析を進めることとする。

図表 3-6 居住地を選択する際の条件(36項目)の分類(因子分析による)

居住地選択条件	因子1	因子2	因子3	因子4
ごみごみした様子がなく清潔感がある	0.828	0.166	0.086	0.022
悪臭や騒音などの公害が少ない	0.808	-0.022	0.110	0.147
治安がよい	0.768	-0.099	0.111	0.250
水や空気がおいしい	0.761	0.355	-0.025	-0.018
台風・地震・津波等の自然災害の心配が少ない	0.724	0.061	0.117	0.203
火災や交通事故が少ない	0.711	0.088	0.193	0.215
緑が多い	0.653	0.427	0.011	-0.040
気候がよい	0.622	0.121	0.252	0.303
子育てがしやすい	0.502	0.338	0.090	0.181
医療施設(病院・診療所・歯科など)が利用しやすい	0.485	0.162	0.230	0.367
親元と往来しやすい、または親と同居できる	0.439	0.220	0.195	0.104
地場産業や伝統産業に関係する仕事(バイト)が見つかりやすい	0.041	0.805	0.034	0.115
農業や水産業などに関係する仕事(バイト)が見つかりやすい	0.012	0.789	0.027	0.093
地域の祭りや催事が盛んである	0.029	0.696	0.109	-0.120
歴史や伝統を感じられる街並みがある	0.146	0.642	0.425	-0.075
スポーツ施設・広場を利用しやすい	0.221	0.610	0.109	0.173
観光地である	0.084	0.585	0.513	-0.060
音楽や演劇等のイベントが楽しめるところが多い	0.088	0.553	0.345	0.296
図書館、美術館・博物館等を利用しやすい	0.189	0.546	0.088	0.181
頼りがいのある近所づきあいがある	0.207	0.528	0.162	0.099
高速道路が利用しやすい	0.252	0.475	0.337	0.054
ファッションブルでおしゃれな雰囲気がある	0.119	0.290	0.772	0.170
ブランドイメージがある	-0.014	0.423	0.658	-0.049
若者が活躍している	0.143	0.388	0.637	0.269
繁華街など飲食が楽しめるところが多い	0.087	0.101	0.584	0.458
買い物を楽しめるところが多い	0.171	-0.043	0.582	0.543
遊べる場所の選択肢が多い	0.198	0.016	0.573	0.521
新幹線や空港が利用しやすい	0.239	0.263	0.498	0.224
電車やバスが利用しやすい	0.209	-0.087	0.488	0.298
親しい友人や趣味の仲間達と活動しやすい	0.336	0.189	0.457	0.333
行政が信頼できる	0.406	0.216	0.417	0.329
希望する収入を得られる就職先(バイト先)が見つかりやすい	0.170	0.110	0.162	0.861
希望の職種で通える就職先(バイト先)が見つかりやすい	0.192	0.108	0.162	0.827
休暇をとりやすい就職先(バイト先)が見つかりやすい	0.261	0.218	0.186	0.744
大学、予備校、専修学校、専門学校などに通いやすい	0.105	0.164	0.220	0.299
手頃な家賃、広さ、間取りの住宅が見つかりやすい	0.320	-0.141	0.110	0.342

「因子1」

穏やかで不安のない
自然環境豊かなまちの条件

「因子2」

歴史や伝統、文化を誇りに感じるこ
とができ、人のつながりが強い
まちの条件

「因子3」

おしゃれで便利で
にぎやかな若々しいまちの条件

「因子4」仕事が見つかりやすいまちの条件

学校に通いやすい/住宅が見つかりやす
い(基本的条件群)

② Q1（住む地域を選択する条件の重要度）の集計結果分析

住む地域を選択する条件の重要度を聞いたQ1では、サンプル全体で平均点が7点（10点満点）を超えた項目は以下の8項目である。

そのうち、「手頃な家賃、広さ、間取りの住宅が見つかりやすい」は「基本的条件群」の一つに該当し、その他の項目はすべて「穏やかで不安のない自然環境豊かなまちの条件」（因子1）に該当する。この結果より、若年層がこうした志向を強くもっていることがうかがえる。

図表 3-7 居住地を選択する際の条件(36項目)のうち平均点が7点以上のもの

番号	条件	点数
①	手頃な家賃、広さ、間取りの住宅が見つかりやすい	7.5
⑯	医療施設（病院・診療所・歯科など）が利用しやすい	7.0
⑱	台風・地震・津波等の自然災害の心配が少ない	7.3
⑲	治安がよい	8.1
⑳	火災や交通事故が少ない	7.2
㉓	水や空気がおいしい	7.1
㉔	ごみごみした様子がなく清潔感がある	7.3
㉕	悪臭や騒音などの公害が少ない	7.8

北陸在住者だけでみると、上記8項目のほか「緑が多い」が7点を超えているが、これも同じく「穏やかで不安のない自然環境豊かなまちの条件」に該当するものである。

東京23区在住者だけでみると、「電車やバスが利用しやすい」が7点以上の項目として挙がっている一方で、「緑が多い」「水や空気がおいしい」「ごみごみした様子がなく清潔感がある」が7点を下回っているのが特徴である。東京都23区在住の若年層も基本的には「穏やかで不安のない自然環境豊かなまちの条件」を重視する傾向をもつようだが、自然を求める意識が若干弱く、便利さを求める意識が若干強いという違いがうかがえる。

なお、居住地選択条件の評価について、性別、年齢別、未既婚、子の有無等の属性による回答傾向の明確な違いはみられなかった。

図表 3-8 居住地を選択する際の条件(36項目)の平均点(居住地域別)

居住地選択条件(Q1)	全体	北陸	東京
手頃な家賃、広さ、間取りの住宅が見つかりやすい	7.5	7.5	7.6
地域の祭りや催事が盛んである	4.1	4.1	4.2
頼りがいのある近所づきあいがある	4.7	4.7	4.7
大学、予備校、専修学校、専門学校などに通いやすい	6.0	5.8	6.5
図書館、美術館・博物館等を利用しやすい	5.4	5.4	5.3
スポーツ施設・広場を利用しやすい	5.0	5.0	4.8
音楽や演劇等のイベントが楽しめるところが多い	4.7	4.8	4.5
繁華街など飲食が楽しめるところが多い	5.7	5.6	5.9
買い物を楽しめるところが多い	6.3	6.2	6.6
遊べる場所の選択肢が多い	6.0	6.0	6.2
希望の職種で通える就職先(バイト先)が見つかりやすい	6.4	6.5	6.3
希望する収入を得られる就職先(バイト先)が見つかりやすい	6.3	6.4	6.1
休暇をとりやすい就職先(バイト先)が見つかりやすい	6.2	6.3	5.7
農業や水産業などに関係する仕事(バイト)が見つかりやすい	3.8	4.0	3.5
地場産業や伝統産業に関係する仕事(バイト)が見つかりやすい	4.0	4.1	3.7
医療施設(病院・診療所・歯科など)が利用しやすい	7.0	7.0	7.0
子育てがしやすい	6.6	6.9	5.9
台風・地震・津波等の自然災害の心配が少ない	7.3	7.4	7.1
治安がよい	8.1	8.1	8.0
火災や交通事故が少ない	7.2	7.2	7.0
気候がよい	6.8	6.9	6.6
緑が多い	6.7	7.1	5.9
水や空気がおいしい	7.1	7.6	5.8
ごみごみした様子がなく清潔感がある	7.3	7.5	6.6
悪臭や騒音などの公害が少ない	7.8	7.9	7.3
新幹線や空港が利用しやすい	5.5	5.4	5.5
電車やバスが利用しやすい	6.8	6.3	8.0
高速道路が利用しやすい	5.4	5.7	4.8
ブランドイメージがある	4.3	4.1	4.7
歴史や伝統を感じられる街並みがある	4.9	4.9	4.7
ファッションブルでおしゃれな雰囲気がある	4.8	4.7	5.2
若者が活躍している	4.9	4.9	4.9
行政が信頼できる	5.9	6.0	5.9
観光地である	4.4	4.5	4.0
親しい友人や趣味の仲間達と活動しやすい	6.0	6.1	5.9
親元と往来しやすい、または親と同居できる	6.4	6.5	6.2

② Q6（現在住んでいる地域から転居することのきっかけとなる条件の重要度）の集計結果分析

現在住んでいる地域から転居することのきっかけとなる条件の重要度を聞いたQ6では、サンプル全体で回答率が10%を超えた項目は以下の11項目である。

これらの項目を居住地選択条件（Q1）の結果と比べると、居住地選択条件としては上位になかった「仕事がみつけやすいまちの条件」と「おしゃれで便利でにぎやかな若々しいまちの条件」に該当する項目群が入っている点が注目される。

ここで着目したいのは、「住む地域を選択する条件」としては上位に挙がらなかったいくつかの項目がここでは上位に挙がっていることである。

若年層にとって、穏やかさ、安心感、自然環境等に係る条件は住む地域を選択する際の“こういうまちに住みたいと思える条件”であり、かつ“これがなければ住むことを決められないと考える条件”、すなわち“理想的条件”であるが、通学、仕事、交通、買い物の便利さなどは“こういうまちに住みたいと思える条件”とは言えないが“これがなければ住むことを決められないと考える条件”、すなわち“現実的条件”ではあると解することができよう。

今後の施策を講じる上では、“理想的条件”、“現実的条件”に係る市内の事実情報を効果的にイメージアップするとともに、“理想的条件”については生活環境の基本としてベーシックな施策を立案、展開し、“現実的条件”については鯖江市の特性を活かしたユニークな施策を立案、展開することが重要となる。

図表 3-9 現在住んでいる地域から転居することのきっかけとなる条件のうち回答率が10%以上のもの

番号	条件	点数
①	手頃な家賃、広さ、間取りの住宅が見つからない	26.6
④	大学、予備校、専修学校、専門学校などに通いにくい	13.1
⑨	買い物を楽しめるところが少ない	12.7
⑪	希望の職種で通える就職先（バイト先）がみつきにくい	26.0
⑫	希望する収入を得られる就職先（バイト先）がみつきにくい	19.1
⑰	子育てがしにくい	16.6
⑱	台風・地震・津波等の自然災害の心配がある	11.2
⑲	治安が悪い	25.0
⑳	悪臭や騒音などの公害が多い	12.8
㉑	電車やバスが利用しにくい	15.9
㉒	親元と往来しにくい、または親と同居できない	15.6

また、ここで「子育てがしにくい」が居住地を問わず上位に挙がったことから、これも重要な“現実的条件”の一つとして認識すべきであろう。

北陸在住者だけでみると、「遊べる場所の選択肢が少ない」が回答率10%を超えた条件として挙がってくる。都市的利便性への欲求が転出を促す強い要因の一つになっていることがうかがえる。

東京都 23 区在住者だけでみると、買い物や遊びの回答率が 10%未満であるのに対して、「水や空気がおいしくない」が 10%を超えている。このことから、転出のきっかけとなりうる条件として選択された項目は、現在不満、不足を感じている項目に一致するということが推測できよう。

なお、転出のきっかけとなりうる条件の評価について、性別、年齢別、未婚、子の有無等の属性による回答傾向の明確な違いはみられなかった。

図表 3-10 現在住んでいる地域から転居することのきっかけとなる条件の回答率(%) (居住地域別)

転出のきっかけとなりうる条件(Q6)	全体	北陸	東京
手頃な家賃、広さ、間取りの住宅が見つからない	26.6	24.9	30.6
地域の祭りや催事がない	1.4	1.6	1.0
頼りがいのある近所づきあいがいい	4.3	4.0	4.9
大学、予備校、専修学校、専門学校などに通いにくい	13.1	11.9	16.0
図書館、美術館・博物館等を利用しにくい	3.0	3.0	2.9
スポーツ施設・広場を利用しにくい	1.3	1.6	0.5
音楽や演劇等のイベントが楽しめるところが少ない	4.7	6.2	1.0
飲食が楽しめる繁華街が少ない	7.7	8.5	5.8
買い物を楽しめるところが少ない	12.7	14.5	8.3
遊べる場所の選択肢が少ない	9.4	11.9	3.4
希望の職種で通える就職先(バイト先)が見つかりにくい	26.0	28.2	20.9
希望する収入を得られる就職先(バイト先)が見つかりにくい	19.1	20.9	14.6
休暇をとりやすい就職先(バイト先)が見つかりにくい	6.5	7.0	5.3
農業や水産業などに関係する仕事(バイト)が見つかりにくい	0.6	0.6	0.5
地場産業や伝統産業に関係する仕事(バイト)が見つかりにくい	1.3	1.4	1.0
医療施設(病院・診療所・歯科など)が利用しにくい	8.5	9.1	7.3
子育てがしにくい	16.6	18.5	12.1
台風・地震・津波等の自然災害の心配がある	11.2	11.3	11.2
治安が悪い	25.0	23.1	29.6
火災や交通事故が多い	6.1	5.0	8.7
気候がよくない	5.7	6.4	3.9
緑が少ない	3.7	2.2	7.3
水や空気がおいしくない	6.3	4.4	10.7
ごみごみした様子で清潔感がない	7.4	6.6	9.2
悪臭や騒音などの公害が多い	12.8	11.3	16.5
新幹線や空港が利用しにくい	3.7	4.2	2.4
電車やバスが利用しにくい	15.9	12.7	23.8
高速道路が利用しにくい	0.4	0.6	0.0
ブランドイメージがない	1.8	1.4	2.9
歴史や伝統を感じられる街並みが少ない	0.1	0.0	0.5
ファッションブルでおしゃれな雰囲気が少ない	4.7	5.4	2.9
若者が活躍しにくい	3.6	4.4	1.5
行政が信頼できない	6.1	6.8	4.4
観光地がない	2.8	3.4	1.5
親しい友人や趣味の仲間達と活動しにくい	8.0	8.5	6.8
親元と往来しにくい、または親と同居できない	15.6	16.9	12.6

③ 因子分析による居住地を選択する際の決め手となりうる行政サービス等（12項目）の分類

全サンプルを対象とした「因子分析」により、12項目の居住地選択条件は「因子1」「因子2」の2つに分類し、共通性が強いとみなされた各項目の内容傾向をみてそれぞれの「因子」を「住宅の確保及び家賃や子育て支援等の家計支援策」と「自分らしい働き方、ライフスタイルの実現支援策」と表現した。こうした分類を前提として以下の分析を進めることとする。

図表 3-11 居住地を選択する決め手となりうる行政サービス等の評価の(12項目)の分類(因子分析による)

居住地選択の決め手となりうる行政サービス等(Q7)	因子1	因子2
住宅のリフォーム費用に対する助成金制度がある	0.798	0.292
転入に向けての親切丁寧な相談体制が整っている	0.783	0.348
充実した空き家情報が提供されている	0.719	0.197
転入した際に給付される奨励金制度がある	0.711	0.232
若年層の転入者に対する家賃補助制度がある	0.575	0.366
出産や子育てに対する支援制度がしっかりしている	0.503	0.328
その地域(自治体)での仕事体験ができるインターンシップ制度がある	0.319	0.737
就職した後も大学の講座や専門学校等に通学するための奨学金制度が受けられる	0.330	0.681
その地域(自治体)での暮らしを一時的に体験する“お試し転居”ができる	0.369	0.680
婚活サポート体制がしっかりしている	0.083	0.621
地域コミュニティに溶け込むためのケアがしっかりしている	0.398	0.606
転入後に起業するにあたっての低利子融資制度がある	0.377	0.572

「因子1」項目群の共通点

住宅の確保
及び家賃や子育て支援
などの家計支援策

「因子2」項目群の共通点

自分らしい働き方や暮らし方、
ライフスタイルの実現支援策

④ Q7（居住地を選択する際の決め手となりうる行政サービス等の重要度）の集計結果分析

居住地を選択する決め手となりうる行政サービス等の重要度を聞いたQ7では、サンプル全体で7点を越えた項目は「出産や子育てに対する支援制度がしっかりしている」の1項目だけであり、6点を越えた項目でみると以下の6項目となる。

図表 3-12 居住地を選択する際の決め手となりうる行政サービス等のうち平均点6点以上のもの

番号	行政サービス等の内容	点数
①	転入した際に給付される奨励金制度がある	6.6
②	充実した空き家情報が提供されている	6.6
③	住宅のリフォーム費用に対する助成金制度がある	6.5
④	転入に向けての親切丁寧な相談体制が整っている	6.7
⑧	出産や子育てに対する支援制度がしっかりしている	7.0
⑩	若年層の転入者に対する家賃補助制度がある	6.9

これらの項目は、すべて「住宅の確保及び家賃や子育て支援などの家計支援策」（因子1）に該当する。もうひとつの項目群である「自分らしい働き方や暮らし方、ライフスタイルの実現支援策」は居住地を選択する決め手となる行政サービス等としてはあまり効果的ではないものと感じられていることがうかがえる。

北陸在住者だけで平均点が7点を超えた項目は、「出産や子育てに対する支援制度がしっかりしている」と「若年層の転入者に対する家賃補助制度がある」の2項目である。6点を超えた項目も合わせると、サンプル全体と同じ結果となっている。なお、東京23区在住者だけでみても同様の結果である。

なお、居住地を選択する決め手となりうる行政サービス等の評価について、性別、年齢別、未婚、子の有無等の属性による回答傾向の明確な違いはみられなかった。

図表 3-13 居住地を選択する決め手となりうる行政サービス等の評価の平均点(居住地域別)

居住地選択の決め手となりうる行政サービス等(Q7)	全体	北陸	東京
転入した際に給付される奨励金制度がある	6.6	6.7	6.4
充実した空き家情報が提供されている	6.6	6.6	6.6
住宅のリフォーム費用に対する助成金制度がある	6.5	6.6	6.2
転入に向けての親切丁寧な相談体制が整っている	6.7	6.8	6.5
転入後に起業するにあたっての低利子融資制度がある	5.4	5.5	5.1
婚活サポート体制がしっかりしている	4.3	4.3	4.3
地域コミュニティに溶け込むためのケアがしっかりしている	5.8	5.8	5.8
出産や子育てに対する支援制度がしっかりしている	7.0	7.3	6.5
その地域(自治体)での暮らしを一時的に体験する“お試し転居”ができる	5.5	5.6	5.5
若年層の転入者に対する家賃補助制度がある	6.9	7.0	6.8
その地域(自治体)での仕事体験ができるインターンシップ制度がある	5.6	5.7	5.5
就職した後も大学の講座や専門学校等に通学するための奨学金制度が受けられる	5.8	5.8	5.7

(2) 定住意向を決定づける居住地の条件

定住意向（10点満点）を被説明変数とし、居住地の選択条件（10点満点）を説明変数とする重回帰分析の結果により、どの居住地の選択条件が現住所地での定住意向を高める効果が高いかを分析した。なお、ここで第1位から第4位までに示したものの以外の項目については、現住所地での定住意向との相関関係が統計的に確認できなかったことを意味する。

その結果、全サンプルでは、第1位の「親しい友人や趣味の仲間たちの活動しやすい」、第2位の「親元と往来しやすい、または親と同居できる」の係数が、第3位の「子育てがしやすい」、第4位の「頼りがいのある近所づきあいがある」に比べて2倍以上大きい。

また、第4位も合わせてみると、いずれも現住所地における人間関係に係る項目であることがわかる。

北陸在住者では、上位2項目は同じだが、第3位の「子育てがしやすい」の係数が比較的高いことがわかる。さらに、全サンプルでは相関が確認されなかった「手頃な家賃、広さ、間取りの住宅が見つかりやすい」が係数は比較的小さいものの、一定の影響があることがわかる。

東京都23区在住者では、第1位の「ブランドイメージがある」、これに続く第2位の「治安がよい」の係数が高いことが注目される。この結果は北陸在住者とは大いに異なっている。

図表 3-14 定住意向(10点満点)を被説明変数とし、居住地の選択条件(10点満点)を説明変数としたときの重回帰分析の結果(相関係数の順位)

	全サンプル	
	居住地選択条件	係数
第1位	親しい友人や趣味の仲間達と活動しやすい	0.158
第2位	親元と往来しやすい、または親と同居できる	0.144
第3位	子育てがしやすい	0.077
第4位	頼りがいのある近所づきあいがある	0.052

	北陸在住者	
	居住地選択条件	係数
第1位	親元と往来しやすい、または親と同居できる	0.191
第2位	親しい友人や趣味の仲間達と活動しやすい	0.134
第3位	子育てがしやすい	0.104
第4位	手頃な家賃、広さ、間取りの住宅が見つかりやすい	0.070

	東京都23区在住者	
	居住地選択条件	係数
第1位	ブランドイメージがある	0.212
第2位	治安がよい	0.175
第3位	親しい友人や趣味の仲間達と活動しやすい	0.110

(注)上記以外の項目では、統計的に有意な相関関係が見られなかった

(3) 福井県で暮らすことへの期待感を決定づける居住地の条件

福井県で暮らすことへの期待感(10点満点)を被説明変数とし、居住地の選択条件(10点満点)を説明変数とする重回帰分析の結果により、どの居住地の選択条件が福井県で暮らすことへの期待感を高める効果があるかを分析した。

その結果、全サンプルでは、第1位が「行政が信頼できる」、第2位が「地域の祭りや催事が盛んである」、第3位が「歴史や伝統を感じられる街並みがある」、第4位が「農業や水産業などに関係する仕事(バイト)が見つかりやすい」、第5位が「緑が多い」となった。

金沢市・富山市在住者では、「歴史や伝統を感じられる街並みがある」「行政が信頼できる」の上位2項目は全サンプルと同じく福井県で暮らすことへの期待感を高める効果がみられるようだが、全サンプルでは相関が確認されなかった「地場産業や伝統産業に関係する仕事(バイト)が見つかりやすい」「親元と往来しやすい、または親と同居できる」「手頃な家賃、広さ、間取りの住宅が見つかりやすい」の3項目との相関が一定の強さで確認された。これら3項目も含め、5項目すべて

は福井県の特性として挙げることに違和感のない項目であることから、金沢市・富山市在住者は福井県における暮らしの良さをある程度認識した上で回答しているのではないかと推察できよう。また、このことは、地域における暮らしの魅力の実態を認知しているかどうか、その地域で暮らすことへの期待感に影響する可能性を示唆しているものと受け止めることもできよう。

そのため、地域における特性として認知されている魅力をさらに高め、その実態を効果的にPRすることが、UIJターンの促進に効果的であるものと考えられる。

図表 3-15 福井県で暮らすことへの期待感(10点満点)を被説明変数とし、居住地の選択条件(10点満点)を説明変数としたときの重回帰分析の結果(相関係数の順位)

福井県外全サンプル		
	居住地選択条件	係数
第1位	行政が信頼できる	0.103
第2位	地域の祭りや催事が盛んである	0.087
第3位	歴史や伝統を感じられる街並みがある	0.083
第4位	農業や水産業などに関係する仕事(バイト)がみつきやすい	0.075
第5位	緑が多い	0.070

金沢市・富山市在住者		
	居住地選択条件	係数
第1位	歴史や伝統を感じられる街並みがある	0.111
第2位	地場産業や伝統産業に関係する仕事(バイト)がみつきやすい	0.098
第3位	行政が信頼できる	0.097
第4位	親元と往来しやすい、または親と同居できる	0.095
第5位	手頃な家賃、広さ、間取りの住宅がみつきやすい	0.088

東京都23区在住者		
	居住地選択条件	係数
第1位	地域の祭りや催事が盛んである	0.218
第2位	ごみごみした様子がなく清潔感がある	0.113
第3位	高速道路が利用しやすい	0.109

(注)上記以外の項目では、統計的に有意な相関関係が見られなかった

(4) 鯖江市で暮らすことへの期待感を決定づける居住地の条件

鯖江市以外の福井県内在住者を対象に、鯖江市で暮らすことへの期待感(10点満点)を被説明変数とし、居住地の選択条件(10点満点)を説明変数とする重回帰分析の結果により、どの居住地の選択条件が鯖江市で暮らすことへの期待感を高める効果があるかを分析した。

その結果、第1位が「若者が活躍している」、第2位が「行政が信頼できる」、第3位が「頼りがいのある近所づきあいがある」となった。

これら鯖江市で暮らすことへの期待感を高める効果があるとみられた条件は、鯖江市に長所として知られている実態を示しているとみることができよう。鯖江市以外の県内在住者に対して、こうした鯖江市の長所のイメージとその裏付けとなる実態を充実させていくことが得策であると考えられる。

図表 3-16 鯖江市で暮らすことへの期待感(10点満点)を被説明変数とし、居住地の選択条件(10点満点)を説明変数としたときの重回帰分析の結果(相関係数の順位)

	鯖江市以外の県内在住者	
	居住地選択条件	係数
第1位	若者が活躍している	0.171
第2位	行政が信頼できる	0.112
第3位	頼りがいのある近所づきあいがある	0.106

(注)上記以外の項目では、統計的に有意な相関関係が見られなかった

(5) 福井県で暮らすことへの期待感を決定づける行政サービス等

福井県で暮らすことへの期待感(10点満点)を被説明変数とし、居住地を選択する際の決め手となりうる行政サービス等(10点満点)を説明変数とする重回帰分析の結果により、どの行政サービス等が福井県で暮らすことへの期待感を高める効果があるかを分析した。

その結果、全サンプルでは、第1位が「充実した空き家情報が提供されている」、第2位が「地域コミュニティに溶け込むためのケアがしっかりしている」、第3位が「就職した後にも大学の講座や専門学校等に通学するための奨学金制度が受けられる」、第4位が「婚活サポート体制がしっかりしている」となった。

金沢市・富山市在住者では、第1位に全サンプルでは挙げられなかった「転入に向けての親切丁寧な相談体制が整っている」が挙げられ、第2位に「地域コミュニティに溶け込むためのケアがしっかりしている」、第3位に「婚活サポート体制がしっかりしている」が挙げられた。第1位、第2位ともに新しいまちで暮らすことへの初期の不安感を払拭するために必要なサポートであるということがわかる。また、全サンプル、金沢市・富山市在住者ともに「婚活サポート体制がしっかりしている」が有効な行政サービス等として挙げられたことも注目すべきであろう。

東京都23区在住者では、第1位に「就職した後にも大学の講座や専門学校等に通学するための奨学金制度が受けられる」、第2位に「その地域(自治体)での仕事体験ができるインターンシップ制度がある」が挙げられている。いずれも働き方に関する項目である。第3位の「充実した空き家情報が提供されている」のことも踏まえると、東京都23区在住者にとっては、住まいの確保と自分に合った働き方を見極めることができるかどうか期待感を高める条件として重要であるとみられ、例えば仕事版の「ゆるい移住」事業などがあればU・Jターンを促す効果をもつ可能性があるものと考えられる。

図表 3-17 福井県で暮らすことへの期待感(10点満点)を被説明変数とし、行政サービス等の重要度(10点満点)を説明変数としたときの重回帰分析の結果(相関係数の順位)

福井県外全サンプル		
	居住地選択条件	係数
第1位	充実した空き家情報が提供されている	0.106
第2位	地域コミュニティに溶け込むためのケアがしっかりしている	0.100
第3位	就職した後も大学の講座や専門学校等に通学するための奨学金制度が受けられる	0.093
第4位	婚活サポート体制がしっかりしている	0.086

金沢市・富山市在住者		
	居住地選択条件	係数
第1位	転入に向けての親切丁寧な相談体制が整っている	0.166
第2位	地域コミュニティに溶け込むためのケアがしっかりしている	0.124
第3位	婚活サポート体制がしっかりしている	0.104

東京都23区在住者		
	居住地選択条件	係数
第1位	就職した後も大学の講座や専門学校等に通学するための奨学金制度が受けられる	0.141
第2位	その地域(自治体)での仕事体験ができるインターンシップ制度がある	0.135
第3位	充実した空き家情報が提供されている	0.132

(注)上記以外の項目では、統計的に有意な相関関係が見られなかった

(6) 鯖江市で暮らすことへの期待感を決定づける行政サービス等

鯖江市以外の福井県内在住者を対象に、鯖江市で暮らすことへの期待感(10点満点)を被説明変数とし、居住地を選択する際の決め手となりうる行政サービス等(10点満点)を説明変数とする重回帰分析の結果により、どの行政サービス等が福井県で暮らすことへの期待感を高める効果があるかを分析した。

その結果、第1位が「充実した空き家情報が提供されている」、第2位が「地域コミュニティに溶け込むためのケアがしっかりしている」となった。

このことから、鯖江市以外の福井県内在住者にとっても、鯖江市で暮らすことへの期待感を高めるためには、住宅の確保に係る情報提供の充実化と新しいまちで暮らすことへの初期の不安感を払拭するために必要なサポートが重要であるということがうかがえる。

図表 3-18 鯖江市で暮らすことへの期待感(10点満点)を被説明変数とし、行政サービス等の重要度(10点満点)を説明変数としたときの重回帰分析の結果(相関係数の順位)

鯖江市以外の県内在住者		
	居住地選択条件	係数
第1位	充実した空き家情報が提供されている	0.186
第2位	地域コミュニティに溶け込むためのケアがしっかりしている	0.132

(注)上記以外の項目では、統計的に有意な相関関係が見られなかった

第4章 若年層の定住意向に関する詳細分析

第4章 若年層の定住意向に関する詳細分析

1. グループインタビュー調査の実施概要

(1) グループ設定

2015年7月17日（金）及び9月12日（土）、13日（日）に、下記6グループで実施した。

図表 4-1 グループインタビューのグループ設定

グループ	人数等	在住地等
高校卒業前後	高校生、高専生ら9名 (すべて女子)	鯖江市、永平寺町、福井市、越前市、越前町在住
大学等在学・卒業・就職前後・独身社会人(1)	学生団体 with メンバー8名	県内出身者3名、県外出身者5名
大学等在学・卒業・就職前後・独身社会人(2) (「大卒後間もない独身社会人」と略称)	就職後1～2年目5名	鯖江市、池田町、越前市在住 (全員Uターン)
高卒前後、大卒・就職前後の当事者の親	5名	鯖江市在住
UJターン独身社会人	就職後5年目前後5名	鯖江市在住 (福井市からのJターン含む)
UJターン家族世帯	就職後12～13年目5名	鯖江市、池田町、越前市在住 (越前市からのJターン含む)
東京都内在学の学生	3名	明治大学の学生 (社会連携事業参加学生)

(注) ただし、「大学等在学・卒業・就職前後・独身社会人(1)」テストケースとして実施したインタビューであり、その内容は以下に示すトピックに沿ってはいないため、分析に当たっての参考情報として活用することとどめ、直接分析の対象とはしていない。

(2) 主なトピック

①居住地選択条件の項目群タイプの確認（WEBアンケートの検証）

- 穏やかで不安のない自然環境豊かなまちに住みたい
- 歴史や伝統、文化を誇りに感じることができ、人のつながりが強いまちに住みたい
- おしゃれで便利でにぎやかな若々しいまちに住みたい
- 学校や仕事が見つかりやすい、通いやすいまちに住みたい

②今後の住まい（進学時・就職時の住まい、結婚後の住まい）

- 将来のUターン、Jターンの可能性

③Uターンの決め手となりうる行政サービス等に対する評価（WEBアンケートの検証）

- 転入した際に給付される奨励金制度がある
- 充実した空き家情報が提供されている
- 住宅のリフォーム費用に対する助成金制度がある
- 転入に向けての親切丁寧な相談体制が整っている

- 転入後に起業するにあたっての低利子融資制度がある
- 婚活サポート体制がしっかりしている
- 地域コミュニティに溶け込むためのケアがしっかりしている
- 出産や子育てに対する支援制度がしっかりしている
- その地域（自治体）での暮らしを一時的に体験する“お試し転居”ができる
- 若年層の転入者に対する家賃補助制度がある
- その地域（自治体）での仕事体験ができるインターンシップ制度がある
- 就職した後にも大学の講座や専門学校等に通学するための奨学金制度が受けられる

④鯖江市の特徴について（委員アンケートの検証）

- 市民性
- お国自慢
- 買い物、休日の過ごし方

⑤ I J ターンを促すために必要な情報について（東京都内在学学生に対して）

- 東京に向けて発信すべき情報

2. 分析結果の概要

(1) 居住地選択条件に関する意識

- 市内若年層のグループでは、「穏やかで不安のない自然環境豊かなまちに住みたい」という意向が強く示された。次いで、「学校や仕事がみつけやすい、通いやすいまちに住みたい」という意向が示された。これらの結果は、WEBアンケートの結果を裏付けるものである。
- また、東京都内大学生のグループでは、長野県出身者が「穏やかで不安のない自然環境豊かなまちに住みたい」を支持し、東京都出身者、千葉県出身者が「歴史や伝統、文化を誇りに感じることができ、人のつながりが強いまちに住みたい」ことを支持した。
- 鯖江市の特性として人のつながりが強いということが挙げられることから、大都市部の若者が居住地に望む条件も鯖江市に備わっていると見えそうである。

(2) 今後の定住・移住に関する意識

①全体的な意識傾向

- “家を継ぐ”という潜在意識は、親からよりも祖父母から刷り込まれる場合が多い。
- “家を継いでほしい”という観念は時代とともに弱くなり、これに代わって「住みやすいから戻ってくれば」という気持ちに変化している。

- 近年は同じ敷地での居住でなくとも、近居することによって“家を継ぐ”という感覚が生じている。
- 分譲地に住んでいる移住者には“家を継ぐ”という観念はない。

②高校卒業前後

- 市外（県外）に進学して世界を広げたい転出積極派、市外（県外）に出ざるを得ない転出消極派がいるが、結局は市外（県外）に進学することになる。
- 市外（県外）に出ざるを得ない消極派は就職時のUターンを前提にしている。
- 市外（県外）に進学して世界を広げたい積極派は希望する就職先があればUターンする気はある。地元が嫌で離れたいわけではない。
- 最終的にはできれば地元に戻ってきたいという潜在意識が強い。
- 子育ては鯖江でしたい。自分は育った環境は良かったという自覚がある。
- 高校生から、将来の子育てを意識している。
- 鯖江に足りないものは働き口と遊ぶ場所である。
- 自らの経験から、地元のことをよく知れば地元のことを好きになるという確信を持っている（JK課、学生団体Withでの活動を通じて）。
- 都会に行くのは好きだが、住みたくはない。
- なお、高校生らにとっての「都会」とは、東京、大阪、名古屋などの大都会を意味し、福井や金沢など中核市レベルの駅前集積程度では満足できない。洋服は県外まで出かけて買う（滋賀県竜王町のアウトレット、名古屋など）。
- 鯖江市の魅力は都会的な集積を増やしても高まらない。福井市は中途半端に便利になったので福井の良さがなくなってしまった。家族や友人、コミュニティでの人のつながりが大切である。

③大卒間もない独身社会人

- UJターンは積極的な意思によるものではなく、就職時のある種の妥協である場合が多い（就職の第二希望以下、都会での暮らしに疲れを感じたなど）。
- 自分が育った環境は快適だったという感覚が影響しているようにみえる。
- ただし、その決め手として潜在的にもっている“家を継ぐ”という感覚の影響がみえる。
- 独身の間は親と同居するのが合理的であると考えている。結婚後も親元と往来しやすい近居を望んでいる。これも“家を継ぐ”という感覚が多少影響しているようにみえる。
- 一方で、一人暮らしを経験してみたいという潜在的な願望が見受けられる。
- 近隣市町に住み鯖江市に勤務している人であれば、住宅事情次第で結婚を機に鯖江市に転入する可能性はある。

- 鯖江市での暮らしの満足度は高い。ただし、これはあくまでも“不満がない”という感覚である可能性があることに留意が必要である。

④U J ターン独身社会人

- サラリーマン家庭でも、土地があるので兄弟の誰かが実家に戻って“家を継がなくてはならない”という意識が刷り込まれている。
- U J ターンは積極的な意思によるものではなく、就職時のある種の妥協である場合が多い（就職の第二希望以下、都会での暮らしに疲れを感じたなど）。
- 進学で市外、県外に出て視野が広がったという自覚、地元の良さがわかるようになったという自覚がある。
- 後輩たちにも一人暮らしを経験してほしい（都会に出るということではないにしても、県外に出ることは勧めたい）。
- 今の生活には満足している。
- 子育てをするときに、自分が育った環境で育てたいという思いをもつだろう（都会で子育てする気にはなれない）。
- 福井県内では買い物に満足できないが、ネットショッピングができるようになって不便を感じない。
- 中高生時代はおしゃれな買い物がしくて仕方ないという気持ちがあったが、大人になると買い物の仕方も変わる。
- 仕事の関係で鯖江市に住んでいる近隣市町からのJターン者は、結婚したら、相手の事情、住宅事情などによっては鯖江市から転出する可能性もある。

⑤U J ターン家族世帯

- 進学で県外に出ても自然と地元に戻ってくる感覚、戻らなくてはならないという気になってしまう感覚が“家を継ぐ”という精神性として備わっている。
- その感覚は祖父母との暮らしの中で刷り込まれてきた感覚である。
- 鯖江市では長男はだいたい実家に戻ってきて、実家の敷地に家を建ててほぼ同居で暮らすというのがスタンダードである。ただし、結婚当初はアパートで夫婦のみで暮らす。
- 公的な制度（保育園等）によって子育てがしやすいという感覚はなく、親が同居、近居であることが子育てのしやすさにつながっているという感覚が強い（預かってもらえるなど）。
- 現在の暮らしにはおおむね満足しているが、家族で遊びに出かけるようなところがないことを不満に感じている。西山公園くらいでは満足できない。大きなショッピングセンターがあればいいと思う。結婚して生活の幅が広がるに伴って、利便性、レジャー等への欲求が高まるものとみられる。

⑥高校卒業前後、大学卒業・就職前後の当事者の親

- 子どもの進路・進学は居住地を含めて本人の意思に委ねたいと考えている。
- 県外に出て見聞を広めた方がよいという気持ちの親も多い。これは自らが一度県外等へ出た経験を持ち、その効果があったという自覚に基づくものである場合が多い。
- 農家、自営、サラリーマン世帯を問わず、子どもにはUターンして“家を継いでほしい”という希望を潜在的に抱いている。ただし、“家を継ぐ”という観念は時代とともに弱くなり、これに代わって「住みやすいから戻ってくればいい」という気持ちに変化している。

⑦その他の意識傾向

- 福井市、越前市など隣接市に出かけることについて“市外に出る”という感覚はなく、生活圏が一体化している。
- 福井県で暮らすためには18歳になったら自動車免許を取得し、車を所有（使用）することはきわめて当然のライフスタイルである。
- 鯖江市役所はU Jターンの強力な受け皿になっている。
- 日用品の買い物は市内で済ませることができている。
- 日用品以外の買い物は福井市、越前市へ出かけることが多い。
- 福井駅周辺に住んでいるとしても便利だとは思わない。

⑧東京都内在学の学生

- 地元で貢献したいという気持ちから、Uターンを考えている（千葉県、長野県出身者）。
- 地元で大学の選択肢が少ないため、進学時に地元を出ることについては当然のことと考えていたが、いずれはUターンするという気持ちを持っていた（長野県出身者）。
- 長野県出身者には家を継ぐ、土地や墓を守るという意識がある一方で、東京都、千葉県出身者にはその意識が全くない。
- 地方で暮らすということについて抵抗感はないが、全く知らない土地で暮らすというのは不安である。鯖江市ではその人々とのふれあいを経験しているため、仮にI Jターンするとすれば鯖江市は選択肢の上位に挙がる（全員）。

(3) Uターンの決め手となりうる行政サービス等に対する評価

Uターンの決め手となりうる行政サービス等について、グループインタビューにおいて検証を試みた。

年齢層やライフステージ（未既婚、子供の有無）により反応は異なるものの、おおむね次のような示唆を得ることができた。

- 「充実した空き家情報が提供されている」ことについては、高校卒業前後あるいは大卒間もない独身社会人のグループから、その重要性が指摘されている。このことから、単身向きのアパート等を見つけやすいような情報環境を整えることの重要性がうかがえる。ただし、その一方で、U J ターン家族世帯のグループからは、大卒就職時には親元に住むことを前提にしているので住宅のことまでは考えないとの指摘もあり、「充実した空き家情報が提供されている」(単身向きのアパート等を見つけやすいような情報が提供されている) ことの重要性はUターン者というよりはむしろ、I J ターン者にとって重要な方策であると位置付けるのが妥当であると考えられる。

- U J ターン家族世帯のグループからは、就職に関わる相談体制や情報が充実していることが重要なUターン促進策になりうるとの指摘がなされている。一方で、「その地域（自治体）での仕事体験ができるインターンシップ制度がある」ことについて大卒後間もない独身社会人のグループから、鯖江市への就職には直結しないとの指摘がなされている。また、県外在住者が県内の就職情報にアクセスできないという問題の解消が重要との指摘もある。具体的には、帰省中に頻繁に会社説明会があるとありがたいとの意見も示されている。WEBアンケートでは「その地域（自治体）での仕事体験ができるインターンシップ制度がある」ことが東京都 23 区在住者に重視されていたことから、鯖江市出身のUターン促進のためには、帰省中に参加できる会社説明会等を充実することの効果が高く、東京都 23 区在住者等に対してはインターンシップ制度の効果が高いという整理をすることができそうである。

- 「転入に向けて親切丁寧な相談体制が整っている」ことについては、U J ターンを経験した独身社会人のグループからその重要性が指摘されている。また、「地域コミュニティに溶け込むためのケアがしっかりしている」ことについては、高校卒業前後あるいは大卒間もない独身社会人のグループからその重要性が指摘されている。また、その具体的なイメージとして「住まいを選ぶ際に、消防団などの地縁団体に参加することを前提に考えており、その不安を解消することの効果はある」「消防団などに入ることを前提に考えるコミュニティ感覚はスタンダードであり、その不安を解消することの効果はある」との見解が示された。こうした感覚は鯖江市民に固有のものというわけではなく、北陸地域において共通にみられる意識であろうことから、「地域コミュニティに溶け込むためのケアがしっかりしている」ことについては鯖江市出身者のUターン、あるいは北陸地域をターゲットとしたI J ターンの促進に当たっては特に留意すべき方策であるとの認識をもつべきであろう。東京都内在学の学生からも、地域と自分をつなげてくれるサポートがほしい、コミュニティにずっと溶け込むサポートがほしいという声が強く挙げられている。

- 「若年層の転入者に対する家賃補助制度がある」については、転入を促す効果があるとの見解がおおむね共通に示された。
- 東京都内在学の学生からは、地域に溶け込むためのケアの一環として、移住した後に「こんなはずではなかった」ということにならないためには「お試し転居」があればよいとの声があった。
- 「婚活サポート体制がしっかりしている」ことについては、転入を促すために有効な方策ではなく、現在居住している住民に有難いと感じられる方策ではないかとの指摘が、大卒後間もない社会人のグループからなされている。「出産や子育てに対する支援制度がしっかりしている」についても同様の指摘がなされている。ただし、これについては、地域における助け合いの風土、保育園や幼稚園の多さなど、鯖江市の特性を踏まえて解釈する必要があるだろう。WEBアンケートの結果によれば、これらの方策についても一定程度の効果があることが指摘されていることから、「婚活サポート体制がしっかりしている」「出産や子育てに対する支援制度がしっかりしている」といった方策に転入促進の有効性が認められないと判断するのは不適切であると考えられる。

(4) I Jターンを促すために必要な情報

東京の大学生に向けて、鯖江市へのI Jターンを促すためにどのような情報を発信すべきかを尋ねたところ、以下のような意見があった。

- 福井県出身の友達が、「鯖江市はPRが下手だ」と言っていた。やっていることは素晴らしいので、宣伝活動を見直してほしいと思う。
- 鯖江は地場産業が盛んなので、歴史、伝統、文化の情報発信につなげていけばよいと思う。
- 行ったことがない人も自分の暮らしが想像できるような鯖江市での暮らしぶり、地域の人が住んでいて幸せだということ、都会とは違う生活だが現実離れしているわけではないということアピールするのがよい。

図表 4-2 グループインタビューによるUターンを決め手となりうる行政サービス等に対する評価

	高校卒業前後	大卒間もない独身社会人
転入した際に給付される奨励金制度がある	×	×
充実した空き家情報が提供されている	○	市外在住で鯖江市に勤務している人から「鯖江市の住宅事情がわからない」という意見。
住宅のリフォーム費用に対する助成金制度がある	△	(反応なし)
転入に向けての親切丁寧な相談体制が整っている	△	重要である。
転入後に起業するにあたっての低利子融資制度がある	(適格性なし)	(適格性なし)
婚活サポート体制がしっかりしている	(反応なし)	既存住民にはありがたいが、転入促進にはつながらないと感じる。
地域コミュニティに溶け込むためのケアがしっかりしている	○	住まいを選ぶ際に、消防団などの地縁団体に参加することを前提に考えており、その不安を解消することの効果はある。
出産や子育てに対する支援制度がしっかりしている	○	既存住民にはありがたいが、転入促進にはつながらないと感じる。
その地域(自治体)での暮らしを一時的に体験する“お試し転居”ができる	(適格性なし)	(適格性なし)
若年層の転入者に対する家賃補助制度がある	○	家賃補助があったら転入の可能性ある。
その地域(自治体)での仕事体験ができるインターンシップ制度がある	△	鯖江市への就職に直結しないと感じる。県外にいと、県内の就職情報にアクセスできないという問題の解消につながりうる。帰省中に頻繁に会社説明会があるとありがたい。
就職した後も大学の講座や専門学校等に通学するための奨学金制度が受けられる	(反応なし)	(反応なし)

図表 4-2 グループインタビューによるUターンの決め手となりうる行政サービス等に対する評価(続き)

	UJ ターン独身社会人	UJ ターン家族世帯
転入した際に給付される奨励金制度がある	(反応なし)	【表側の行政サービス等全体について】
充実した空き家情報が提供されている	(反応なし)	表側の行政サービス等は、居住地選択の決め手としてはいずれもピンと来ない。
住宅のリフォーム費用に対する助成金制度がある	(反応なし)	ここに掲げられた行政サービス等は、そこに住むかどうかの決め手になる行政サービス等というよりも、そこに住む(Uターンする)と決めた人の住環境を良くするための施策になっている。
転入に向けての親切丁寧な相談体制が整っている	重要である。	就職を前提としたUターン希望者をサポートする施策がラインナップされていないことが問題。
転入後に起業するにあたっての低利子融資制度がある	(適格性なし)	【個々の行政サービス等について】
婚活サポート体制がしっかりしている	ひとそれぞれで重要性が変わる。	大卒就職時に親元に住むことを前提にしているので住宅のことまでは考えない。
地域コミュニティに溶け込むためのケアがしっかりしている	消防団などに入ることを前提に考えるコミュニティ感覚はスタンダードであり、その不安を解消することの効果はある。	就職に関わる相談体制や情報が充実しているというのは重要なUターン促進策になりうる。
出産や子育てに対する支援制度がしっかりしている	重要だと思うが、現実に子育てする状況にならないと現実味はない。制度より環境が重要。保育料が安いというよりも家族がいてくれる方が重要。	就職時はまずは仕事なので、婚活は考えない。
その地域(自治体)での暮らしを一時的に体験する“お試し転居”ができる	(適格性なし)	家賃補助はあればうれしい。
若年層の転入者に対する家賃補助制度がある	(反応なし)	子育て支援策は、転出を抑制する効果が期待できる。安心感につながる。子育て支援策は現状が維持されることが第一。
その地域(自治体)での仕事体験ができるインターンシップ制度がある	(反応なし)	現時点では、行政施策によって子育てしやすいという実感はない。
就職した後も大学の講座や専門学校等に通学するための奨学金制度が受けられる	(反応なし)	保育所入所の待機はなく、それが当たり前である。(あったらニュースになる)

第5章 若年層の定住促進に向けた今後の施策

第5章 若年層の定住促進に向けた今後の施策

1. 人口の将来ビジョンと人口ビジョン

(1) 出産、子育て、転入、定住に係るポイント

① 出産、子育てに係るポイント

- 鯖江市における暮らしやすさについてはそれを“意識している人”にとっては高い評価がなされており、それを裏付ける実態もあるようだが、そのイメージが鯖江市民（女子高校生等）において強く共有されているとは言い難い。
- このことは、子育てのしやすさに関する事実情報が効果的に伝えられていないということに原因があるものと考えられる。
- 例えば、鯖江市民にとって「保育園待機児童ゼロ」は当然のことであり、特筆すべき魅力としてアピールする必要があるものとは認識されていないのではないかと推察されるのである。
- 現在、子育て中の人たちに対するグループインタビューをはじめ、その他のグループインタビュー、委員アンケートからも、鯖江市における子育て環境については不平や不満が示されなかった。
- また、公的な制度（保育園等）によって子育てがしやすいという感覚はなく、親が同居、近居であることが子育てのしやすさにつながっているという感覚が強い（預かってもらえるなど）ことがうかがえる一方で、共働きが多いため幼稚園よりも保育園に対するニーズの方が強いということが示されている。
- 女子高校生等に対するグループインタビューから、結婚して子供を産むということを大前提として将来を構想していることが明らかである。
- しかしながら、鯖江市が子育てしやすいまちであるという認識は必ずしも共有されておらず、漠然とした不安を抱えている様子が見られる。
- ただし、自らが育った環境（鯖江市又は近隣市町）で子育てをしたいという意向は強く示されている。
- 必ずしもいわゆるキャリア志向が強いという印象はなく、夫の所得次第では専業主婦になる、あるいは副業してもよければ（フルタイムではなく）働きたいという意向は一定程度みられる。

② 転入、定住に係るポイント

- 鯖江市における暮らしやすさについてはそれを“意識している人”にとっては高い評価がなされており、それを裏付ける実態もあるようだが、そのイメージが市民に強く共有されているとは言い難い。同時に、市外、県外にも十分には知られていない可能性が高い。

- このことは、福井県又は鯖江市で暮らすことへの期待感を決定づける要因として、“現実的条件”である「子育てしやすい」も“理想的な条件”に係る諸項目も挙げられていないということからもうかがえる。
- 近隣市町在住の女子高校生等、鯖江市で働く近隣市町出身のUターン者等からは、鯖江市で暮らすことへの一定の期待感が示されている。
- 特に後者からは住宅（アパート等）の確保がしやすければ（物件情報が充実している、家賃負担が軽い等）、結婚前の独身時に親と同居（出身市町に住んで鯖江市に通う）するのではなく単身で鯖江市に暮らすという選択の可能性も示されている。
- このように、近隣市町、北陸の県外地域からの転入を促進することの現実性は一定程度あるものとみられる。
- 転入促進、定住促進の最も重要なポイントの一つは、仕事のしやすさと遊べる選択肢の多さという“現実的条件”である。これらの条件を満たさなければ転入を促進することはもちろん、転出を抑制することも難しくなるという認識をもつべきである。

(2) 人口の将来展望の検討に係る視点

今後の人口ビジョンの検討においては、以下のような視点を持つ必要があると考えられる。

①合計特殊出生率に関する視点

出産、子育てへの意欲が比較的高いことが、鯖江市の合計特殊出生率が1.68と、全国、また福井県全体に比べて低い水準ではないという現状を示しているものと考えられる。

この水準を更に引き上げるためには、以下3つの方向性が論理的に導き出される。

- 非婚者の婚姻を促すこと
- 子どもを持たない世帯を減らすこと
- 子どもを持つ世帯における子どもの数を増やすこと

グループインタビューの結果によれば、結婚・子育てへの意欲は確認されていることから、非婚や子を持たないことについては個人個人に相応の事情があるものと考えられ、個々の価値観や諸事情に対し公的に踏み込んだ対応をすることについては躊躇がある。

また、保育園の入所待機児童がゼロであるということも考慮すると、今後の対応方向は以下のとおり圧倒的に“子育てしやすい”という環境を形成することが重要となる。

- 保育園の入所待機児童ゼロを維持し続けること
- 公的な病児保育対策、私的理由による臨時的な保育対応を充実すること

- 親との同居、近居による安心感がもてる住宅環境を維持し続けること
- 地域コミュニティにおける相互扶助の環境を維持し続けること
- 企業・事業所における子育て支援策（就業時間、休暇、育休、復職保障等）を徹底すること

②転入・転出に関する視点

(i) 若年層の転入促進について

転入促進のポイントは以下のように整理することができる。

- 居住地選択の“共通的条件”である住宅確保のしやすさに対応すること
- 居住地選択の“現実的条件”について、積極的な対応策を講じること

北陸地域在住の若年層の転職時、又は近隣市在住で鯖江市に勤務している若年層等が結婚する、子が生まれるといったライフステージの転換期に対しては、その転入を促す上では住宅情報の充実、住宅確保への支援策が重要となる。

ただし、このとき鯖江市、福井県内に関わらず北陸地域全域においても長男、次男等に関わらず、兄弟間の事情によって将来は“家を継ぐものである”という感覚が根強いであろうことを考慮した丁寧なケアが重要となる。

親を市外から呼んで同居しはじめる場合のインセンティブや、親元との往来に係る支援、親元から受ける支援と同等に安心感をもてるような地域における相互扶助など、丁寧な施策の工夫とそのアピールが重要となる。

また、居住地選択の“現実的条件”である子育てのしやすさ、仕事のしやすさと遊べる選択肢の多さに対応することが重要となる。

子育てのしやすさについては、“理想的条件”に該当する諸条件とともに、鯖江市がこの条件を備えているという事実を市外、県外に向けてアピールすることが重要となる。

仕事のしやすさと遊べる選択肢の多さについては、市内出身者及び北陸地域出身者を対象とした企業説明会の工夫、娯楽やレジャー、買い物等のエンターテインメント情報の充実化等が重要となる。

一方、進学、就職時に一旦転出した若年層が将来Uターンしてくれることを促す仕組みも重要となる。

その前提として、鯖江市在住の高校生、大学生等が進学、就職時に市外、県外へ転出することについては、親世代にもこれを促す機運があることから、転出を抑制するのではなく、むしろ“進出”を応援するという発想にシフトすることも重要となる。

自分の将来を応援してくれた故郷への思いを強く持ち続けてもらえる素地を構築しながら、出身地域での地縁の強化、Uターン時の様々なインセンティブ、就業機会の拡充等の徹底を図ることが効果的である。

(ii) 若年層の定住促進について

定住促進のポイントは以下のように整理することができる。

- 居住地選択の“理想的条件”を鯖江市が十分に備えているという事実を共有すること
- 居住地選択の“理想的条件”を維持し続けること
- 居住地選択の“現実的条件”である子育てのしやすさ、仕事のしやすさと遊べる選択肢の多さに対応すること
- 居住地選択の“基本的条件”である住宅の確保のしやすさに対応すること

医療、防災、治安、事故等に関する安心感、環境の良さ、清潔感、等の“理想的条件”と“現実的条件”に当たる子育てのしやすさなど条件の多くが鯖江市には備わっているという事実情報を市民が強く認識している状況をつくりだすことが重要であり、同時に、これらの条件を維持・向上させることが重要となる。

居住地選択の基本的条件である住宅の確保のしやすさについては、長男、次男等に関わらず、兄弟間の事情によって将来は“家を継ぐものである”という感覚を前提とした丁寧なケアが重要となる。

仕事のしやすさについては、転職、起業に係る情報や支援が充実していることも必要となろう。

子育て世帯から、子どもを連れて遊べる環境に不満があるとの声が聞かれたことについては、市内において遊べる環境を整えることにこだわらず、生活圏が一体的と感じられている近隣市町を含めた娯楽・レジャー、買い物等のエンターテインメントに係る情報発信を充実することが重要となる。

結婚する、子どもが生まれるといったライフステージの転換期に際して、就職時に親と同居した若年層がその後の住み替えをしやすいような支援策が重要となる。

(3) 人口の将来展望

アンケート及びグループインタビューの結果から、人口の将来展望を描く上で踏まえるべきUターンや結婚・子育てに対する意識は以下のように整理することができる。

- 大学等への進学に伴う転出を抑制することは現実的ではなく、鯖江市へのUターン、周辺市町を含む北陸各地域出身者の鯖江市へのJターンを促すことがより現実的であると考えられる。
- 若年層の居住地選択に係る理想的条件と子育てのしやすさという現実的条件を鯖江市は既に満たしているものと考えられることから、上記のUターン、Jターンを増やすことの潜在的な可能性はあるものと考えられる。

- 学生の時期から、結婚や子育てを意識し、かつ鯖江市での子育てを望んでいることから、若年層、とりわけ女性の転入を増やすことが、合計特殊出生率を維持・向上させることにつながるものと考えられる。

(4) 人口ビジョン

本調査と並行して策定が進められた総合戦略においては、将来に向けた人口ビジョンが下記のとおり掲げられている。本調査においても、人口ビジョンとしてこの内容を踏襲する。

鯖江市の人口減少に歯止めをかけるためには、①国の長期ビジョンと同様に、合計特殊出生率を人口置換水準以上に引き上げ、出生数を増加させていくこと、②若者世代、特に母親世代人口の社会増（鯖江市からの転出を抑え、鯖江市への転入を増やす）を増やすことを同時並行的に実施することが必要不可欠であると考える。

国の長期ビジョンにおいては、2060年に総人口1億人程度を確保することを目指し、2020年に合計特殊出生率を1.6程度、2030年に1.8程度まで向上し、2040年に人口置換水準（2.07）に引き上げるとともに、現在、35歳未満の若い世代で約10万人が地方から東京圏へ転入超過という状況を2020年に是正するという目標を立てている。

鯖江市の目指すべき方向と国の長期ビジョンは一致していることから、国の長期ビジョンとの整合性を図り、次のような人口の将来展望を掲げることとする。

現在の合計特殊出生率1.68を2025年に1.8程度まで向上し、2035年に人口置換水準（2.07）、2040年に2.1まで向上させる。

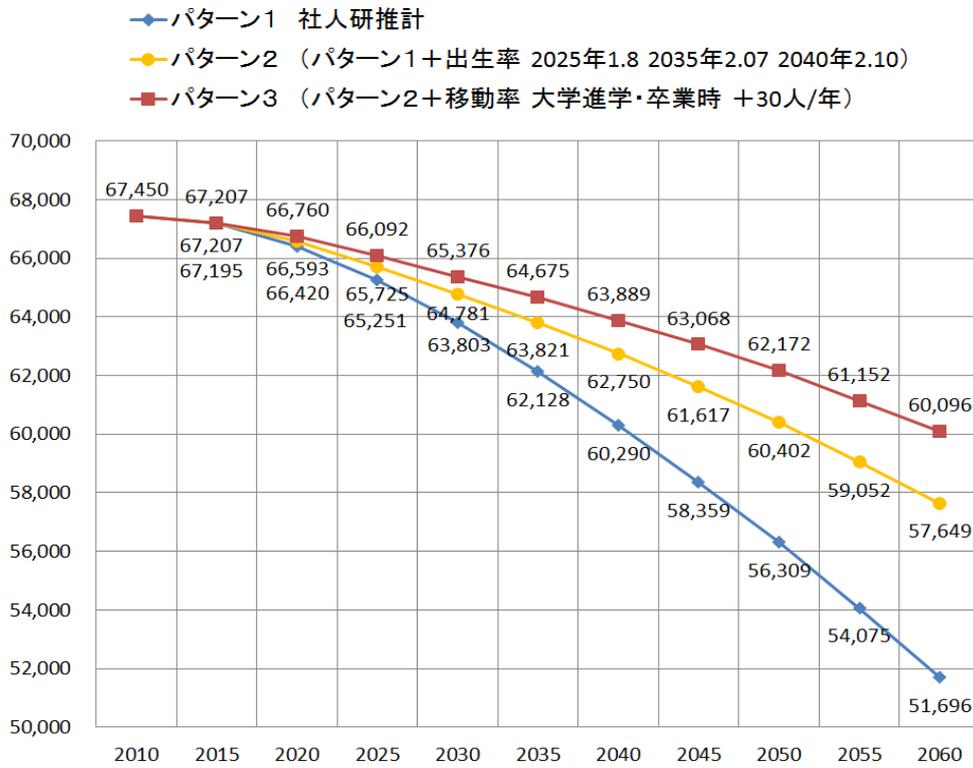
若者の大学・短大等の進学時や卒業時における転出抑制や、Uターン・Jターン等の転入促進により社会増減を現在の推計値よりも毎年30人増加させる。

合計特殊出生率の向上については、現在、本市の合計特殊出生率は1.68と国の1.38よりも高い水準にあることから、国の数値目標を5年前倒しで達成するとともに、最終的に人口置換水準（2.07）を超える2.1にまで向上させることとする。

社会増については、国の長期ビジョンでは東京への若者の転入超過（10万人程度）を是正し、2020年までに均衡させるとしているが、鯖江市においては、2060年まで、やや社会増で推移すると推計されていることから、より意欲的な目標として、転出抑制よりも転入促進に重点を置く中で、若者を推計値よりも毎年30人増加させることを目指す。

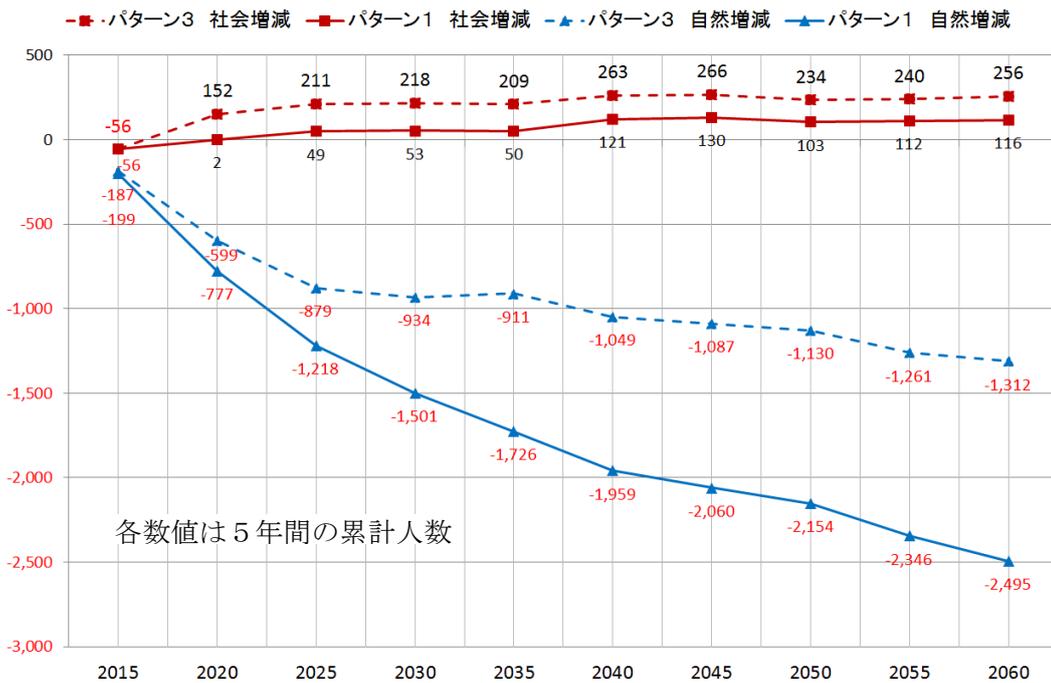
その結果、出生率の向上により、人口は2060年において約5万7千人（社人研の推計よりも約6千人の増加）にまで増加し、さらに、若者の社会増により約6万人（さらに約2千400人の増）まで増加することになる。

図表 5-1 仮定による将来人口推計(単位:人)



(出所)社人研「日本の地域別将来推計人口」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

図表 5-2 仮定による自然増減・社会増減の将来推計(単位:人)



各数値は5年間の累計人数

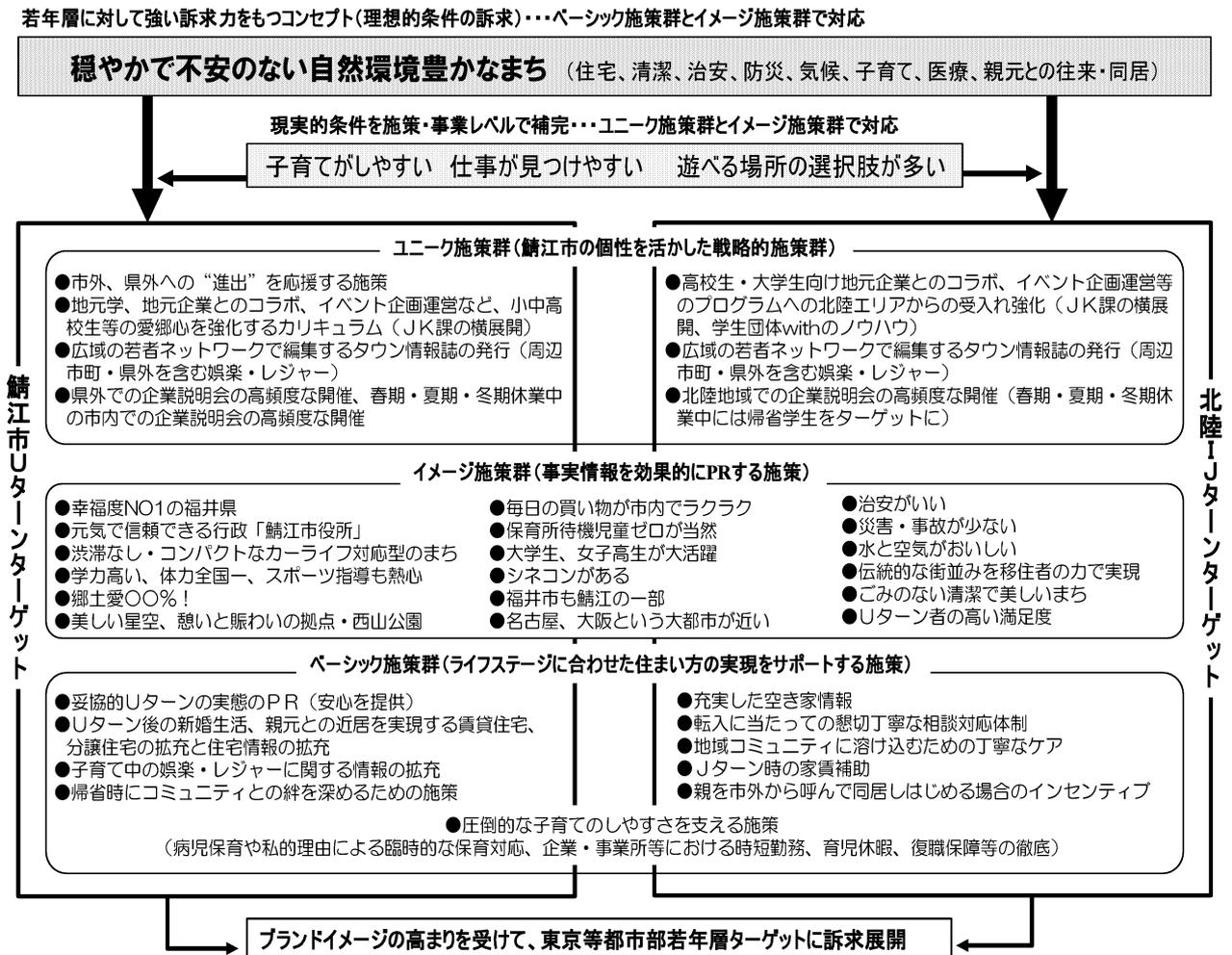
(出所)社人研「日本の地域別将来推計人口」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

2. 今後の有効な施策の検討

(1) 施策の全体像

第1章から第4章にわたる調査結果を踏まえ、若者が住みたくなる・住み続けたいとなるまちづくりに向けた施策を次のとおり検討した。

図表 5-3 若者が住みたくなる・住み続けたいとなるまちづくりに向けた施策の全体像



① 若年層に対して強い訴求力をもつまちづくりのコンセプト

「穏やかで不安のない自然環境豊かなまち」

東京、北陸等の居住地域を問わず、現在の若年層(高校卒業時～家族形成期)にとって、居住地を選択する際の理想的な条件は「穏やかで不安のない自然環境豊かなまち」である。

後述する現実的条件が、鯖江市へのU I Jターンの決め手となる条件であるとすれば、この理想的条件は鯖江市の既存住民の定住(定着)、U I Jターン住民のその後の転出抑制のための基礎的な条件であるといえることができる。

具体的には、適当な住宅がみつきやすいこと、清潔なまちであること、治安がよいこと、災害が少ないあるいは防災対策がしっかりしていること、気候がよいこと、子育て環境がよいこと、医療が整っていること、親元との往来がしやすいこと、などである。

鯖江市はこれらの理想的条件の多くを既に満たしているものと考えられる。ただし、適当な住宅がみつきやすいことについては、転入者の受入れだけではなく、定住者のライフステージに応じた住み替えニーズへの対応が最もベーシックな施策として位置付けられる必要がある。

また、多くの理想的条件を満たしているとはいえ、その事実が鯖江市内及び周辺の北陸地域の若年層にしっかりと認識されていないことが推察される。鯖江市がいかに「穏やかで不安のない自然環境豊かなまち」に適った地域であるかということの認知を効果的に広げる対応がイメージ施策として位置付けられる必要がある。

② 居住地選択の現実的条件を満たす施策の方向

「子育てがしやすい 仕事がみつけやすい 遊べる選択肢が多い」

現在の若年層（高校卒業時～家族形成期）にとって、居住地を選択する際の現実的な条件は「子育てがしやすい 仕事がみつけやすい 遊べる選択肢が多い」ということである。これは、前述の理想的条件に対して、鯖江市へのU I Jターンの決め手となる条件であるといえる。

「子育てがしやすい」という点については、鯖江市における施策、及び地域における互助関係の現状をみると十分に対応できているものとみられるが、その“ありがたみ”が市民の間で十分に共有されていないため、市外に向けて積極的にPRすることをイメージ施策として位置付ける必要がある。また、その“ありがたみ”を更に強化するため、病児保育や私的理由による臨時的な保育対応、親との同居、近居による安心感がもてる住宅環境の確保に対する支援、企業・事業所等における時短勤務、育児休暇、復職保障等の徹底をベーシックな施策として位置付けることが必要である。

「仕事をみつけやすい」という点については、鯖江市における最も重要な課題の一つである。既に実施されている企業・事業所における技術開発やイノベーションによる事業拡大等に向けた支援施策も重要であるが、他方、福井市や金沢市、富山市等の市外大学等の学生等を対象とした市外・県外での企業説明会や鯖江市出身者の帰省時に時機を合わせた企業説明会等を頻繁に開催することなどを鯖江市独自のユニークな施策として位置付けることが必要である。

これは、交通や住まいの面で不便が目立つ事業所でありながらも毎年多数の応募があり、複数名を市外から新規採用をしている事業者が存在することを踏まえると、企業を魅力化し、有効な情報発信をすることができれば、就職に伴う転入を増加させる可能性は十分にあるものと考えられる。

「遊べる選択肢が多い」という点については、鯖江市の短所であると言わざるを得ない。エンターテインメント性の高いローカル情報の不足感も否めない。しかしながら、鯖江市での生活においては、福井市、越前市、越前町等の隣接市町と一体的な生活圏が形成されているということ、高校生でさえも滋賀県竜王町や名古屋、大阪など県外でのショッピングを楽しんでいるという実態を踏まえると、鯖江市における買い物、遊びの選択肢が少ないことだけを捉えて過小評価するべきではな

い。このように、広域の生活圏に目を向ければ買い物や遊びの選択肢が広がることを、若年層自身の声を通して積極的にPRすることを鯖江市独自のユニークな施策として位置付ける必要がある。丹南ケーブルテレビが地元メディアとして存在し、かつ同社としても若者が参加できるメディアであろうとする意欲を持っていることが追い風となるであろう。

さらに、若者が活躍する機会が多いまちであるということ積極的にPRすることもまた、鯖江市のこれまでの取組実績を活かしたユニークな施策として位置付けることができる。

(2) 施策のターゲット

若者が住みたくなる・住み続けたくなるまちづくりに係る施策のターゲットは次のとおり大きく3つに分けられる。

①鯖江市Uターンターゲット

1つ目は、鯖江市出身で県外に大学等への進学、就職等で転出した若年層のUターンを増加させる施策のターゲットである。ただし、就職で転出した若年層のUターンを促すことは困難性が高いものと考えられるため、施策の内容検討に当たっては、基本的には大学卒業時等の就職に際してのUターンを重視するのが現実的である。

鯖江市での生活の“ありがたさ”を再認識する機会や、就職後の結婚、出産等のライフステージの変化に応じた住まい方ができるという安心感等を提供することとなる。特に、県外での学生生活や社会人生活に疲れを感じている出身者にとって、こうした安心感は貴重な価値をもつ。

また、今後県外に進学することが予想される中学生、高校生等を対象に、鯖江市への愛着、誇り（シビックプライド）を醸成するような機会を提供することとなる。

さらに、本人はもちろんのこと、親たちの意向を踏まえて、これまでの転出抑制の発想を転換して、むしろ県外への進学を応援する施策を講じることによって、ふるさとへの感謝の気持ちを醸成することも重要な視点となろう。

②北陸I Jターンターゲット

2つ目は、福井県内各市町、石川県、富山県等の北陸地域において高校や大学等に在学している若年層のI Jターンターゲットである。

これら北陸地域の高校生や大学生等については、卒業後の鯖江市での就職を前提としたIターンの対象、北陸以外が出身者の大学生等については、卒業後の鯖江市での就職を前提としたJターンの対象となる。就職時のI Jターン誘導策はもちろんのこと、在学中から鯖江市との深い関わりを持ってもらうことも含めて施策の対象となる。

③東京等都市部若年層ターゲット

3つ目は、東京等の都会に在住している若年層のU I Jターンターゲットである。

これら都会に在住する若年層は現実的条件をより強く重視する傾向にある。したがって、例えば鯖江市外も含めた広域の生活圏での遊び方があるといった情報をPRしても、①鯖江市Uターンターゲットや、②北陸Jターンターゲットに対するような効果は期待できない。

これら東京等都市部若年層ターゲットについては、①鯖江市Uターンターゲットや、②北陸JターンターゲットのU I Jターンの実績を積み重ね、「絶好のU I Jターン地域」といったブランドイメージが高まってから対応していくのが現実的である。

(3) 個別施策

① 鯖江市の個性を活かした戦略的施策群（ユニーク施策群）

- J K課の取組実績、鯖江市内でも活躍している学生団体 with との連携実績、その他若者の主体性を引き出すような各種施策の実績を活かして、鯖江市内の中学生、高校生はもちろん、北陸地域の高校生や大学生等を主役にした、鯖江市への愛着を高める効果、楽しめるまちであるとの気持ちを高める効果が期待できるような施策を講じる。
- 具体的には、J K課のような活動チームを女子高校生・高専生だけでなく、小中学生にも応用展開する。活動テーマとしては、学校や地域単位とした地域の魅力を探る地元学への取組、眼鏡や漆器等の伝統産業の事業者とのコラボレーションによるマーケティングや商品開発、若者自身が楽しいと思えるイベントの企画・運営等の機会を今以上に数多く設けるのが望ましい。また、学生団体 with のノウハウをいただいて、一体的な生活圏を構成する隣接市町在住・在学の高中生、大学生等はもちろんのこと、県内、石川県、富山県の高中生、大学生等にも参加も呼び掛けて、こうした活動を展開することにより、鯖江市に対する親近感を育てる効果が期待できる。
- 独自のタウン誌（地域情報誌）やインターネットにおけるコミュニティサイトを一体的な生活圏を構成する隣接市町や県内、石川県、富山県の若者主導で編集・発行する機会を設ける。これにより、娯楽・レジャーの機会が乏しいというイメージを払拭するとともに、若者が地域メディアをリードしているという若々しい地域イメージを定着させる効果も期待できる。丹南ケーブルテレビとの連携も視野に入れるのが得策である。
- 鯖江市に若者の転入は、市内での就職を促すことにより現実化する可能性が高い。そのためには、ホームページ等を利用した企業情報の紹介や求人サイトの開設など転入のきっかけづくりに加え、石川県や富山県、東京都をはじめとする県外の大学に在籍する学生を対象とした企業説明会を県外でも高頻度に開催することが望まれる。鯖江市出身の学生については、春期、夏期等の帰省の折、市内で企業説明会が頻繁に開催できれば参加しやすい。
- 大学進学以前から教育や家庭の場で地元企業への認識を深める機会を提供しながら、その上で大学等への進学時に鯖江市から若者が転出することを抑制するのではなく、むしろこ

それを市外、県外への“進出”として応援する方が親や若者自身の気持ちに素直に即しており、卒業（修了）・就職時等にUターンしたくなる気持ちを高める効果が期待できる。

- 就職のためのUターンと同時に、起業のためのUターンも有効である。現在、国の施策や地方創生など起業を促進する機運が高まっており、鯖江市では起業を促す風土や制度を有している。幅広い分野での起業を促す仕組みや情報発信によって、新たなUターンの機会となりうる。

図表 5-4 鯖江市の個性を活かした戦略的施策群(ユニーク施策群)

鯖江市Uターンターゲットの施策	北陸IJターンターゲットの施策
・地元学、地元企業とのコラボ、イベント企画運営など、小中高校生等の愛郷心を強化するカリキュラム（JK課の横展開）	・高校生・大学生向け地元企業とのコラボ、イベント企画運営等のプログラムへの北陸エリアからの受入れ強化（JK課の横展開、学生団体withのノウハウ）
・広域の若者ネットワークで編集するタウン情報誌の発行（周辺市町・県外を含む娯楽・レジャー）	・広域の若者ネットワークで編集するタウン情報誌の発行（周辺市町・県外を含む娯楽・レジャー）
・県外での企業説明会の高頻度な開催、春期・夏期・冬期休業中の市内での企業説明会の高頻度な開催	・北陸地域での企業説明会の高頻度な開催（春期・夏期・冬期休業中には帰省学生をターゲットに）
・市外、県外への“進出”を応援する施策	

② 鯖江市の住みよさに関する事実情報を効果的にPRする施策群（イメージ施策群）

- 鯖江市が誇るべき暮らしやすさの実態を、事実情報として市内外に効果的にPRする施策を講じる。特に、市民にとってはあまりにも当たり前になりすぎて、そこに価値を認識できていないという実態がうかがえる。したがって、単にPRするというのではなく、周辺他地域との比較、都会との比較等により、目にみえるかたちでその“ありがたみ”を実感できる機会を設けるのが得策である。
- 例えば、保育園の入所について「待機児童が発生すればむしろニュースになる」と言われるほどに入所しやすいという事実は、子育て中又はその予備軍の若年世帯にとっては極めて価値の高い事実情報となる。また、「学力が高い県」と言えば「秋田県が第一位」という情報が注目されがちであるが、鯖江市を含む北陸地域はそれに次いで高いにもかかわらず注目度が低い。福井県の子どもの体力の高さや幸福度の高さについては県外ではあまり知られていないものとみられる。このほかにも、星空がきれいであること、日常の買い物が便利であることなど日常的に感じられる魅力は様々である。
- こうした情報をデータ化し、画像、映像や市民の声とともに市内外にPRする。
- 市内外にPRする際には、発信する情報内容に応じて、どのような人をターゲットに、どのようなチャンネル・ツールを使用すべきかを十分に検討することが重要である。例えば、「子育て関連の情報は、0～3歳児を持つ母親に対して、健診時に保健師を通じて伝える」「企業関連の情報は、就職を意識する若者に対して、成人式や進路指導教師等を介して周知する」など、きめ細かく地道な取組を続けていくことが望まれ、「さばえものづくり博

覧会」のような既存の取組を核とした更なる展開も有効と考えられる。また、ホームページを用いた情報発信では重要項目の強調やスマートフォンへの対応など、受信者のニーズに合わせた柔軟な対応が求められる。

図表 5-5 鯖江市の住みよさに関する事実情報を効果的にPRする施策群(イメージ施策群)

鯖江市Uターンターゲット／北陸IJターンターゲットの施策（共通）	
・幸福度 N01 の福井県	・シネコンがある
・元気で信頼できる行政「鯖江市役所」	・福井市も鯖江の一部
・渋滞なし・コンパクトなカーライフ対応型のまち	・名古屋、大阪という大都市が近い
・学力高い、体力全国一、スポーツ指導も熱心	・治安がいい
・郷土愛〇〇%！	・災害・事故が少ない
・美しい星空、憩いと賑わいの拠点・西山公園	・水と空気がおいしい
・毎日の買い物が市内でラクラク	・伝統的な街並みを移住者の力で実現
・保育所待機児童ゼロが当然	・ごみのない清潔で美しいまち
・大学生、女子高生が大活躍	・Uターン者の高い満足度

③ ライフステージに合わせた住まい方の実現をサポートする施策群（ベーシック施策群）

- 鯖江市Uターン者は就職時に親元で同居することが多いと考えられるが、その後自立心が高まるにつれて単身生活を志向することもある。その後も結婚、出産等のライフステージに応じて住み替えすることとなる。こうした住み替えニーズに対応し、新婚向け賃貸物件は十分に供給されているといったきめ細かな住宅情報を意図的に充実するほか、家賃助成等の家計支援も視野に入れる。
- また、子育て中の家族世帯にとっては近所づきあいや娯楽・レジャーが重要な生活場面となるため、こうした日常生活に対するケアについても施策として充実を図る。
- 北陸I Jターン者は就職時に単身生活をする事となるため、独身ニーズに合った住宅の確保と情報の充実が不可欠である。家賃助成等の家計支援も視野に入れる。
- また、近所づきあいやコミュニティのルール等に対しても敏感であるため、そこに溶け込むことのできるような丁寧なケアが必要不可欠である。
- いずれのターゲットに対しても、圧倒的な子育てのしやすさを整えることがU I Jターンを促進することにつながる重要な施策となる。

図表 5-6 ライフステージに合わせた住まい方の実現をサポートする施策群(ベーシック施策群)

鯖江市Uターンターゲットの施策	北陸IJターンターゲットの施策
・妥協的Uターンの実態のPR（安心を提供）	・充実した空き家情報
・Uターン後の新婚生活、親元との同居を実現する賃貸住宅、分譲住宅の拡充と住宅情報の拡充	・転入に当たっての懇切丁寧な相談対応体制
・子育て中の娯楽・レジャーに関する情報の拡充	・地域コミュニティに溶け込むための丁寧なケア
・帰省時にコミュニティとの絆を深めるための施策	・Jターン時の家賃補助
	・親を市外から呼んで同居しはじめる場合のインセンティブ
・圧倒的な子育てのしやすさを支える施策 (病児保育や私的理由による臨時的な保育対応、企業・事業所等における時短勤務、育児休暇、復職保障等の徹底)	

3. 総合戦略のローリングと施策の効果を評価する視点

(1) 総合戦略と本章における施策の関係

総合戦略においても、本調査研究の趣旨である若者が住みたくなる、住み続けたくなるまちの実現に向けた施策と目標を同じくする施策・事業が掲げられている。そこで、総合戦略に即した施策・事業の執行に当たっては、本調査研究で掲げた施策の背景、内容等も参考とするのが得策である。

また、総合戦略のローリングに当たっては、同戦略に掲げた重要業績評価指標 K P I に合わせて、次の K P I についても可能な限り測定し、戦略の見直し（修正、追加等）において活用するのが望ましい。

図表 5-7 総合戦略と本調査研究において検討した施策の関係及び施策のKPI

基本目標	基本施策	本調査研究において検討した施策	K P I（重要業績指標）
魅力ある雇用の創出	若者に魅力ある働く場の確保	【市外の鯖江市民向け】 県外での企業説明会の高頻度な開催、春期・夏期・冬期休業中の市内での企業説明会の高頻度な開催 【北陸在住者向け】 北陸地域での企業説明会の高頻度な開催（春期・夏期・冬期休業中には帰省学生をターゲットに）	【アウトプット】地域別企業説明会の開催回数 【アウトカム】企業説明会を通じて採用した新入社員数
	女性が輝くまちの創造	保育所待機児童ゼロが当然、など事実情報の PR	【アウトカム】市内・周辺地域及び全国における同事実の認知度
若者が住みたくなるまちの創造	若者の夢を応援するまち（背中を押す施策）	市外、県外への“進出”を応援する施策	【アウトカム】高校等卒業時、大学等卒業時に転出した市民の U ターン率、応援（期待）に対して応えようという意思をもつ転出者の割合
	若者の夢を応援するまち（背中を押す施策）	【市外の鯖江市民向け】 妥協的 U ターンの実態の PR（安心を提供）	【アウトカム】高校等卒業時、大学等卒業時に転出した市民の U ターン率
	若者の夢を応援するまち（イメージどおりの住まい方をサポートする施策）	【市外の鯖江市民向け】 U ターン後の新婚生活、親元との近居を実現する賃貸住宅、分譲住宅の拡充と住宅情報の拡充	【アウトプット】ライフステージにあった住宅を市内で確保しやすいと感じた U ターン者の割合 【アウトカム】高校等卒業時、大学等卒業時に転出した市民の U ターン率
		【市外の鯖江市民向け】 帰省時にコミュニティとの絆を深めるための施策	【アウトカム】高校等卒業時、大学等卒業時に転出した市民の U ターン率
		【北陸在住者向け】 充実した空き家情報	【アウトカム】北陸地域からの J ターン者数
		【北陸在住者向け】 転入に当たっての懇切丁寧な相談対応体制	
		【北陸在住者向け】 地域コミュニティに溶け込むための丁寧なケア	
		【北陸在住者向け】 J ターン時の家賃補助	
	【北陸在住者向け】 親を市外から呼んで同居しはじめる場合のインセンティブ		
	ものづくり教育とふるさと学習の推進	【鯖江市民向け】 地元学、地元企業とのコラボ、イベント企画運営など、小中高生等の愛郷心を強化するカリキュラム（JK課の横展開）	【アウトプット】該当事業への小中高生参加者数 【アウトカム】将来鯖江市に戻ってきたいと思う小中高生の割合
【北陸在住者向け】 高校生・大学生向け地元企業とのコラボ、イベント企画運営等のプログラムへの北陸エリアからの受入れ強化（JK課の横展開、学生団体 with のノウハウ）		【アウトプット】該当事業への市外高校生・大学生等参加者数 【アウトカム】将来鯖江市で暮らしたいと思うに至った参加者数・割合	
大学生、女子高生が大活躍している、など事実情報の PR		【アウトカム】市内・周辺地域及び全国における同事実の認知度	

図表 5-7 総合戦略と本調査研究において検討した施策の関係及び施策のKPI（続き）

基本目標	基本施策	本調査研究において検討した施策	KPI（重要業績指標）
若者が住みたくなるまちの創造	市民が主体的に参画できるまち	広域の若者ネットワークで編集するタウン情報誌の発行（周辺市町・県外を含む娯楽・レジャー）	【アウトプット】当該事業に参画した市内外の高校生・大学生等の数、情報誌の発行回数、発行部数（読者数） 【アウトカム】鯖江市で暮らすことが楽しい、地域情報が豊富だと感じる若年層（20～30歳代）の割合
		元気で信頼できる行政「鯖江市役所」、など事実情報のPR	【アウトカム】市内・周辺地域及び全国における同事実の認知度
若くて元気なまちの創造	安心して結婚・出産・子育てができるまち	子育て中の娯楽・レジャーに関する情報の拡充	【アウトカム】市内で子連れで楽しむ機会に満足している親の割合
	学力・体力日本一のまち	学力高い、体力日本一、スポーツ指導も熱心、など事実情報のPR	【アウトカム】市内・周辺地域及び全国における同事実の認知度
	（該当なし）	幸福度NOIの福井県、郷土愛〇〇%！、Uターンの高い満足度、伝統的な街並みを移住者の力で実現、などの事実情報のPR	【アウトカム】市内・周辺地域及び全国における同事実の認知度
安心で快適に暮らせるまちの創造	西山公園と中心市街地の一体化 みんなでつくろう安全・安心なまち 市民と共に”まち美化”の推進	憩いと賑わいの拠点・西山公園、渋滞なし・コンパクトなカーライフ対応型のまち、毎日の買い物市内でラクラク、シネコンがある、福井市も鯖江の一部、名古屋、大阪という大都市に近い、治安がいい、災害・事故が少ない、水と空気がおいしい、ごみのない清潔で美しいまち、元気で信頼できる行政「鯖江市役所」、など事実情報のPR	【アウトカム】市内・周辺地域及び全国における同事実の認知度

(2) KPIを評価する視点

総合戦略のローリングに当たって本調査研究において検討した施策のKPIについても可能な限り測定し、戦略の見直し（修正、追加等）において活用するのが望ましいとしたが、その評価に当たっては単に数値を一律に評価するのではなく、次の視点を持つことが重要となる。

①目標は合計特殊出生率の向上と純移動数の増加

本調査研究において検討した施策の目標は人口ビジョンの前提としている合計特殊出生率の向上と純移動数の増加である。人口ビジョンは2060年を目標年次としているが、ここでは当面10年程度先を視野に、次のことを達成目標として設定し、いずれの目標に資する施策であるのかをあらかじめ仕分けしておくのが適当であろう。

- 鯖江市の現在の合計特殊出生率1.68を、2025年に1.8程度まで向上させること
- 若者の大学・短大等の進学時や卒業時における転出抑制や、Uターン・Iターン等の転入促進により社会増減を現在の推計値よりも毎年30人増加させる。

ここでは、「出」（合計特殊出生率の向上に寄与）、「促」（転入増加に寄与）、「抑」（転出抑制）の3種類で、主たる効果に該当するものを設定する。

②目標に対する直接性（即効性）

それぞれの施策は、合計特殊出生率の向上あるいは純移動数の増加のいずれかに効果をもたらすものとして検討したものであるが、それぞれの目標に対してどの程度の直接的効果が期待できるかについては一律ではない。

例えば婚活事業によって結婚する人が増えることは合意特殊出生率を高める上で一定の影響を与えることにはなるが、結婚しても2人以上の子をもうけないという可能性がありうるため、それはあくまでも間接的、遅効的な影響にとどまる。他方、独身社会人に対する家賃補助の場合、これが奏功した場合は直接的、即効的に社会増につながる。

評価に当たっては、その直接性、間接性を考慮することが必要である。

ここでは、その直接性を◎（直接的）、○（ある程度直接的）、△（間接的）の三段階で設定する。

③時間的優先順位

それぞれの施策は、合計特殊出生率の向上あるいは純移動数の増加のいずれかに効果をもたらすものとして検討したものであるが、鯖江市における現状を考慮した時間的優先順位についても考慮することが必要である。

例えば鯖江市Uターンターゲットに対する施策はその効果が北陸I Jターンターゲットよりも優先的に着手するのが効果的であろう。それに対し、市内の中学生、高校生を対象に鯖江市への愛着を醸成するような施策は、多少の時間をかけてじっくりと取り組んで初めて効果が期待できるものである。そのような時間的優先順位を考慮して評価することが必要である。

ここでは、その時間的優先順位を◎（第一優先）、○（第二優先）、△（第三優先）の三段階で設定する。

図表 5-8 本調査研究において検討した施策のKPIを評価する視点

基本施策	本調査研究において検討した施策	2つの目標	(即効性) 直接性	優先順位 時間的
若者に魅力ある働く場の確保	【市外の鯖江市民向け】 県外での企業説明会の高頻度な開催、春期・夏期・冬期休業中の市内での企業説明会の高頻度な開催	促	○	◎
	【北陸在住者向け】 北陸地域での企業説明会の高頻度な開催(春期・夏期・冬期休業中には帰省学生をターゲットに)	促	○	○
女性が輝くまちの創造	保育所持機児ゼロが当然、など事実情報のPR	出	△	△
若者の夢を応援するまち(背中を押す施策)	市外、県外への“進出”を応援する施策	促	△	◎
若者の夢を応援するまち(背中を押す施策)	【市外の鯖江市民向け】 妥協的Uターンの実態のPR(安心を提供)	促	△	◎
若者の夢を応援するまち(イメージどおりの住まい方をサポートする施策)	【市外の鯖江市民向け】 Uターン後の新婚生活、親元との近居を実現する賃貸住宅、分譲住宅の拡充と住宅情報の拡充	抑	○	◎
	【市外の鯖江市民向け】 帰省時にコミュニティとの絆を深めるための施策	促	△	◎
	【北陸在住者向け】 充実した空き家情報	促	○	○
	【北陸在住者向け】 転入に当たっての懇切丁寧な相談対応体制	促	○	○
	【北陸在住者向け】 地域コミュニティに溶け込むための丁寧なケア	促	△	○
	【北陸在住者向け】 Jターン時の家賃補助	促	◎	○
	【北陸在住者向け】 親を市外から呼んで同居しはじめる場合のインセンティブ	出	◎	○
ものづくり教育とふるさと学習の推進	【鯖江市民向け】 地元学、地元企業とのコラボ、イベント企画運営など、小中高生等の愛郷心を強化するカリキュラム(JK課の横展開)	促	△	◎
	【北陸在住者向け】 高校生・大学生向け地元企業とのコラボ、イベント企画運営等のプログラムへの北陸エリアからの受入れ強化(JK課の横展開、学生団体withのノウハウ)	促	△	○
	大学生、女子高生が大活躍している、など事実情報のPR	促	△	△
市民が主体的に参画できるまち	広域の若者ネットワークで編集するタウン情報誌の発行(周辺市町・県外を含む娯楽・レジャー)	促	△	△
	元気で信頼できる行政「鯖江市役所」、など事実情報のPR	促	△	△
安心して結婚・出産・子育てができるまち	子育て中の娯楽・レジャーに関する情報の拡充	抑	○	
学力・体力日本一のまち	学力高い、体力日本一、スポーツ指導も熱心、など事実情報のPR	促	△	△
(該当なし)	幸福度NO1の福井県、郷土愛○○%!、Uターン者の高い満足度、伝統的な街並みを移住者の力で実現、などの事実情報のPR	抑	△	◎
西山公園と中心市街地の一体化 みんなでつくろう安全・安心なまち 市民と共に“まち美化”の推進	憩いと賑わいの拠点・西山公園、渋滞なし・コンパクトなカーライフ対応型のまち、毎日の買い物が市内でラクラク、シネコンがある、福井市も鯖江の一部、名古屋、大阪という大都市に近い、治安がいい、災害・事故が少ない、水と空気がおいしい、ごみのない清潔で美しいまち、元気で信頼できる行政「鯖江市役所」、など事実情報のPR	促	△	△

(出所)ビズデザイン作成

調査研究委員会概要

調査研究委員会概要

1. 調査研究委員会名簿

委員長	井上 武史	福井県立大学 地域経済研究所 准教授
委員	齋藤 晋	鯖江市区長会連合会 副会長
	野村 一榮	鯖江商工会議所 会頭
	小松原一身	一般社団法人福井県眼鏡協会 副会長
	加藤 貞子	子ども子育て会議 委員
	竹部 美樹	鯖江市市民主役条例推進委員会 委員
	新山 直広	T S U G I
	三上 裕介	鯖江市 地方創生統括監
	斎藤 幸治	鯖江市 政策経営部長
	鈴木 善彰	一般財団法人地方自治研究機構 調査研究部長
	事務局	齋藤 邦彦
齋藤 修一		鯖江市 政策経営部 地方創生戦略室長補佐
内田 吉彦		鯖江市 政策経営部 地方創生戦略室長補佐
久保田信治		一般財団法人地方自治研究機構 調査研究部 主任研究員
櫻井 宏一		一般財団法人地方自治研究機構 調査研究部 研究員
基礎調査 機関	木村 乃	ビズデザイン株式会社 代表取締役
	木村 祐子	ビズデザイン株式会社 取締役
	小泉 美穂	ビズデザイン株式会社
	鈴木 和也	ビズデザイン株式会社

(順不同 敬称略)

2. 調査研究委員会開催経緯

委員会	主な議題
第1回委員会 (平成27年7月15日)	<ol style="list-style-type: none">1 市の概況と関連施策の取組経緯等について2 調査研究企画書案について3 作業計画（人口分析、アンケート調査、ヒアリング調査等）について
第2回委員会 (平成27年10月2日)	<ol style="list-style-type: none">1 第1回委員会での主な指摘事項と対応等について2 アンケート及びグループインタビューの分析結果について3 現時点での考えられる有効な施策の方向性仮説について
第3回委員会 (平成28年1月22日)	<ol style="list-style-type: none">1 第2回委員会での主な指摘事項と対応等について2 報告書案について

資料編

資料編

1. WEBアンケート調査票

MACROMILL 

若年層の居住地の選択条件等に関する意識調査

大学生から34歳までの若年層の方々を対象に、居住地の選択条件や現在お住いの地域(自治体)に対する満足度、転居の決め手となる条件等をお伺いします。調査の結果は統計的に処理し、個別の回答を公表することはありません。

本調査は、一般財団法人地方自治研究機構と福井県鯖江市による共同研究の一環として実施するものです。

何卒、ご回答へのご協力をお願い致します。

当アンケートの回答者の皆様へお願い

当アンケートの内容および当アンケートで知り得た情報については、決して第三者に口外しないよう(掲示板やホームページへの書き込みを含む)、ご協力をお願いします。

【注意事項】

アンケート中は、ブラウザの「戻る」ボタンは押さぬようご注意ください。
押されますと、それまでの回答内容が消去されてしまいます。よろしくお願いいたします。

【次へ】ボタンを押してアンケートへ進んでください。
アンケートに参加されない場合は、【回答をやめる】ボタンを押してください。

戻る(回答者には表示されません)

回答をやめる

次へ

お住いになる地域を選択する際の条件についておうかがいします。

01

以下の各項目について、お住いになる地域を選択する際にどの程度重視するかを10点満点で評価してください。

なお、最高点の10点は「絶対に譲れない条件」、最低点の1点は「まったく気にしない条件」という感覚で
ご回答ください。

【必須入力】

	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点
1. 手頃な家賃、広さ、間取りの住宅が見つかりやすい	<input type="radio"/>									
2. 地域の祭りや催事が盛んである	<input type="radio"/>									
3. 頼りがいのある近所づきあいがある	<input type="radio"/>									
4. 大学、予備校、専修学校、専門学校などに通いやすい	<input type="radio"/>									
5. 図書館、美術館・博物館等を利用しやすい	<input type="radio"/>									
	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点
6. スポーツ施設・広場を利用しやすい	<input type="radio"/>									
7. 音楽や演劇等のイベントが楽しめることが多い	<input type="radio"/>									
8. 繁華街など飲食が楽しめることが多い	<input type="radio"/>									
9. 買い物を楽しめることが多い	<input type="radio"/>									
10. 遊べる場所の選択肢が多い	<input type="radio"/>									
	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点
11. 希望の職種で通える就職先(バイト先)が見つかりやすい	<input type="radio"/>									
12. 希望する収入を得られる就職先(バイト先)が見つかりやすい	<input type="radio"/>									
13. 休暇をとりやすい就職先(バイト先)が見つかりやすい	<input type="radio"/>									
14. 農業や水産業などに関係する仕事(バイト)が見つかりやすい	<input type="radio"/>									
15. 地場産業や伝統産業に関係する仕事(バイト)が見つかりやすい	<input type="radio"/>									
	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点
16. 医療施設(病院・診療所・歯科など)が利用しやすい	<input type="radio"/>									
17. 子育てがしやすい	<input type="radio"/>									
18. 台風・地震・津波等の自然災害の心配が少ない	<input type="radio"/>									
19. 治安がよい	<input type="radio"/>									
20. 火災や交通事故が少ない	<input type="radio"/>									
	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点
21. 気候がよい	<input type="radio"/>									
22. 緑が多い	<input type="radio"/>									
23. 水や空気がおいしい	<input type="radio"/>									
24. ごみごみした様子がなく清潔感がある	<input type="radio"/>									
25. 悪臭や騒音などの公害が少ない	<input type="radio"/>									
	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点
26. 新幹線や空港が利用しやすい	<input type="radio"/>									
27. 電車やバスが利用しやすい	<input type="radio"/>									

28. 高速道路が利用しやすい	→	<input type="radio"/>									
29. ブランドイメージがある	→	<input type="radio"/>									
30. 歴史や伝統を感じられる街並みがある	→	<input type="radio"/>									
		10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点
31. ファッションブルでおしゃれな雰囲気がある	→	<input type="radio"/>									
32. 若者が活躍している	→	<input type="radio"/>									
33. 行政が信頼できる	→	<input type="radio"/>									
34. 観光地である	→	<input type="radio"/>									
35. 親しい友人や趣味の仲間達と活動しやすい	→	<input type="radio"/>									
		10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点
36. 親元と往来しやすい、または親と同居できる	→	<input type="radio"/>									

内容をよく確認のうえ、【次へ】ボタンを押してください。

戻る

次へ

MACROMILL 

20%

現在お住いの地域での暮らしについておうかがいします。

- Q2** 現在お住いの地域(自治体)に今後も住み続けたいと思いますか。
 10点満点で評価してください。
 なお、最高点の10点は「絶対にこの地域(自治体)を離れたくない」、最低点の1点は「すぐにでも別の地域(自治体)に引っ越したい」という感覚でご回答ください。
 【必須入力】

10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点
<input type="radio"/>									

内容をよく確認のうえ、【次へ】ボタンを押してください。

戻る

次へ

あなたが現在お住いの地域(自治体)についておうかがいします。

Q3 あなたが現在お住いの地域(自治体)について当てはまるものを1つだけ選んでください。
【必須入力】

- 1. 福井県鯖江市
- 2. 鯖江市以外の福井県
- 3. 石川県金沢市
- 4. 富山県富山市
- 5. 東京都23区

- 6. その他

内容をよく確認のうえ、【次へ】ボタンを押してください。

戻る

次へ

福井県についておうかがいします。

【この質問はQ3で「石川県金沢市」、「富山県富山市」、「東京都23区」と答えた方にお聞きます】

Q4 もしも、福井県に転居することになったら、福井県での暮らしにどの程度期待感をもつことができるでしょうか。
10点満点で評価してください。
なお、最高点の10点は「とても好きになれそうな地域なので大いに期待できる」、
最低点の1点は「まったく好きになれそうにない地域なので何も期待できない」という感覚でご回答ください。
【必須入力】

10点

9点

8点

7点

6点

5点

4点

3点

2点

1点

内容をよく確認のうえ、【次へ】ボタンを押してください。

戻る

次へ

鯖江市についておうかがいします。

【この質問はQ3で「鯖江市以外の福井県」と答えた方にお聞きします】

Q5 もしも、鯖江市に転居することになったとしたら、鯖江市での暮らしにどの程度期待感をもつことができるでしょうか。10点満点で評価してください。

なお、最高点の10点は「とても好きになれるような地域なので大いに期待できる」、

最低点の1点は「まったく好きになれるような地域なので何も期待できない」という感覚でご回答ください。

【必須入力】

10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点
<input type="radio"/>									

内容をよく確認のうえ、【次へ】ボタンを押してください。

戻る

次へ

お住いの地域(自治体)から転居するきっかけとなる条件についておうかがいします。

- Q6** 現在お住いの地域(自治体)から転居するとしたら、どのようなことがきっかけとなりうるでしょうか。次の項目の中から、あてはまるものを5つまで選択してください。この中にあてはまるものがない方も、お気持ちに近いものをお選びください。
※ここでの転居とは、現在お住いの市区町村から別の市区町村への転居を指します。
【必須入力】(5個まで選択)

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 1. 手頃な家賃、広さ、間取りの住宅が見つからない | <input type="checkbox"/> 19. 治安が悪い |
| <input type="checkbox"/> 2. 地域の祭りや催事がない | <input type="checkbox"/> 20. 火災や交通事故が多い |
| <input type="checkbox"/> 3. 頼りがいのある近所づきあいがいい | <input type="checkbox"/> 21. 気候がよくない |
| <input type="checkbox"/> 4. 大学、予備校、専修学校、専門学校などに通いにくい | <input type="checkbox"/> 22. 緑が少ない |
| <input type="checkbox"/> 5. 図書館、美術館・博物館等を利用しにくい | <input type="checkbox"/> 23. 水や空気がおいしくない |
| <input type="checkbox"/> 6. スポーツ施設・広場を利用しにくい | <input type="checkbox"/> 24. ごみごみした様子で清潔感がない |
| <input type="checkbox"/> 7. 音楽や演劇等のイベントが楽しめる場所が少ない | <input type="checkbox"/> 25. 悪臭や騒音などの公害が多い |
| <input type="checkbox"/> 8. 飲食が楽しめる繁華街が少ない | <input type="checkbox"/> 26. 新幹線や空港が利用しにくい |
| <input type="checkbox"/> 9. 買い物を楽しめる場所が少ない | <input type="checkbox"/> 27. 電車やバスが利用しにくい |
| <input type="checkbox"/> 10. 遊べる場所の選択肢が少ない | <input type="checkbox"/> 28. 高速道路が利用しにくい |
| <input type="checkbox"/> 11. 希望の職種で通える就職先(バイト先)がみづかりにくい | <input type="checkbox"/> 29. ブランドイメージがない |
| <input type="checkbox"/> 12. 希望する収入を得られる就職先(バイト先)がみづかりにくい | <input type="checkbox"/> 30. 歴史や伝統を感じられる街並みが少ない |
| <input type="checkbox"/> 13. 休暇をとりやすい就職先(バイト先)がみづかりにくい | <input type="checkbox"/> 31. ファッションブルでおしゃれな雰囲気が少ない |
| <input type="checkbox"/> 14. 農業や水産業などに関係する仕事(バイト)がみづかりにくい | <input type="checkbox"/> 32. 若者が活躍しにくい |
| <input type="checkbox"/> 15. 地場産業や伝統産業に関係する仕事(バイト)がみづかりにくい | <input type="checkbox"/> 33. 行政が信頼できない |
| <input type="checkbox"/> 16. 医療施設(病院・診療所・歯科など)が利用しにくい | <input type="checkbox"/> 34. 観光地がない |
| <input type="checkbox"/> 17. 子育てがしにくい | <input type="checkbox"/> 35. 親しい友人や趣味の仲間達と活動しにくい |
| <input type="checkbox"/> 18. 台風・地震・津波等の自然災害の心配がある | <input type="checkbox"/> 36. 親元と往来しにくい、または親と同居できない |

内容をよく確認のうえ、【次へ】ボタンを押してください。

戻る

次へ

自治体が提供するサービス等と居住地域(自治体)の選択条件との関係についてうかがいます。

- Q7** 自治体が提供するサービス等は、あなたが居住地を選択するにあたってどの程度“決め手となる条件”になるでしょうか。10点満点で評価してください。
 なお、最高点の10点は「居住地を選ぶ重要な決め手になる」、最低点の「1点」は「居住地を選ぶ際の条件にはまったくならない」という感覚でご回答ください。
 【必須入力】

	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点
1. 転入した際に給付される奨励金制度がある	<input type="radio"/>									
2. 充実した空き家情報が提供されている	<input type="radio"/>									
3. 住宅のリフォーム費用に対する助成金制度がある	<input type="radio"/>									
4. 転入に向けての親切丁寧な相談体制が整っている	<input type="radio"/>									
5. 転入後に起業するにあたっての低利子融資制度がある	<input type="radio"/>									
6. 婚活サポート体制がしっかりしている	<input type="radio"/>									
7. 地域コミュニティに溶け込むためのケアがしっかりしている	<input type="radio"/>									
8. 出産や子育てに対する支援制度がしっかりしている	<input type="radio"/>									
9. その地域(自治体)での暮らしを一時的に体験する“お試し転居”ができる	<input type="radio"/>									
10. 若年層の転入者に対する家賃補助制度がある	<input type="radio"/>									
11. その地域(自治体)での仕事体験ができるインターンシップ制度がある	<input type="radio"/>									
12. 就職した後も大学の講座や専門学校等に通学するための奨学金制度が受けられる	<input type="radio"/>									

内容をよく確認のうえ、【次へ】ボタンを押してください。

戻る

次へ

あなた自身についてうかがいます。

Q8 次のうち、あなた自身に当てはまるものを1つだけ選んでください。
【必須入力】

- 1. 大学生
- 2. 大学卒業後就職活動中
- 3. 専門学校卒業後就職活動中
- 4. 短大卒業後就職活動中
- 5. 大学院卒業後就職活動中
- 6. フルタイムで働いている社会人
- 7. パートタイムで働いている社会人
- 8. その他

内容をよく確認のうえ、【次へ】ボタンを押してください。

戻る

次へ

あなたの現在のお住いの状況についてうかがいます。

Q9 次のうち、あなた自身に当てはまるものを1つだけ選んでください。
【必須入力】

- 1. 親と同居している
- 2. 親が近所に住んでいる
- 3. 親は遠方に住んでいる
- 4. 上記のいずれにも当てはまらない

内容をよく確認のうえ、【次へ】ボタンを押してください。

戻る

次へ

あなたが現在お住いの地域(自治体)についてうかがいます。

Q10 次のうち、あなた自身に当てはまるものを1つだけ選んでください。
【必須入力】

- 1. 生まれ育った「地元」といえる自治体(市区町村)である
- 2. 生まれたまちではないが、長く育った「地元」と言える自治体(市区町村)である
- 3. 高校卒業後または大学卒業後に初めて住み始めた自治体(市区町村)である
- 4. 上記のいずれにも当てはまらない

アンケートは以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。
回答もれがないか確認し、よろしければ「送信」ボタンをクリックしてください。

戻る

送信

2. WEBアンケート調査結果の詳細

(1) サンプルの属性

性別	実数	構成比(%)
男性	173	24.6
女性	530	75.4
全体	703	100.0

年齢	実数	構成比(%)
18歳～19歳	73	10.4
20歳～24歳	200	28.4
25歳～29歳	204	29.0
30歳～34歳	226	32.1
全体	703	100.0

未既婚	実数	構成比(%)
未婚	474	67.4
既婚	229	32.6
全体	703	100.0

子供の有無	実数	構成比(%)
子供なし	530	75.4
子供あり	173	24.6
全体	703	100.0

職業(問8)	実数	構成比(%)
大学生	193	27.5
大学卒業後就職活動中	6	0.9
専門学校卒業後就職活動中	0	0.0
短大卒業後就職活動中	2	0.3
大学院卒業後就職活動中	2	0.3
フルタイムで働いている社会人	274	39.0
パートタイムで働いている社会人	107	15.2
その他	119	16.9
全体	703	100.0

親元との関係(問9)	実数	構成比(%)
親と同居している	305	43.4
親が近所に住んでいる	135	19.2
親は遠方に住んでいる	238	33.9
上記のいずれにも当てはまらない	25	3.6
全体	703	100.0

地元意識(問10)	実数	構成比(%)
生まれ育った「地元」といえる自治体(市区町村)である	322	45.8
生まれたまちではないが、長く育った「地元」と言える自治体(市区町村)である	103	14.7
高校卒業後または大学卒業後に初めて住み始めた自治体(市区町村)である	185	26.3
上記のいずれにも当てはまらない	93	13.2
全体	703	100.0

(2) 単純集計

問1 以下の各項目について、お住いになる地域を選択する際にどの程度重視するかを10点満点で評価してください。なお、最高点の10点は「絶対に譲れない条件」、最低点の1点は「まったく気にしない条件」という感覚でご回答ください。(上段:実数、下段:構成比(%))

項目	全体	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点
手頃な家賃、広さ、間取りの住宅が見つかりやすい	703 100.0	138 19.6	80 11.4	169 24.0	119 16.9	81 11.5	72 10.2	22 3.1	11 1.6	4 0.6	7 1.0
地域の祭りや催事が盛んである	703 100.0	13 1.8	16 2.3	30 4.3	51 7.3	81 11.5	146 20.8	69 9.8	90 12.8	65 9.2	142 20.2
頼りがいのある近所づきあいがある	703 100.0	17 2.4	20 2.8	39 5.5	72 10.2	109 15.5	143 20.3	78 11.1	98 13.9	46 6.5	81 11.5
大学、予備校、専修学校、専門学校などに通いやすい	703 100.0	69 9.8	61 8.7	107 15.2	97 13.8	72 10.2	110 15.6	43 6.1	57 8.1	24 3.4	63 9.0
図書館、美術館・博物館等を利用しやすい	703 100.0	22 3.1	35 5.0	76 10.8	99 14.1	114 16.2	139 19.8	62 8.8	57 8.1	39 5.5	60 8.5
スポーツ施設・広場を利用しやすい	703 100.0	14 2.0	26 3.7	46 6.5	96 13.7	97 13.8	159 22.6	85 12.1	69 9.8	36 5.1	75 10.7
音楽や演劇等のイベントが楽しめるところが多い	703 100.0	15 2.1	22 3.1	44 6.3	77 11.0	97 13.8	144 20.5	82 11.7	86 12.2	46 6.5	90 12.8
繁華街など飲食が楽しめるところが多い	703 100.0	23 3.3	51 7.3	86 12.2	115 16.4	123 17.5	115 16.4	63 9.0	62 8.8	27 3.8	38 5.4
買い物を楽しめるところが多い	703 100.0	47 6.7	75 10.7	121 17.2	142 20.2	82 11.7	90 12.8	48 6.8	36 5.1	30 4.3	32 4.6
遊べる場所の選択肢が多い	703 100.0	39 5.5	56 8.0	101 14.4	145 20.6	103 14.7	104 14.8	37 5.3	46 6.5	28 4.0	44 6.3
希望の職種で通える就職先(バイト先)が見つかりやすい	703 100.0	57 8.1	68 9.7	129 18.3	134 19.1	84 11.9	105 14.9	39 5.5	35 5.0	22 3.1	30 4.3
希望する収入を得られる就職先(バイト先)が見つかりやすい	703 100.0	56 8.0	58 8.3	126 17.9	135 19.2	87 12.4	101 14.4	47 6.7	40 5.7	23 3.3	30 4.3
休暇をとりやすい就職先(バイト先)が見つかりやすい	703 100.0	53 7.5	53 7.5	104 14.8	135 19.2	87 12.4	127 18.1	45 6.4	40 5.7	22 3.1	37 5.3
農業や水産業などに関係する仕事(バイト)が見つかりやすい	703 100.0	10 1.4	8 1.1	37 5.3	40 5.7	64 9.1	144 20.5	76 10.8	80 11.4	52 7.4	192 27.3
地場産業や伝統産業に関係する仕事(バイト)が見つかりやすい	703 100.0	10 1.4	15 2.1	31 4.4	45 6.4	65 9.2	158 22.5	72 10.2	78 11.1	51 7.3	178 25.3
医療施設(病院・診療所・歯科など)が利用しやすい	703 100.0	71 10.1	92 13.1	152 21.6	140 19.9	85 12.1	90 12.8	32 4.6	31 4.4	2 0.3	8 1.1
子育てがしやすい	703 100.0	106 15.1	82 11.7	110 15.6	103 14.7	81 11.5	103 14.7	24 3.4	25 3.6	8 1.1	61 8.7
台風・地震・津波等の自然災害の心配が少ない	703 100.0	122 17.4	100 14.2	136 19.3	122 17.4	84 11.9	85 12.1	25 3.6	9 1.3	8 1.1	12 1.7
治安がよい	703 100.0	212 30.2	132 18.8	144 20.5	80 11.4	56 8.0	49 7.0	13 1.8	6 0.9	3 0.4	8 1.1
火災や交通事故が少ない	703 100.0	110 15.6	78 11.1	155 22.0	121 17.2	91 12.9	86 12.2	22 3.1	22 3.1	6 0.9	12 1.7
気候がよい	703 100.0	82 11.7	69 9.8	156 22.2	93 13.2	115 16.4	111 15.8	31 4.4	20 2.8	9 1.3	17 2.4
緑が多い	703 100.0	84 11.9	71 10.1	123 17.5	117 16.6	109 15.5	105 14.9	41 5.8	25 3.6	10 1.4	18 2.6
水や空気がおいしい	703 100.0	109 15.5	98 13.9	131 18.6	106 15.1	99 14.1	83 11.8	33 4.7	16 2.3	10 1.4	18 2.6
ごみごみした様子がなく清潔感がある	703 100.0	109 15.5	87 12.4	147 20.9	127 18.1	101 14.4	81 11.5	25 3.6	12 1.7	6 0.9	8 1.1

問1(つづき)

項目	全体	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点
悪臭や騒音などの公害が少ない	703 100.0	149 21.2	130 18.5	146 20.8	113 16.1	71 10.1	59 8.4	17 2.4	8 1.1	3 0.4	7 1.0
新幹線や空港が利用しやすい	703 100.0	21 3.0	32 4.6	70 10.0	118 16.8	123 17.5	140 19.9	53 7.5	64 9.1	27 3.8	55 7.8
電車やバスが利用しやすい	703 100.0	87 12.4	91 12.9	133 18.9	106 15.1	103 14.7	80 11.4	32 4.6	27 3.8	17 2.4	27 3.8
高速道路が利用しやすい	703 100.0	26 3.7	33 4.7	83 11.8	100 14.2	118 16.8	123 17.5	73 10.4	50 7.1	23 3.3	74 10.5
ブランドイメージがある	703 100.0	10 1.4	21 3.0	31 4.4	54 7.7	81 11.5	145 20.6	107 15.2	83 11.8	48 6.8	123 17.5
歴史や伝統を感じられる街並みがある	703 100.0	17 2.4	17 2.4	57 8.1	69 9.8	110 15.6	155 22.0	85 12.1	79 11.2	26 3.7	88 12.5
ファッションブルでおしゃれな雰囲気がある	703 100.0	9 1.3	24 3.4	55 7.8	71 10.1	106 15.1	162 23.0	88 12.5	68 9.7	40 5.7	80 11.4
若者が活躍している	703 100.0	9 1.3	23 3.3	62 8.8	68 9.7	115 16.4	158 22.5	87 12.4	73 10.4	32 4.6	76 10.8
行政が信頼できる	703 100.0	40 5.7	53 7.5	86 12.2	92 13.1	133 18.9	160 22.8	43 6.1	41 5.8	14 2.0	41 5.8
観光地である	703 100.0	10 1.4	20 2.8	38 5.4	50 7.1	86 12.2	156 22.2	92 13.1	85 12.1	55 7.8	111 15.8
親しい友人や趣味の仲間達と活動しやすい	703 100.0	32 4.6	51 7.3	103 14.7	124 17.6	109 15.5	146 20.8	44 6.3	39 5.5	17 2.4	38 5.4
親元と往来しやすい、または親と同居できる	703 100.0	71 10.1	66 9.4	116 16.5	106 15.1	95 13.5	140 19.9	33 4.7	26 3.7	10 1.4	40 5.7

問2 現在お住いの地域(自治体)に今後も住み続けたいと思いますか。10点満点で評価してください。なお、最高点の10点は「絶対にこの地域(自治体)を離れたくない」、最低点の1点は「すぐにも別の地域(自治体)に引っ越したい」という感覚でご回答ください。

点数	実数	構成比(%)
10点	74	10.5
9点	65	9.2
8点	167	23.8
7点	150	21.3
6点	85	12.1
5点	87	12.4
4点	31	4.4
3点	21	3.0
2点	8	1.1
1点	15	2.1
全体	703	100.0

問3 あなたが現在お住いの地域(自治体)について当てはまるものを1つだけ選んでください。

項目	実数	構成比(%)
福井県鯖江市	35	5.0
鯖江市以外の福井県	178	25.3
石川県金沢市	155	22.0
富山県富山市	129	18.3
東京都23区	206	29.3
その他	0	0.0
全体	703	100.0

問4 もしも、福井県に転居することになったとしたら、福井県での暮らしにどの程度期待感をもつことができるでしょうか。10点満点で評価してください。なお、最高点の10点は「とても好きになれそうな地域なので大いに期待できる」、最低点の1点は「まったく好きになれそうにない地域なので何も期待できない」という感覚でご回答ください。

点数	実数	構成比(%)
10点	3	0.6
9点	6	1.2
8点	20	4.1
7点	51	10.4
6点	82	16.7
5点	99	20.2
4点	89	18.2
3点	69	14.1
2点	32	6.5
1点	39	8.0
全体	490	100.0

問5 もしも、鯖江市に転居することになったとしたら、鯖江市での暮らしにどの程度期待感をもつことができるでしょうか。10点満点で評価してください。なお、最高点の10点は「とても好きになれそうな地域なので大いに期待できる」、最低点の1点は「まったく好きになれそうにない地域なので何も期待できない」という感覚でご回答ください。

点数	実数	構成比(%)
10点	4	2.2
9点	7	3.9
8点	21	11.8
7点	21	11.8
6点	37	20.8
5点	36	20.2
4点	20	11.2
3点	21	11.8
2点	7	3.9
1点	4	2.2
全体	178	100.0

問6 現在お住まいの地域(自治体)から転居するとしたら、どのようなことがきっかけとなりうるでしょうか。次の項目の中から、あてはまるものを5つまで選択してください。この中にあてはまるものがない方も、お気持ちに近いものをお選びください。

項目	実数	回答率(%)
手頃な家賃、広さ、間取りの住宅が見つからない	187	26.6
地域の祭りや催事がない	10	1.4
頼りがいのある近所づきあいが少ない	30	4.3
大学、予備校、専修学校、専門学校などに通いにくい	92	13.1
図書館、美術館・博物館等を利用しにくい	21	3.0
スポーツ施設・広場を利用しにくい	9	1.3
音楽や演劇等のイベントが楽しめるところが少ない	33	4.7
飲食が楽しめる繁華街が少ない	54	7.7
買い物を楽しめるところが少ない	89	12.7
遊べる場所の選択肢が少ない	66	9.4
希望の職種で通える就職先(バイト先)が見つかりにくい	183	26.0
希望する収入を得られる就職先(バイト先)が見つかりにくい	134	19.1
休暇をとりやすい就職先(バイト先)が見つかりにくい	46	6.5
農業や水産業などに関係する仕事(バイト)が見つかりにくい	4	0.6
地場産業や伝統産業に関係する仕事(バイト)が見つかりにくい	9	1.3
医療施設(病院・診療所・歯科など)が利用しにくい	60	8.5
子育てがしにくい	117	16.6
台風・地震・津波等の自然災害の心配がある	79	11.2
治安が悪い	176	25.0
火災や交通事故が多い	43	6.1
気候がよくない	40	5.7
緑が少ない	26	3.7
水や空気がおいしくない	44	6.3
ごみごみした様子で清潔感がない	52	7.4
悪臭や騒音などの公害が多い	90	12.8
新幹線や空港が利用しにくい	26	3.7
電車やバスが利用しにくい	112	15.9
高速道路が利用しにくい	3	0.4
ブランドイメージがない	13	1.8
歴史や伝統を感じられる街並みが少ない	1	0.1
ファッションブルでおしゃれな雰囲気が少ない	33	4.7
若者が活躍しにくい	25	3.6
行政が信頼できない	43	6.1
観光地がない	20	2.8
親しい友人や趣味の仲間達と活動しにくい	56	8.0
親元と往来しにくい、または親と同居できない	110	15.6

問7 自治体が提供するサービス等は、あなたが居住地を選択するにあたってどの程度“決め手となる条件”になるでしょうか。10点満点で評価してください。なお、最高点の10点は「居住地を選ぶ重要な決め手になる」、最低点の「1点」は「居住地を選ぶ際の条件にはまったくならない」という感覚でご回答ください。(上段:実数、下段:構成比(%))

項目	全体	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点
転入した際に給付される奨励金制度がある	703 100.0	71 10.1	59 8.4	141 20.1	116 16.5	97 13.8	117 16.6	40 5.7	33 4.7	8 1.1	21 3.0
充実した空き家情報が提供されている	703 100.0	57 8.1	66 9.4	123 17.5	144 20.5	102 14.5	122 17.4	46 6.5	20 2.8	11 1.6	12 1.7
住宅のリフォーム費用に対する助成金制度がある	703 100.0	59 8.4	58 8.3	127 18.1	122 17.4	111 15.8	129 18.3	27 3.8	31 4.4	11 1.6	28 4.0
転入に向けての親切丁寧な相談体制が整っている	703 100.0	72 10.2	61 8.7	142 20.2	130 18.5	110 15.6	103 14.7	30 4.3	20 2.8	14 2.0	21 3.0
転入後に起業するにあたっての低利子融資制度がある	703 100.0	35 5.0	32 4.6	86 12.2	83 11.8	104 14.8	139 19.8	55 7.8	57 8.1	29 4.1	83 11.8
婚活サポート体制がしっかりしている	703 100.0	10 1.4	20 2.8	37 5.3	61 8.7	77 11.0	165 23.5	63 9.0	79 11.2	46 6.5	145 20.6
地域コミュニティに溶け込むためのケアがしっかりしている	703 100.0	39 5.5	41 5.8	79 11.2	122 17.4	104 14.8	151 21.5	56 8.0	45 6.4	19 2.7	47 6.7
出産や子育てに対する支援制度がしっかりしている	703 100.0	143 20.3	92 13.1	119 16.9	92 13.1	71 10.1	86 12.2	26 3.7	26 3.7	10 1.4	38 5.4
その地域(自治体)での暮らしを一時的に体験する“お試し転居”ができる	703 100.0	42 6.0	38 5.4	74 10.5	94 13.4	108 15.4	144 20.5	57 8.1	53 7.5	37 5.3	56 8.0
若年層の転入者に対する家賃補助制度がある	703 100.0	100 14.2	79 11.2	134 19.1	114 16.2	93 13.2	99 14.1	26 3.7	23 3.3	12 1.7	23 3.3
その地域(自治体)での仕事体験ができるインターンシップ制度がある	703 100.0	35 5.0	46 6.5	75 10.7	112 15.9	98 13.9	154 21.9	36 5.1	53 7.5	28 4.0	66 9.4
就職した後も大学の講座や専門学校等に通学するための奨学金制度が受けられる	703 100.0	42 6.0	54 7.7	87 12.4	113 16.1	98 13.9	143 20.3	36 5.1	39 5.5	21 3.0	70 10.0

(3) クロス集計 (居住地別)

問1 居住地選択条件の得点 (平均点) 比較

項目	全体	鯖江市	鯖江市 以外の 福井県	石川県 金沢市	富山県 富山市	東京都 23区
手頃な家賃、広さ、間取りの住宅が見つかりやすい	7.5	6.9	7.5	7.5	7.5	7.6
地域の祭りや催事が盛んである	4.1	4.1	4.3	4.2	3.9	4.2
頼りがいのある近所づきあいがある	4.7	4.4	4.9	4.9	4.4	4.7
大学、予備校、専修学校、専門学校などに通いやすい	6.0	4.7	5.4	6.4	5.8	6.5
図書館、美術館・博物館等を利用しやすい	5.4	4.6	5.4	5.7	5.2	5.3
スポーツ施設・広場を利用しやすい	5.0	4.4	5.1	5.3	4.9	4.7
音楽や演劇等のイベントが楽しめるところが多い	4.7	4.4	4.7	5.2	4.5	4.5
繁華街など飲食が楽しめるところが多い	5.7	5.1	5.5	6.1	5.3	5.9
買い物を楽しめるところが多い	6.3	5.1	5.9	6.8	6.1	6.6
遊べる場所の選択肢が多い	6.0	5.0	5.9	6.3	5.8	6.2
希望の職種で通える就職先(バイト先)が見つかりやすい	6.4	5.9	6.5	6.7	6.3	6.3
希望する収入を得られる就職先(バイト先)が見つかりやすい	6.3	5.7	6.4	6.6	6.3	6.1
休暇をとりやすい就職先(バイト先)が見つかりやすい	6.1	5.7	6.5	6.4	6.2	5.7
農業や水産業などに関係する仕事(バイト)が見つかりやすい	3.8	3.5	3.8	4.3	3.8	3.5
地場産業や伝統産業に関係する仕事(バイト)が見つかりやすい	4.0	4.0	3.9	4.4	3.9	3.7
医療施設(病院・診療所・歯科など)が利用しやすい	7.0	6.3	7.1	7.3	6.8	7.0
子育てがしやすい	6.6	5.9	7.3	6.8	6.8	5.9
台風・地震・津波等の自然災害の心配が少ない	7.3	6.2	7.4	7.5	7.7	7.0
治安がよい	8.1	7.4	8.3	8.1	8.1	8.0
火災や交通事故が少ない	7.2	6.3	7.3	7.3	7.4	7.0
気候がよい	6.8	6.2	7.1	6.8	7.0	6.6
緑が多い	6.7	6.7	7.4	6.9	7.0	5.9
水や空気がおいしい	7.1	7.1	7.9	7.5	7.6	5.8
ごみごみした様子がなく清潔感がある	7.3	7.0	7.6	7.5	7.6	6.6
悪臭や騒音などの公害が少ない	7.7	7.4	8.0	7.8	8.0	7.3
新幹線や空港が利用しやすい	5.5	4.2	4.7	6.1	6.0	5.5
電車やバスが利用しやすい	6.8	5.5	5.8	6.9	6.5	8.0
高速道路が利用しやすい	5.4	5.8	5.4	5.9	5.8	4.7
ブランドイメージがある	4.3	3.7	3.7	4.9	3.9	4.7
歴史や伝統を感じられる街並みがある	4.9	4.0	4.7	5.7	4.6	4.7
ファッションブルでおしゃれな雰囲気がある	4.8	3.9	4.4	5.3	4.6	5.2
若者が活躍している	4.9	4.5	4.7	5.5	4.7	4.9
行政が信頼できる	5.9	5.4	6.0	6.1	5.9	5.9
観光地である	4.4	3.9	4.2	5.3	4.2	4.0
親しい友人や趣味の仲間達と活動しやすい	6.0	5.3	6.1	6.4	5.9	5.9
親元と往来しやすい、または親と同居できる	6.4	6.8	6.7	6.2	6.6	6.2

問6 転居するきっかけとなる条件選択率比較

項目	全体		鯖江市	鯖江市 以外の 福井県	石川県 金沢市	富山県 富山市	東京都 23区
	実数	回答率 (%)	回答率 (%)	回答率 (%)	回答率 (%)	回答率 (%)	回答率 (%)
手頃な家賃、広さ、間取りの住宅が見つからない	187	26.6	20.0	32.0	21.9	20.2	30.6
地域の祭りや催事が無い	10	1.4	0.0	2.2	1.9	0.8	1.0
頼りがいのある近所づきあいが無い	30	4.3	5.7	2.2	5.2	4.7	4.9
大学、予備校、専修学校、専門学校などに通いにくい	92	13.1	5.7	15.2	12.3	8.5	16.0
図書館、美術館・博物館等を利用しにくい	21	3.0	2.9	3.4	1.9	3.9	2.9
スポーツ施設・広場を利用しにくい	9	1.3	5.7	1.7	1.9	0.0	0.5
音楽や演劇等のイベントが楽しめる場所が少ない	33	4.7	2.9	7.3	5.2	7.0	1.0
飲食が楽しめる繁華街が少ない	54	7.7	8.6	11.2	6.5	7.0	5.8
買い物を楽しめる場所が少ない	89	12.7	20.0	19.7	8.4	13.2	8.3
遊べる場所の選択肢が少ない	66	9.4	14.3	14.6	10.3	9.3	3.4
希望の職種で通える就職先(バイト先)が見つかりにくい	183	26.0	45.7	25.8	30.3	24.0	20.9
希望する収入を得られる就職先(バイト先)が見つかりにくい	134	19.1	31.4	19.1	25.8	14.7	14.6
休暇をとりやすい就職先(バイト先)が見つかりにくい	46	6.5	2.9	7.3	7.7	7.0	5.3
農業や水産業などに関係する仕事(バイト)が見つかりにくい	4	0.6	0.0	0.6	0.6	0.8	0.5
地場産業や伝統産業に関係する仕事(バイト)が見つかりにくい	9	1.3	2.9	2.2	1.3	0.0	1.0
医療施設(病院・診療所・歯科など)を利用しにくい	60	8.5	5.7	10.1	9.0	8.5	7.3
子育てがしにくい	117	16.6	17.1	20.2	16.1	19.4	12.1
台風・地震・津波等の自然災害の心配がある	79	11.2	8.6	8.4	16.1	10.1	11.2
治安が悪い	176	25.0	14.3	21.9	29.7	19.4	29.6
火災や交通事故が多い	43	6.1	2.9	7.3	5.2	2.3	8.7
気候がよくない	40	5.7	2.9	5.1	7.7	7.8	3.9
緑が少ない	26	3.7	0.0	2.2	3.2	1.6	7.3
水や空気がおいしくない	44	6.3	2.9	3.9	5.8	3.9	10.7
ごみごみした様子で清潔感がない	52	7.4	5.7	5.1	10.3	4.7	9.2
悪臭や騒音などの公害が多い	90	12.8	5.7	11.8	14.8	7.8	16.5
新幹線や空港が利用しにくい	26	3.7	5.7	6.2	1.3	4.7	2.4
電車やバスが利用しにくい	112	15.9	11.4	12.4	13.5	12.4	23.8
高速道路が利用しにくい	3	0.4	2.9	1.1	0.0	0.0	0.0
ブランドイメージがない	13	1.8	0.0	1.1	1.3	2.3	2.9
歴史や伝統を感じられる街並みが少ない	1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5
ファッションブルでおしゃれな雰囲気が少ない	33	4.7	8.6	5.6	5.2	4.7	2.9
若者が活躍しにくい	25	3.6	11.4	5.6	2.6	3.1	1.5
行政が信頼できない	43	6.1	8.6	6.7	9.0	3.9	4.4
観光地がない	20	2.8	2.9	2.8	3.2	4.7	1.5
親しい友人や趣味の仲間達と活動しにくい	56	8.0	8.6	7.3	10.3	7.8	6.8
親元と往来しにくい、または親と同居できない	110	15.6	20.0	14.0	18.1	18.6	12.6

問7 自治体サービス等の得点（平均点）比較

項目	全体	鯖江市	鯖江市 以外の 福井県	石川県 金沢市	富山県 富山市	東京都 23区
転入した際に給付される奨励金制度がある	6.6	6.3	7.0	6.7	6.4	6.3
充実した空き家情報が提供されている	6.6	6.3	6.8	6.7	6.3	6.6
住宅のリフォーム費用に対する助成金制度がある	6.5	6.5	6.9	6.6	6.3	6.2
転入に向けての親切丁寧な相談体制が整っている	6.7	6.5	7.1	6.8	6.4	6.5
転入後に起業するにあたっての低利子融資制度がある	5.3	5.1	5.4	5.6	5.4	5.1
婚活サポート体制がしっかりしている	4.3	4.0	4.1	4.6	4.2	4.3
地域コミュニティに溶け込むためのケアがしっかりしている	5.8	5.8	5.8	6.1	5.4	5.8
出産や子育てに対する支援制度がしっかりしている	7.0	7.3	7.4	7.4	7.0	6.5
その地域（自治体）での暮らしを一時的に体験する“お試し転居”ができる	5.5	5.7	5.6	5.8	5.3	5.5
若年層の転入者に対する家賃補助制度がある	6.9	7.1	7.0	7.1	6.7	6.8
その地域（自治体）での仕事体験ができるインターンシップ制度がある	5.6	5.5	5.7	5.9	5.4	5.5
就職した後も大学の講座や専門学校等に通学するための奨学金制度が受けられる	5.8	5.5	5.6	6.2	5.8	5.7

(4) クロス集計 (性別)

問1 居住地選択条件の得点 (平均点) 比較

項目	全体	男性	女性
手頃な家賃、広さ、間取りの住宅が見つかりやすい	7.5	7.4	7.5
地域の祭りや催事が盛んである	4.1	4.7	3.9
頼りがいのある近所づきあいがある	4.7	5.0	4.6
大学、予備校、専修学校、専門学校などに通いやすい	6.0	6.1	6.0
図書館、美術館・博物館等を利用しやすい	5.4	5.4	5.4
スポーツ施設・広場を利用しやすい	5.0	5.3	4.8
音楽や演劇等のイベントが楽しめるところが多い	4.7	5.1	4.6
繁華街など飲食が楽しめるところが多い	5.7	5.8	5.7
買い物を楽しめるところが多い	6.3	6.1	6.4
遊べる場所の選択肢が多い	6.0	6.0	6.0
希望の職種で通える就職先(バイト先)が見つかりやすい	6.4	6.3	6.5
希望する収入を得られる就職先(バイト先)が見つかりやすい	6.3	6.3	6.4
休暇をとりやすい就職先(バイト先)が見つかりやすい	6.2	6.0	6.2
農業や水産業などに関する仕事(バイト)が見つかりやすい	3.8	4.5	3.6
地場産業や伝統産業に関する仕事(バイト)が見つかりやすい	4.0	4.6	3.8
医療施設(病院・診療所・歯科など)が利用しやすい	7.0	6.6	7.1
子育てがしやすい	6.6	6.3	6.7
台風・地震・津波等の自然災害の心配が少ない	7.3	6.9	7.5
治安がよい	8.1	7.7	8.2
火災や交通事故が少ない	7.2	6.9	7.3
気候がよい	6.8	6.6	6.9
緑が多い	6.7	6.8	6.7
水や空気がおいしい	7.1	7.0	7.1
ごみごみした様子がなく清潔感がある	7.3	7.1	7.3
悪臭や騒音などの公害が少ない	7.8	7.4	7.9
新幹線や空港が利用しやすい	5.5	5.8	5.4
電車やバスが利用しやすい	6.8	6.8	6.8
高速道路が利用しやすい	5.4	5.7	5.3
ブランドイメージがある	4.3	4.9	4.1
歴史や伝統を感じられる街並みがある	4.9	5.4	4.7
ファッションブルでおしゃれな雰囲気がある	4.8	5.3	4.7
若者が活躍している	4.9	5.3	4.8
行政が信頼できる	5.9	6.0	5.9
観光地である	4.4	4.8	4.2
親しい友人や趣味の仲間達と活動しやすい	6.0	5.9	6.0
親元と往来しやすい、または親と同居できる	6.4	6.4	6.4

問6 転居するきっかけとなる条件選択率比較

項目	全体		男性	女性
	実数	回答率 (%)	回答率 (%)	回答率 (%)
手頃な家賃、広さ、間取りの住宅が見つからない	187	26.6	22.5	27.9
地域の祭りや催事がない	10	1.4	2.3	1.1
頼りがいのある近所づきあいがいい	30	4.3	4.6	4.2
大学、予備校、専修学校、専門学校などに通にくい	92	13.1	11.6	13.6
図書館、美術館・博物館等を利用しにくい	21	3.0	3.5	2.8
スポーツ施設・広場を利用しにくい	9	1.3	2.3	0.9
音楽や演劇等のイベントが楽しめる場所が少ない	33	4.7	5.2	4.5
飲食が楽しめる繁華街が少ない	54	7.7	5.2	8.5
買い物を楽しめる場所が少ない	89	12.7	8.7	14.0
遊べる場所の選択肢が少ない	66	9.4	8.7	9.6
希望の職種で通える就職先(バイト先)が見つかりにくい	183	26.0	31.2	24.3
希望する収入を得られる就職先(バイト先)が見つかりにくい	134	19.1	26.0	16.8
休暇をとりやすい就職先(バイト先)が見つかりにくい	46	6.5	10.4	5.3
農業や水産業などに関係する仕事(バイト)が見つかりにくい	4	0.6	0.0	0.8
地場産業や伝統産業に関係する仕事(バイト)が見つかりにくい	9	1.3	1.2	1.3
医療施設(病院・診療所・歯科など)が利用しにくい	60	8.5	5.2	9.6
子育てがしにくい	117	16.6	9.8	18.9
台風・地震・津波等の自然災害の心配がある	79	11.2	6.9	12.6
治安が悪い	176	25.0	19.7	26.8
火災や交通事故が多い	43	6.1	5.2	6.4
気候がよくない	40	5.7	8.1	4.9
緑が少ない	26	3.7	5.8	3.0
水や空気がおいしくない	44	6.3	8.1	5.7
ごみごみした様子で清潔感がない	52	7.4	7.5	7.4
悪臭や騒音などの公害が多い	90	12.8	8.7	14.2
新幹線や空港が利用しにくい	26	3.7	2.9	4.0
電車やバスが利用しにくい	112	15.9	13.3	16.8
高速道路が利用しにくい	3	0.4	0.6	0.4
ブランドイメージがない	13	1.8	2.9	1.5
歴史や伝統を感じられる街並みが少ない	1	0.1	0.0	0.2
ファッションブルでおしゃれな雰囲気が少ない	33	4.7	2.3	5.5
若者が活躍しにくい	25	3.6	2.3	4.0
行政が信頼できない	43	6.1	6.9	5.8
観光地がない	20	2.8	4.0	2.5
親しい友人や趣味の仲間達と活動しにくい	56	8.0	5.8	8.7
親元と往来しにくい、または親と同居できない	110	15.6	12.7	16.6

問7 自治体サービス等の得点（平均点）比較

項目	全体	男性	女性
転入した際に給付される奨励金制度がある	6.6	6.4	6.7
充実した空き家情報が提供されている	6.6	6.4	6.7
住宅のリフォーム費用に対する助成金制度がある	6.5	6.2	6.6
転入に向けての親切丁寧な相談体制が整っている	6.7	6.4	6.8
転入後に起業するにあたっての低利子融資制度がある	5.3	5.5	5.3
婚活サポート体制がしっかりしている	4.3	4.8	4.1
地域コミュニティに溶け込むためのケアがしっかりしている	5.8	5.7	5.8
出産や子育てに対する支援制度がしっかりしている	7.0	6.4	7.2
その地域(自治体)での暮らしを一時的に体験する“お試し転居”ができる	5.5	5.5	5.6
若年層の転入者に対する家賃補助制度がある	6.9	6.5	7.0
その地域(自治体)での仕事体験ができるインターンシップ制度がある	5.6	5.6	5.6
就職した後も大学の講座や専門学校等に通学するための奨学金制度が受けられる	5.8	5.7	5.8

(5) クロス集計 (年齢別)

問1 居住地選択条件の得点 (平均点) 比較

項目	全体	18～ 19歳	20～ 24歳	25～ 29歳	30～ 34歳
手頃な家賃、広さ、間取りの住宅が見つかりやすい	7.5	7.6	7.8	7.4	7.3
地域の祭りや催事が盛んである	4.1	4.4	4.1	3.9	4.3
頼りがいのある近所づきあいがある	4.7	5.3	4.9	4.3	4.7
大学、予備校、専修学校、専門学校などに通いやすい	6.0	7.8	7.0	5.3	5.1
図書館、美術館・博物館等を利用しやすい	5.4	5.4	5.5	5.2	5.3
スポーツ施設・広場を利用しやすい	5.0	4.9	5.0	4.9	5.0
音楽や演劇等のイベントが楽しめるところが多い	4.7	5.4	4.8	4.7	4.4
繁華街など飲食が楽しめるところが多い	5.7	6.1	5.8	5.9	5.4
買い物を楽しめるところが多い	6.3	6.8	6.4	6.5	6.0
遊べる場所の選択肢が多い	6.0	6.7	6.2	6.2	5.6
希望の職種で通える就職先(バイト先)が見つかりやすい	6.4	6.8	6.8	6.4	6.0
希望する収入を得られる就職先(バイト先)が見つかりやすい	6.3	6.8	6.6	6.2	6.0
休暇をとりやすい就職先(バイト先)が見つかりやすい	6.1	6.6	6.3	6.2	5.8
農業や水産業などに関係する仕事(バイト)が見つかりやすい	3.8	3.7	3.8	3.7	3.9
地場産業や伝統産業に関係する仕事(バイト)が見つかりやすい	4.0	3.9	4.1	3.8	4.0
医療施設(病院・診療所・歯科など)が利用しやすい	7.0	6.7	7.0	7.2	7.0
子育てがしやすい	6.6	6.0	6.5	6.6	6.9
台風・地震・津波等の自然災害の心配が少ない	7.3	7.1	7.4	7.5	7.2
治安がよい	8.1	8.0	8.3	8.1	7.9
火災や交通事故が少ない	7.2	7.3	7.2	7.3	7.0
気候がよい	6.8	6.7	7.0	6.8	6.7
緑が多い	6.7	6.4	6.8	6.6	7.0
水や空気がおいしい	7.1	6.8	7.1	7.1	7.2
ごみごみした様子がなく清潔感がある	7.3	7.1	7.4	7.2	7.2
悪臭や騒音などの公害が少ない	7.7	7.6	7.8	7.8	7.7
新幹線や空港が利用しやすい	5.5	6.0	5.8	5.4	5.0
電車やバスが利用しやすい	6.8	7.9	7.3	6.6	6.2
高速道路が利用しやすい	5.4	5.8	5.3	5.4	5.4
ブランドイメージがある	4.3	4.4	4.4	4.2	4.2
歴史や伝統を感じられる街並みがある	4.9	5.0	5.1	4.6	4.8
ファッションブルでおしゃれな雰囲気がある	4.8	5.3	5.1	4.8	4.5
若者が活躍している	4.9	5.3	5.1	5.0	4.6
行政が信頼できる	5.9	6.1	6.0	6.0	5.7
観光地である	4.4	4.3	4.4	4.3	4.4
親しい友人や趣味の仲間達と活動しやすい	6.0	6.4	6.2	6.0	5.7
親元と往来しやすい、または親と同居できる	6.4	6.5	6.2	6.6	6.4

問6 転居するきっかけとなる条件選択率比較

項目	全体		18～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳
	実数	回答率(%)	回答率(%)	回答率(%)	回答率(%)	回答率(%)
手頃な家賃、広さ、間取りの住宅が見つからない	187	26.6	19.2	24.5	28.9	28.8
地域の祭りや催事がない	10	1.4	0.0	1.0	2.5	1.3
頼りがいのある近所づきあいがいい	30	4.3	8.2	3.5	6.4	1.8
大学、予備校、専修学校、専門学校などに通いにくい	92	13.1	41.1	18.5	8.3	3.5
図書館、美術館・博物館等を利用しにくい	21	3.0	5.5	4.5	2.5	1.3
スポーツ施設・広場を利用しにくい	9	1.3	0.0	2.5	1.5	0.4
音楽や演劇等のイベントが楽しめるところが少ない	33	4.7	5.5	6.0	4.4	3.5
飲食が楽しめる繁華街が少ない	54	7.7	9.6	7.5	7.4	7.5
買い物を楽しめるところが少ない	89	12.7	19.2	9.0	13.2	13.3
遊べる場所の選択肢が少ない	66	9.4	9.6	10.5	7.8	9.7
希望の職種で通える就職先(バイト先)が見つかりにくい	183	26.0	23.3	34.5	25.5	19.9
希望する収入を得られる就職先(バイト先)が見つかりにくい	134	19.1	13.7	20.0	21.6	17.7
休暇をとりやすい就職先(バイト先)が見つかりにくい	46	6.5	6.8	7.0	7.8	4.9
農業や水産業などに関係する仕事(バイト)が見つかりにくい	4	0.6	0.0	0.5	0.0	1.3
地場産業や伝統産業に関係する仕事(バイト)が見つかりにくい	9	1.3	1.4	0.5	1.5	1.8
医療施設(病院・診療所・歯科など)が利用しにくい	60	8.5	0.0	6.0	9.3	12.8
子育てがしにくい	117	16.6	5.5	10.5	19.1	23.5
台風・地震・津波等の自然災害の心配がある	79	11.2	8.2	10.0	10.3	14.2
治安が悪い	176	25.0	28.8	21.0	25.0	27.4
火災や交通事故が多い	43	6.1	4.1	6.0	4.4	8.4
気候がよくない	40	5.7	0.0	6.5	4.9	7.5
緑が少ない	26	3.7	4.1	4.5	2.5	4.0
水や空気がおいしくない	44	6.3	11.0	7.0	6.4	4.0
ごみごみした様子で清潔感がない	52	7.4	12.3	8.5	6.4	5.8
悪臭や騒音などの公害が多い	90	12.8	12.3	13.0	15.2	10.6
新幹線や空港が利用しにくい	26	3.7	2.7	5.5	2.9	3.1
電車やバスが利用しにくい	112	15.9	26.0	22.0	10.8	11.9
高速道路が利用しにくい	3	0.4	1.4	1.0	0.0	0.0
ブランドイメージがない	13	1.8	4.1	0.5	1.0	3.1
歴史や伝統を感じられる街並みが少ない	1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.4
ファッションブルでおしゃれな雰囲気が少ない	33	4.7	8.2	3.5	5.4	4.0
若者が活躍しにくい	25	3.6	1.4	2.0	3.9	5.3
行政が信頼できない	43	6.1	5.5	4.0	5.4	8.8
観光地がない	20	2.8	5.5	3.5	2.0	2.2
親しい友人や趣味の仲間達と活動しにくい	56	8.0	4.1	10.5	8.3	6.6
親元と往来しにくい、または親と同居できない	110	15.6	11.0	12.5	14.7	20.8

問7 自治体サービス等の得点（平均点）比較

項目	全体	18～ 19歳	20～ 24歳	25～ 29歳	30～ 34歳
転入した際に給付される奨励金制度がある	6.6	6.4	6.5	6.6	6.8
充実した空き家情報が提供されている	6.6	6.9	6.9	6.4	6.5
住宅のリフォーム費用に対する助成金制度がある	6.5	6.5	6.3	6.3	6.7
転入に向けての親切丁寧な相談体制が整っている	6.7	7.1	6.9	6.4	6.7
転入後に起業するにあたっての低利子融資制度がある	5.3	5.8	5.4	5.0	5.5
婚活サポート体制がしっかりしている	4.3	4.8	4.7	3.8	4.2
地域コミュニティに溶け込むためのケアがしっかりしている	5.8	6.0	5.9	5.5	5.8
出産や子育てに対する支援制度がしっかりしている	7.0	7.1	6.7	7.0	7.4
その地域（自治体）での暮らしを一時的に体験する“お試し転居”ができる	5.5	5.8	5.6	5.5	5.5
若年層の転入者に対する家賃補助制度がある	6.9	7.1	7.1	7.1	6.5
その地域（自治体）での仕事体験ができるインターンシップ制度がある	5.6	6.2	5.6	5.4	5.6
就職した後も大学の講座や専門学校等に通学するための奨学金制度が受けられる	5.8	6.6	6.0	5.5	5.6

(6) クロス集計（未既婚別）

問1 居住地選択条件の得点（平均点）比較

項目	全体	未婚	既婚
手頃な家賃、広さ、間取りの住宅が見つかりやすい	7.5	7.5	7.4
地域の祭りや催事が盛んである	4.1	4.0	4.4
頼りがいのある近所づきあいがある	4.7	4.6	4.8
大学、予備校、専修学校、専門学校などに通いやすい	6.0	6.2	5.5
図書館、美術館・博物館等を利用しやすい	5.4	5.3	5.4
スポーツ施設・広場を利用しやすい	5.0	4.8	5.3
音楽や演劇等のイベントが楽しめるところが多い	4.7	4.7	4.6
繁華街など飲食が楽しめるところが多い	5.7	5.8	5.7
買い物を楽しめるところが多い	6.3	6.3	6.4
遊べる場所の選択肢が多い	6.0	6.0	6.0
希望の職種で通える就職先(バイト先)が見つかりやすい	6.4	6.5	6.3
希望する収入を得られる就職先(バイト先)が見つかりやすい	6.3	6.4	6.1
休暇をとりやすい就職先(バイト先)が見つかりやすい	6.1	6.2	5.9
農業や水産業などに関係する仕事(バイト)が見つかりやすい	3.8	3.8	3.9
地場産業や伝統産業に関係する仕事(バイト)が見つかりやすい	4.0	3.9	4.0
医療施設(病院・診療所・歯科など)が利用しやすい	7.0	6.8	7.4
子育てがしやすい	6.6	6.1	7.7
台風・地震・津波等の自然災害の心配が少ない	7.3	7.2	7.6
治安がよい	8.1	8.0	8.2
火災や交通事故が少ない	7.2	7.1	7.4
気候がよい	6.8	6.8	6.9
緑が多い	6.7	6.6	7.1
水や空気がおいしい	7.1	6.9	7.5
ごみごみした様子がなく清潔感がある	7.3	7.2	7.5
悪臭や騒音などの公害が少ない	7.7	7.7	7.9
新幹線や空港が利用しやすい	5.5	5.5	5.4
電車やバスが利用しやすい	6.8	6.9	6.6
高速道路が利用しやすい	5.4	5.2	5.8
ブランドイメージがある	4.3	4.2	4.5
歴史や伝統を感じられる街並みがある	4.9	4.8	5.0
ファッションブルでおしゃれな雰囲気がある	4.8	4.9	4.7
若者が活躍している	4.9	4.9	4.9
行政が信頼できる	5.9	5.9	6.0
観光地である	4.4	4.3	4.6
親しい友人や趣味の仲間達と活動しやすい	6.0	6.0	6.1
親元と往来しやすい、または親と同居できる	6.4	6.3	6.6

問6 転居するきっかけとなる条件選択率比較

項目	全体		未婚	既婚
	実数	回答率 (%)	回答率 (%)	回答率 (%)
手頃な家賃、広さ、間取りの住宅が見つからない	187	26.6	26.4	27.1
地域の祭りや催事がない	10	1.4	0.6	3.1
頼りがいのある近所づきあいがいい	30	4.3	3.6	5.7
大学、予備校、専修学校、専門学校などに通にくい	92	13.1	16.2	6.6
図書館、美術館・博物館等を利用しにくい	21	3.0	3.6	1.7
スポーツ施設・広場を利用しにくい	9	1.3	1.1	1.7
音楽や演劇等のイベントが楽しめる場所が少ない	33	4.7	5.7	2.6
飲食が楽しめる繁華街が少ない	54	7.7	8.2	6.6
買い物を楽しめる場所が少ない	89	12.7	12.4	13.1
遊べる場所の選択肢が少ない	66	9.4	9.9	8.3
希望の職種で通える就職先(バイト先)が見つかりにくい	183	26.0	31.4	14.8
希望する収入を得られる就職先(バイト先)が見つかりにくい	134	19.1	21.9	13.1
休暇をとりやすい就職先(バイト先)が見つかりにくい	46	6.5	8.2	3.1
農業や水産業などに関係する仕事(バイト)が見つかりにくい	4	0.6	0.4	0.9
地場産業や伝統産業に関係する仕事(バイト)が見つかりにくい	9	1.3	0.8	2.2
医療施設(病院・診療所・歯科など)が利用しにくい	60	8.5	6.1	13.5
子育てがしにくい	117	16.6	7.8	34.9
台風・地震・津波等の自然災害の心配がある	79	11.2	8.9	16.2
治安が悪い	176	25.0	23.0	29.3
火災や交通事故が多い	43	6.1	5.3	7.9
気候がよくない	40	5.7	4.4	8.3
緑が少ない	26	3.7	4.0	3.1
水や空気がおいしくない	44	6.3	7.0	4.8
ごみごみした様子で清潔感がない	52	7.4	7.2	7.9
悪臭や騒音などの公害が多い	90	12.8	11.6	15.3
新幹線や空港が利用しにくい	26	3.7	5.3	0.4
電車やバスが利用しにくい	112	15.9	19.8	7.9
高速道路が利用しにくい	3	0.4	0.4	0.4
ブランドイメージがない	13	1.8	1.7	2.2
歴史や伝統を感じられる街並みが少ない	1	0.1	0.0	0.4
ファッションブルでおしゃれな雰囲気が少ない	33	4.7	4.4	5.2
若者が活躍しにくい	25	3.6	2.1	6.6
行政が信頼できない	43	6.1	5.3	7.9
観光地がない	20	2.8	3.2	2.2
親しい友人や趣味の仲間達と活動しにくい	56	8.0	9.1	5.7
親元と往来しにくい、または親と同居できない	110	15.6	13.7	19.7

問 7 自治体サービス等の得点（平均点）比較

項目	全体	未婚	既婚
転入した際に給付される奨励金制度がある	6.6	6.5	6.8
充実した空き家情報が提供されている	6.6	6.7	6.5
住宅のリフォーム費用に対する助成金制度がある	6.5	6.3	6.8
転入に向けての親切丁寧な相談体制が整っている	6.7	6.7	6.8
転入後に起業するにあたっての低利子融資制度がある	5.3	5.3	5.4
婚活サポート体制がしっかりしている	4.3	4.5	3.8
地域コミュニティに溶け込むためのケアがしっかりしている	5.8	5.8	5.9
出産や子育てに対する支援制度がしっかりしている	7.0	6.5	8.1
その地域(自治体)での暮らしを一時的に体験する“お試し転居”ができる	5.5	5.5	5.6
若年層の転入者に対する家賃補助制度がある	6.9	6.9	6.9
その地域(自治体)での仕事体験ができるインターンシップ制度がある	5.6	5.6	5.5
就職した後も大学の講座や専門学校等に通学するための奨学金制度が受けられる	5.8	5.8	5.7

(7) クロス集計（子の有無別）

問1 居住地選択条件の得点（平均点）比較

項目	全体	子供なし	子供あり
手頃な家賃、広さ、間取りの住宅が見つかりやすい	7.5	7.5	7.4
地域の祭りや催事が盛んである	4.1	4.0	4.5
頼りがいのある近所づきあいがある	4.7	4.7	4.9
大学、予備校、専修学校、専門学校などに通いやすい	6.0	6.1	5.6
図書館、美術館・博物館等を利用しやすい	5.4	5.4	5.3
スポーツ施設・広場を利用しやすい	5.0	4.9	5.2
音楽や演劇等のイベントが楽しめるところが多い	4.7	4.7	4.6
繁華街など飲食が楽しめるところが多い	5.7	5.8	5.4
買い物を楽しめるところが多い	6.3	6.3	6.2
遊べる場所の選択肢が多い	6.0	6.0	6.0
希望の職種で通える就職先(バイト先)が見つかりやすい	6.4	6.5	6.2
希望する収入を得られる就職先(バイト先)が見つかりやすい	6.3	6.4	6.0
休暇をとりやすい就職先(バイト先)が見つかりやすい	6.1	6.3	5.8
農業や水産業などに関係する仕事(バイト)が見つかりやすい	3.8	3.8	3.9
地場産業や伝統産業に関係する仕事(バイト)が見つかりやすい	4.0	3.9	4.0
医療施設(病院・診療所・歯科など)が利用しやすい	7.0	6.9	7.3
子育てがしやすい	6.6	6.2	7.8
台風・地震・津波等の自然災害の心配が少ない	7.3	7.2	7.6
治安がよい	8.1	8.1	8.2
火災や交通事故が少ない	7.2	7.1	7.3
気候がよい	6.8	6.8	7.0
緑が多い	6.7	6.7	6.9
水や空気がおいしい	7.1	7.0	7.3
ごみごみした様子がなく清潔感がある	7.3	7.2	7.3
悪臭や騒音などの公害が少ない	7.7	7.7	7.9
新幹線や空港が利用しやすい	5.5	5.6	5.1
電車やバスが利用しやすい	6.8	7.0	6.3
高速道路が利用しやすい	5.4	5.4	5.5
ブランドイメージがある	4.3	4.3	4.4
歴史や伝統を感じられる街並みがある	4.9	4.9	4.9
ファッションブルでおしゃれな雰囲気がある	4.8	4.9	4.6
若者が活躍している	4.9	4.9	4.8
行政が信頼できる	5.9	5.9	6.0
観光地である	4.4	4.3	4.6
親しい友人や趣味の仲間達と活動しやすい	6.0	6.0	5.9
親元と往来しやすい、または親と同居できる	6.4	6.4	6.5

問6 転居するきっかけとなる条件選択率比較

項目	全体		子供なし	子供あり
	実数	回答率 (%)	回答率 (%)	回答率 (%)
手頃な家賃、広さ、間取りの住宅が見つからない	187	26.6	26.4	27.2
地域の祭りや催事がない	10	1.4	0.8	3.5
頼りがいのある近所づきあいがいい	30	4.3	3.6	6.4
大学、予備校、専修学校、専門学校などに通いにくい	92	13.1	15.1	6.9
図書館、美術館・博物館等を利用しにくい	21	3.0	3.4	1.7
スポーツ施設・広場を利用しにくい	9	1.3	1.1	1.7
音楽や演劇等のイベントが楽しめる場所が少ない	33	4.7	5.5	2.3
飲食が楽しめる繁華街が少ない	54	7.7	8.1	6.4
買い物を楽しめる場所が少ない	89	12.7	13.2	11.0
遊べる場所の選択肢が少ない	66	9.4	10.2	6.9
希望の職種で通える就職先(バイト先)が見つかりにくい	183	26.0	29.4	15.6
希望する収入を得られる就職先(バイト先)が見つかりにくい	134	19.1	21.5	11.6
休暇をとりやすい就職先(バイト先)が見つかりにくい	46	6.5	7.7	2.9
農業や水産業などに関係する仕事(バイト)が見つかりにくい	4	0.6	0.4	1.2
地場産業や伝統産業に関係する仕事(バイト)が見つかりにくい	9	1.3	1.1	1.7
医療施設(病院・診療所・歯科など)が利用しにくい	60	8.5	6.6	14.5
子育てがしにくい	117	16.6	10.4	35.8
台風・地震・津波等の自然災害の心配がある	79	11.2	9.1	17.9
治安が悪い	176	25.0	23.6	29.5
火災や交通事故が多い	43	6.1	5.8	6.9
気候がよくない	40	5.7	5.3	6.9
緑が少ない	26	3.7	4.0	2.9
水や空気がおいしくない	44	6.3	6.4	5.8
ごみごみした様子で清潔感がない	52	7.4	7.4	7.5
悪臭や騒音などの公害が多い	90	12.8	12.6	13.3
新幹線や空港が利用しにくい	26	3.7	4.7	0.6
電車やバスが利用しにくい	112	15.9	19.1	6.4
高速道路が利用しにくい	3	0.4	0.6	0.0
ブランドイメージがない	13	1.8	1.5	2.9
歴史や伝統を感じられる街並みが少ない	1	0.1	0.0	0.6
ファッションブルでおしゃれな雰囲気が少ない	33	4.7	4.5	5.2
若者が活躍しにくい	25	3.6	2.3	7.5
行政が信頼できない	43	6.1	5.5	8.1
観光地がない	20	2.8	2.6	3.5
親しい友人や趣味の仲間達と活動しにくい	56	8.0	8.7	5.8
親元と往来しにくい、または親と同居できない	110	15.6	14.2	20.2

問 7 自治体サービス等の得点（平均点）比較

項目	全体	子供なし	子供あり
転入した際に給付される奨励金制度がある	6.6	6.5	6.9
充実した空き家情報が提供されている	6.6	6.7	6.5
住宅のリフォーム費用に対する助成金制度がある	6.5	6.3	6.8
転入に向けての親切丁寧な相談体制が整っている	6.7	6.7	6.8
転入後に起業するにあたっての低利子融資制度がある	5.3	5.3	5.4
婚活サポート体制がしっかりしている	4.3	4.4	3.8
地域コミュニティに溶け込むためのケアがしっかりしている	5.8	5.8	5.8
出産や子育てに対する支援制度がしっかりしている	7.0	6.6	8.3
その地域(自治体)での暮らしを一時的に体験する“お試し転居”ができる	5.5	5.5	5.6
若年層の転入者に対する家賃補助制度がある	6.9	6.9	6.8
その地域(自治体)での仕事体験ができるインターンシップ制度がある	5.6	5.6	5.4
就職した後も大学の講座や専門学校等に通学するための奨学金制度が受けられる	5.8	5.8	5.7

3. 委員アンケート調査結果の概要

問1 鯖江市民の市民性(人情、精神性、方言、習慣・慣習、食文化、地場産業、気候等の特徴)をたくさん挙げてください。できるだけ具体的をお願いします。

市民性	件数	分類
二世帯、三世帯家族で暮らす人が多い	2	家族
共働きの家庭多い	1	家族
まちがきれい	1	環境
冬場はどんよりとした曇り、雨、雪、盆地気候で冬寒く、夏暑い	4	気候
雪を喜ぶ子ども	2	気候
四季を楽しめる(冬の寒さになれば)	1	気候
子供が雪かきを経験できる、高齢者が雪かきを生きがいにしている	1	気候
雪国と言われているが、近年は積雪少ない	1	気候
忍耐強い、粘り強い、コツコツと仕事熱心	5	気質
賑やかなこと、目立つこと、新しいことが好き、起業精神、チャレンジ精神、先進的な考え方	5	気質
自己主張をしない、恥ずかしがりや	2	気質
保守的な人が多い(高齢者)	2	気質
親切な人が多い	1	気質
ものづくり気質	1	気質
市外からのお客様をおもてなしする心が備わっている	1	気質
人間味にあふれる	1	気質
温厚	1	気質
躰が厳しく、教育にも熱心、学力が高い	1	教育
習い事やスポーツに親が熱心、体力・運動能力が高い	1	教育
地場産業(眼鏡、漆器)に対する誇りを持っている	1	郷土愛
郷土愛が強い	1	郷土愛
地縁・血縁・取引縁など人のつながり、協力意識、助け合い意識の強さ	5	共同体意識
まちづくりへの参加意識、市政への参加意識、自治意識、当事者意識が強い	4	共同体意識
宗教心、寺社信仰心が強い	2	共同体意識
四季に応じてレジャーやスポーツが楽しめる	1	くらし
海山の新鮮な食材を食べることができる	1	くらし
沢庵を炊いたものを好んで食べる、伝統料理が根付いている	1	くらし
薄口の文化	1	くらし
隣市に通勤・通学する人が多い	1	くらし
地場産業(眼鏡、繊維)のイメージが強い	1	産業
眼鏡産業に従事する人がどこまで誇りをもっているかは不明	1	産業
漆器産業で跡継ぎを考えている若者多い(河和田地区では移住者も多い)	1	産業
農業や家庭菜園をする環境に恵まれている	2	住環境
方言が強くコンプレックスをもつ(恥ずかしがる)人が多い	2	方言
語尾のイントネーションが強い	1	方言
穏やかさと攻撃性をもった方言を使い分ける	1	方言
イベントが多い、イベントになれている	1	その他

問2 鯖江市で「暮らしやすいなあ」と実感していることをたくさん挙げてください。

暮らしやすさ	件数	分類
人口密度が小さい(混雑なし、待ち時間なし)	1	開放感
あくせくしていない、穏やかである	1	開放感
買い物が市内で済ませられる(なんでもそろう、アルプラザ、Big Berry、パロー、しまむら)	4	買い物・娯楽
和洋菓子店が多い	1	買い物・娯楽
シネコン(鯖江アレックスシネマ)がある	1	買い物・娯楽
雪がそれほど降らない	1	気候
小中学校への通学時間が短い	1	教育
高校への通学が便利(福井県立鯖江高等学校、福井県立丹南高等学校)、選べる(市外含む)	1	教育
市(行政)のバックアップが手厚い	1	行政
近所づきあいがよい、近所の人の子供をかわいがってくれる	2	近所づきあい
福井市、越前市が近くて便利(マーカー、電車)	5	広域
福井県産業振興施設(サンドーム福井)でイベント(市境)	1	広域
サンダーバードで大阪まで2時間	1	公共交通
全10地区公民館に体育館併設(スポーツ、イベント)	2	公共施設
健康スポーツセンター(福井市)	1	公共施設
公共施設も道路もきれい	1	公共施設
保育所、幼稚園が多い	1	子育て
田畑、河川、山などの自然が残されている、星空がきれい、水(地下水、湧水)、空気、海山の幸がおいしい	8	自然
四季を通じて海、山のレジャー、アウトドア	3	自然
車社会に対応している(駐車場確保しやすい、渋滞なし)、コンパクトな市街地(学校、病院、公共施設)	11	マイカー交通
農道含めてアスファルト舗装されている	1	マイカー交通
ごみが出しやすい(さほどの縛りがない)	1	その他
雪捨て場として集落内の用水が便利で助かる	1	その他
西山公園	1	その他
若い移住者とのコミュニケーションがとりやすい	1	その他
坂が少なく自転車で疲れない	1	その他

問3 鯖江市で「不便だなあ」と実感していることをたくさん挙げてください。

不便さ	件数	分類
大きな病院が福井市にしかない	1	医療
町内の行事や地区の行事が多い	1	近所づきあい
公共施設が集中(分散しているほうが便利)	1	公共施設
バスが不便、公共交通が不便	3	交通
どこへ行くにも車が必要、車の維持費がかかる	2	交通
車社会なので酒を飲む予定のときの異動に困る	1	交通
空港がなく東京に行くのが日本一不便	1	交通
どこまでが鯖江市なのかかわかりにくい	1	市街地
ちょうどよいサイズのマンション、アパートがない、空き家を借りたくてもなかなか借りられない	2	住宅事情
若い人が楽しめる場所が少ない	3	商業・サービス
中心部がなく求心力がない、飲食店がばらついている	2	商業・サービス
飲み屋、飲食店が少ない	1	商業・サービス
積雪時の除雪、融雪が不十分、大変。	4	除雪・融雪
歩行、自転車で通る道路が整備されていない	1	道路
道に飛び出した標識が危険	1	道路
文化的リテラシーがかなり低い	1	文化

問4 市外から来た人を「ぜひ連れていきたい」、「ぜひ見せてあげたい」、「ぜひ教えてあげたい」と思うモノ、コト、バシヨ、ヒト等をたくさん挙げてください。できるだけ具体的にお願いします。

お国自慢	件数	分類
秋吉(居酒屋)	1	飲食店
蕎麦屋	1	飲食店
聴琴亭(蕎麦屋)	1	飲食店
おいしいソパン屋さん	1	飲食店
小・中学校の教育(学校)が充実している	1	教育
牧野百男市長、市役所の取組(めがねのまち元気再生協議会、オープンデータ、JK 課)	4	行政
西山公園(つつじまつり、もみじまつり、道の駅、西山動物園)	9	公園・自然
文珠山	1	公園・自然
日野川	1	公園・自然
桃源清水	1	公園・自然
保育所、幼稚園に入りやすい	1	子育て
うるしの里会館(越前漆器伝統産業会館)、椀椀	4	漆器
河和田、若手の工房	2	漆器
市民主役の良さ、提案型市民主役事業化制度、まちづくり応援団	1	市民参加
大学のない町で積極的に地域活動する学生団体 with	1	市民参加
萬慶寺	1	神社・寺社
大瀧神社(越前市)	1	神社・寺社
加多志波神社、お面様(国の重要文化財木造「追儺面」)	1	神社・寺社
福井市、越前市に近く、通勤・通学に便利であること	1	その他
「おこない」(東部地域で古くから行われている「餅まき」)	1	伝統行事
山うに(河和田地区の家庭で親しまれてきた伝統の薬味)	1	伝統食品
まなべの館(総合博物館)	2	博物館
西山公園から展望する市内の景色	2	街並み
河和田の街並み	1	街並み
めがね会館(メガネミュージアム)	7	眼鏡
めがね工場	2	眼鏡
メガネミュージアムに並ぶ高品質な眼鏡	1	眼鏡
国内生産シェア日本一の眼鏡や眼鏡でつながった有名人の数々	1	眼鏡
お気に入りの眼鏡屋さん	1	眼鏡
間部の殿様の江戸幕府での活躍	1	歴史

問5 休日に遊びや買い物に出かける場合は、市内で過ごすことが多いですか、それとも市外で過ごすことが多いですか。
具体的な場所やそこでの行動を教えてください。

休日の過ごし方
市内の映画館
家庭菜園
市内スーパー(パロー、ヤスサキ、平和堂)、ホームセンター(みつわ、コメリ、HOME CENTER PLANT-1)
市外での買い物(福井市エルパ、ベル、カーマ、アルビス、越前町ヤマキシ、アルビス)
犬を連れて日野川や河川敷で水遊び
敦賀市民なので敦賀市内
買い物が市内で済ませられる(なんでもそろう、アルプラザ、Big Berry、パロー、しまむら)
西山公園
健康スポーツセンター(福井市)
田んぼ、家での作業、町内及び地区ですることが多い
市内でイベントも多い
食べ物は市内で買い物
洋服等は福井市で買い物
市内と市外が半々
美術館、博物館
市外の百貨店、セレクトショップでのショッピングや市場調査(名古屋、金沢、京都、福井市)
西山公園で散歩
休日は市外が多い(金沢、京都、県内では三国から小浜まで)
子供の習い事が福井市
食事を福井市で
スポーツをしているのでグラウンドで過ごす

問6 若者が高校卒業後などに鯖江市を出ていくことについて、親または地域の大人としてどのように感じていますか。率直な気持ちを教えてください。

若者の流出
自分の娘も含めて子どもたちには可能であれば一度外に出てもらいたい。その上で、できれば地元で就職・結婚し、親元に近いところで生活することを望んでいる。
Uターンは希望するが、他所での経験は大いによいと思う。
夢や目的があれば良いことだと思う。育ててくれた街に感謝の気持ちを持ってほしい。なんとなく「鯖江には何もない」「大都市に行けば何とかなる」という中途半端な気持ちではいけない。いつでも鯖江に戻ってきてもよい受け皿が必要。
行きたいという思いがある人は出ていくべきである。人生経験を積んで人間的に成長した上で自分の生き方を選ぶときに鯖江に戻りたいと思った人が帰ってくるべきだと思う。親のことなどを考えた上で、鯖江に残るのもよいと思う。どちらにせよ、自分で決めていかないとすべてを人のせいにする寂しい人生になってしまう。出ていってもまた戻りたいと思ってくれるのが望ましい。
大学進学率が高く、福井県には大学が3つしかないから仕方がない。就職する人は本心としては鯖江に残ってほしいが、仕事の選択肢が少ないので仕方がない。
親としては、近くにいてほしい気持ちはあるが、まずは親元を離れて、県外の学校や海外に出て、留学や就職も含めて、自宅そして親元を離れて暮らす時期があった方がよいと思う。若い時にしか経験できないことがたくさんあるので、お金がなくても時間は十分にとれるので、できるだけいろいろな経験しておくべきだと思う。
見聞を深めるために、一度県外に進学、就職するのはすごく意味のあることだと思う。しかし、そのまま戻ってこないケースが多いのが心配。戻ってきてまちの活性化になれる人材を呼び戻すためには、鯖江側が魅力をつくらないと無理だと思う。鯖江に帰れば稼げる、子育てしやすい、挑戦できるなどのキーワードを顕在化させる必要があると思う。
とてもいいことだと思う。
ずっと地元で過ごすよりも、県外に出て見聞を広げたり、新たな友人をつくったりすることは必要なことと感じているため、どんどん出ていけばいいと思う。また、どうしてもUターンしてほしいとも思わない。親ならば誰もがそうだと思うが、一番は子供の幸せであって、子供に面倒をかけたとは思わないため。子供の力を発揮できる環境が鯖江の外にあるのなら、むしろ出ていくことを勧めると思う。
「井の中の蛙大海を知らず」とならないように、若い頃にはどんどん世間を見てほしいと思っている。親元を離れることで、親のありがたみがわかり、人として成長できると考えている。戻ってくるかどうかは子供の人生であるため、親としては自由にさせたいと思っているが、おそらく自分が年を重ねていくと跡継ぎがない場合は不安になるのかもしれない。しかし、他の地域を見た上で改めて鯖江の良さがわかったときには戻ってくると思っている。

問7 鯖江市の人口の推移について、どのように感じられますか。率直なご意見をお聞かせください

人口推移
若い世代の減少が気になる。
外国人の減少が止まればしばらくは増加するのでは。
鯖江市だけでとらえるのではなく、隣接市との関係性を考慮することが必要。
市内、近隣に働く場所があり、住みやすい、暮らしやすい。池田町、今庄町等の山間地からの流入が多い。
車社会にて、県の中心地にあり、国道、高速も利用しやすいところにある。
他の市町村にはない水準で、まずよかったと思う。その中で、他市町村の手本になるような先導的、攻めの施策を打ち出してほしい。
この委員になるまで、人口について全く考えていなかった。少しでもたくさんの方が喜んで鯖江に住んでくれるといいと思う。素敵な家族をつくり、生活する人が増えていくといいと思う。女性が赤ちゃんを産んで育てることが人口増加に不可欠。そこに力を注ぐことが大切。全市民が人口推移に関心をもつことは大切。そのために、このまま減少すると市民税がどれくらい上がるかなど、身に迫る情報を出していくのが良いと思われる。
昭和30年～40年代までは、中学卒業時に金の卵として特に鹿児島、宮崎県から200人、300人規模で集団就職があった。これは繊維、眼鏡の地場産業が、特に繊維産業があったからである。最近では、市西部地区で田を手放して宅地開発が進んだことによる増がある。最近では西部地区での開発は鈍化傾向にあり、用地地域内では糺町内で相続の関係で田を手放す人が多く、ミニ開発的なものが進んでいる。ほかに、福井市、越前市の中間にある地の利での人口増がある。昔の昭和30年～40年代は仕事を選ぶのではなく、生活するために仕事が必要だったが、今は仕事の内容が重要なので、仕事を選べる必要がある。大きな会社が1社くらいはあるとどうしても鯖江にいななければいけない人は残るのではないかと。少子化には晩婚化が進んでいることが大きな要因であり、なんとか止める施策が必要。
これは、日本全体のことで、少子高齢化に伴う人口減少で、今後地域格差によってその現象が大きいところ、少ないところが出てくるので、鯖江市はできる限り人口減少幅を少なくするためにも、地域の産業が活発で多くの人の働く場所があり、若い人から中高年の人まで元気であれば働ける環境と地域になり続けることが理想。

4. 鯖江市から転出している若者へのアンケート調査結果の概要

(1) 調査票

若者が住みたくなる・住み続けたくなるまちづくりに関する調査研究

鯖江市出身の大学生・社会人の皆さんへのアンケート

※このワード文書にそのまま入力してご回答ください。

※本調査の結果につきましては、統計的に処理し、個人が特定できるように使用することは決してございません。

※自由記入欄の文字数は制限していません。ご自由にご記入ください。

問1 鯖江市民の市民性について、次のうち当てはまると思うものにいくつでも○を付けてください。

忍耐強い、粘り強い、コツコツと仕事熱心	
賑やかなこと、目立つこと、新しいことが好き、起業精神、チャレンジ精神、先進的な考え方、	
地縁・血縁・取引縁など人のつながり、協力意識、助け合い意識の強さ	
まちづくり・市政・自治会などに対する参加意識、当事者意識が強い	
自己主張をしない、恥ずかしがりや	
寺社信仰心が強い	
方言が強くコンプレックスをもつ(恥ずかしがる)人が多い	
親が厳しく、教育にも熱心、学力が高い	
習い事やスポーツに親が熱心、体力・運動能力が高い	
地場産業(眼鏡)に対する誇りを持っている	
地場産業(漆器)に対する誇りを持っている	
郷土愛が強い	

※上記以外に、人情、精神性、方言、習慣・慣習、食文化、地場産業、気候等の特徴として思いつくことをできるだけ具体的に教えてください。(下欄にご記入ください)

問2 市外から来た人を「ぜひ連れていきたい」、「ぜひ見せてあげたい」、「ぜひ教えてあげたい」と思うものにいくつでも○を付けてください。

西山公園(つつじまつり、もみじまつり、道の駅、西山動物園、展望台からの風景)	
眼鏡産業、眼鏡工場、めがね会館(メガネミュージアム)	
漆器産業、うるしの里会館(越前漆器伝統産業会館)、河和田の街並みや工房	
市役所の取組(めがねのまち元気再生協議会、オープンデータ、JK 課)	
まなべの館(総合博物館)	
市民主役の良さ、提案型市民主役事業化制度、まちづくり応援団	

※上記以外に、市外から来た人を「ぜひ連れていきたい」、「ぜひ見せてあげたい」、「ぜひ教えてあげたい」と思うモノ、コト、パシヨ、ヒトなどを、できるだけ具体的に教えてください。(下欄にご記入ください)

問3 鯖江市で暮らしていたときに、「暮らしやすいなあ」、「便利だなあ」と感じていたことを、現在住んでいるまちとの比較を含めて、できるだけ具体的に挙げてください。

問4 鯖江市で暮らしていたときに、「暮らしにくいなあ」、「不便だなあ」と感じていたことを、現在住んでいるまちとの比較を含めて、できるだけ具体的に挙げてください。

--

問5 ご自身にとって、鯖江市での暮らしと、現在住んでいるまちでの暮らしのどちらが暮らしやすいと感じていますか。あてまるものにひとつだけ○をつけてください。また、現在住んでいる自治体名(市区町村名)を教えてください。

鯖江市の方が暮らしやすい	
現在住んでいるまちの方が暮らしやすい	
どちらともいえない	

現在住んでいるまちの自治体名(市区町村名)を右にご記入ください	
---------------------------------	--

問6 鯖江市に戻って暮らしたいと思う気持ちはありますか。当てはまるものにひとつだけ○をつけてください。実現するかどうかに関わらず、率直な気持ちを教えてください。

鯖江市にUターンして暮らしたいという気持ちが強くある	
鯖江市にUターンして暮らしたいという気持ちがなんとなくある	
鯖江市にUターンして暮らしたいという気持ちはあまりない	
鯖江市にUターンして暮らしたいという気持ちは全くない	

問7 次のうちあなたの考えに近い方を選んで○をつけてください。

暮らしたいまちで暮らすことを優先し、仕事はそのまちで見つけたい	
希望する仕事に就くことを優先し、住まいはその仕事に通いやすいまちで見つけたい	
現時点ではどちらともいえない	

問8 今後、鯖江市に戻る可能性についてお聞きします。次のうち当てはまるものすべてに○をつけてください。卒業、就職、転職、離職、結婚などをきっかけとする現実的な可能性を教えてください。

鯖江市にUターンする可能性が高いと思う	
鯖江市にUターンするかもしれないが、可能性は低いと思う	
鯖江市にUターンする可能性は全くないと思う	
鯖江市にこだわらず、福井県内の近隣市町にJターンする可能性がある	
鯖江市以外の福井県内にJターンする可能性もない	

問9 あなたにとっての“家を継ぐ”という感覚について、次のうち当てはまるものに○をつけてください。

将来は、家を継がなくてはならないという感覚を確実にもっている	
将来は、家を継がなくてはならないという感覚をなんとなくもっている	
将来は、家を継がなくてはならないという感覚はあまりない	
将来は、家を継がなくてはならないという感覚はまったくない	
兄弟または姉妹がすでに家を継いでいる、または継ぐ予定なので自分が家を継ぐことはない	

問10 あなたの年齢を教えてください。 → []歳

問11 あなたの性別に○を付けてください。 → [男性 ・ 女性]

問12 現在同居のご家族等について当てはまるものに○をつけてください。

結婚していますか	はい ・ いいえ
子どもがいますか	はい ・ いいえ

問13 鯖江市のご実家の家族構成を教えてください。ご実家での同居の有無を含めて下欄に具体的にご記入ください。

(例) 父方の祖母、両親、姉夫婦とその子、弟が同居。兄がいるが、県外に住んでいる。

問14 (大学生の方に伺います) 次のうちあなた自身に当てはまるものに○をつけてください。

大学生	
大学院生	

問15 (大学生の方に伺います) 現在何年生ですか。 → []年生

問16 (大学生の方に伺います) 次のうちあなた自身に当てはまるものに○をつけてください。

文系	
理系	

問17 (社会人の方に伺います) お勤めの企業・事業所の業種は次のうちどれですか。当てはまるものに○をつけてください。

農林水産業		金融・保険業	
飲業		不動産業	
建設業		飲食店、宿泊業	
製造業		医療、福祉	
電気・ガス・熱供給・水道業		教育、学習支援業	
情報通信業		複合サービス事業	
運輸業		その他のサービス業	
卸売・小売業		公務	

問18 (社会人の方に伺います) お勤めの企業・事業所におけるあなたの職種は次のうちどれですか。当てはまるものに○をつけてください。

経営者・役員		事務系非正規社員・非正規職員	
事務系管理職		技術系非正規社員・非正規職員	
技術系管理職		現場労働系非正規社員・非正規職員	
事務系正社員・正職員			
技術系正社員・正職員			
現場労働系正社員・正職員			

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

ご回答結果は次のアドレス宛にメールにてご返信ください。

基礎調査機関 ビズデザイン株式会社 (担当: 木村) sabae@biz-design.co.jp

(2) 集計結果

問1 鯖江市民の市民性について当てはまると思うもの

項目	実数	構成比(%)
忍耐強い、粘り強い、コツコツと仕事熱心	13	48.1
賑やかなこと、目立つこと、新しいことが好き、起業精神、チャレンジ精神、先進的な考え方	0	0.0
地縁・血縁・取引縁など人のつながり、協力意識、助け合い意識の強さ	14	51.9
まちづくり・市政・自治会などに対する参加意識、当事者意識が強い	9	33.3
自己主張をしない、恥ずかしがりや	12	44.4
寺社信仰心が強い	3	11.1
方言が強くコンプレックスをもつ(恥ずかしがる)人が多い	8	29.6
躰が厳しく、教育にも熱心、学力が高い	6	22.2
習い事やスポーツに親が熱心、体力・運動能力が高い	11	40.7
地場産業(眼鏡)に対する誇りを持っている	13	48.1
地場産業(漆器)に対する誇りを持っている	3	11.1
郷土愛が強い	11	40.7

その他、鯖江市民の市民性

- 天神様への信仰
- 共働ぎが多い
- 三世帯住宅が多い
- 他人を思いやる気持ちが強い。協調性がある
- 雪国で生活してきたことで、忍耐力がある
- 人間性としては温かい人が多く、地域の中でもすごく良い。また、お互いに協力して住みやすい環境
- すごく穏やかで和やかでゆったりしている
- 新しいもの、珍しいものに飛びつきたがる傾向がある
- 排他的である
- 新しいことへのアンテナと実行力が高い(JK 課やえきライブラリーなどの取組)
- 車があまり渋滞しない。
- 思いやりのある人が多い。近隣と交流している
- 近所の方と心の距離が近い
- 魚がおいしい
- 冬は雪が降る
- 農産物がさかん
- 雨が多い。カラッと晴れる事が少ない
- 田園地域にのんびりした田舎の環境が残っている
- 工業がさかん
- パチンコをしている人が多い
- これといった特徴がない
- JK課やその他様々な町興しは、その話を聞いたたびに誇らしく思う
- 考え方が保守的
(生まれてから一度も県外に住んだことがない人が多いから？学校や職場に県外出身者が少ないから？)
- 冬場はいつもどんよりした気候で日照時間が少ない
- 眼鏡産業については県外の人にも認知度が高く感心する

問2 市外から来た人を「ぜひ連れていきたい」、「ぜひ見せてあげたい」、「ぜひ教えてあげたい」と思うもの

項目	実数	構成比(%)
西山公園(つつじまつり、もみじまつり、道の駅、西山動物園、展望台からの風景)	23	85.2
眼鏡産業、眼鏡工場、めがね会館(メガネミュージアム)	7	25.9
漆器産業、うるしの里会館(越前漆器伝統産業会館)、河和田の街並みや工房	4	14.8
市役所の取組(めがねのまち元気再生協議会、オープンデータ、JK 課)	2	7.4
まなべの館(総合博物館)	0	0.0
市民主役の良さ、提案型市民主役事業化制度、まちづくり応援団	0	0.0
無回答	1	3.7

その他、市外から来た人を「ぜひ連れていきたい」、「ぜひ見せてあげたい」、「ぜひ教えてあげたい」と思うもの

- 文殊山
- 日野川の河原
- 東清水町
- 西山公園
- 見ず知らずの人でもあいさつを交わすことができること
- 近所の居酒屋
- 吉川なすのおいしさ
- ラポーゼかわだでのパン作り体験
- ここ数年でオープンした個性のある飲食店(カフェイルベンティチェット、蔵カフェ mon など)
- サンドーム
- 食べ物の美味しさ
- 田園の風景。遠くの山やまちを見渡せるスケール感

問3 鯖江市での暮らしやすさ、便利さ(現在住んでいるまちとの比較を含めて)

- ◆ 「環境」
 - 治安が良い
 - 静かなところ
 - 夜が静かなところ
 - 夜寝るとき外で蛙の鳴き声が聞こえてくるのは、今住んでいる場所は車が通る音が聞こえるので、それとは違い、落ち着く感じがしていいと思う
 - 緑が多い
 - 自然が多い
 - 空気や水がおいしい
 - 水道水が普通に美味しい
 - 雪が降った際の除雪体制がしっかりしている
 - 車と自転車が歩行者に優しい
 - 空気がきれい。治安が良い。騒音が少ない。近所付き合いがいい
- ◆ 「暮らし」
 - 街がコンパクト
 - 図書館の利用のしやすさ、快適性、スポットが比較的まとまっていること
 - 飲食・洋服関係の店舗が近くに多くあるところ
 - 消費者視点から見て、アルプラザのような商業施設はそれ単体で複数の目的を果たせるから便利
 - 今住んでいるところよりも、町自身は小さいけれどそれだけ密集している感じがしたためどこへ行くにも行きやすいように感じた
 - 物価が安い
 - 野菜などが安い
 - スーパーなどが大きくて品ぞろえもいい
 - スーパー、ドラッグストアなどの商業施設の規模が大きい
 - スーパーが広い
 - スーパーの魚でも新鮮
 - 現在、住んでいるまちは近隣の人との交往りが全くなく暮らしにくい、鯖江は住み慣れ近隣に気軽に話せる人が多いという点で暮らしやすい
- ◆ 「交通」
 - 車を駐められる土地があるので、車さえ手に入れば移動がしやすい
 - 車の交通量が絶対的に少なく、徒歩、自転車移動が安全に感じたこと

- 交通量が少なく車を運転しやすい
- 公共バスが100円
- 車社会は交通弱者以外にとっては便利。荷物を多く運べるし融通も利く

◆ 「教育」

- 暮らしていたときには感じていなかったが、今思えば保育園の待機児童がいないことは良いと思う
- 待機児童が少ない
- 家や学校が広いのは恵まれている
- 子どもの遊べる場所が多い

◆ 「その他」

- 三世代家族の割合の高さ、職住近接などにより女性が働きやすい
- 親元で暮らしていたので、責任感を感じず精神的に楽だった
- あいさつすると返ってくる
- 暮らしていたときには感じていなかったが、今思えば富裕層～貧困層の格差が小さいように思う
- 東京と比べてのんびりと生活ができる
- 実家で米や野菜を作っていたので、買わずにすむのがよい
- 海まで比較的近いので新鮮な魚が食べられる
- 狭い道幅の道路が少ない。(関東は狭い道が多い。)
- 土地が安い、平地なので家を建てるのに適している(西東京や神奈川県は山肌の狭い土地に建てるしかない。)

問4 鯖江市での暮らしにくさ、不便さ(現在住んでいるまちとの比較を含めて)

◆ 「環境」

- 雪が降る。緯度の割には冬が寒い
- 雪が積もる
- 冬場の天気が悪い

◆ 「暮らし」

- コンビニやスーパーなどが近くにない
- コンビニやスーパー等が周りに無い
- ショッピングセンターなどのお店が少ない
- 余暇活動の選択肢が少ない
- 近場に遊べるスポットが少ないと思う
- 遊び場が少ない
- 若者が遊んだり買い物したりする場所がない
- 若者が遊べるショッピングセンターなどがない
- 若者向けのファッション店等が少ない
- 洋服を買いに行くのに遠出(県外)をしなくては欲しいものがなかった
- 田舎のほうに中型の電気屋さんや本屋さんが少ない
- 遊ぶ場所が国道沿いに偏っている
- おいしい店が少ない
- 徒歩で買い物することができない
- 徒歩で行く買い物が不便
- 地上波TVの選択肢が極めて少ない
- 宗教勧誘が多い

◆ 「交通」

- 公共交通機関の不便さ
- 公共交通機関の不足
- 公共交通機関が発達していないところ
- 公共交通の便が悪い(天候が悪い冬期間に感じる。)
- 交通の便が悪い
- 交通網があまり発達していない
- 公共交通機関が少ない。本数も少ない
- 交通手段が少ない
- 交通機関の終了時間が早い
- 電車の本数が少ない
- 駅が遠いのと、便の数が少ないのが不便
- 移動手段の少なさだけ
- 現在住んでいるところは交通の便が良いので楽
- 通学時の手段として、バス・電車等が使えない

- 電車やバスの本数が少ない
- 何事にも車が必須
- 車を持っていないと市街地へ出られない
- 車を使わないと移動がしづらい
- 車がないと生活が出来ない
- 車がないと動けない
- 交通の便がないかなと思う。バスをもっと多くしたら繁華街へもスムーズに行き来出来るのではないかなと思う
- 現在の居住地は鉄道が発達しているが、鯖江は本数が少ないこともあり、鉄道が使いづらい。その他、お年寄りの方も車を使わないと移動できないくらい、バスなどの公共交通機関の本数が少ない。これからのことも考えると、バスの本数は増やした方が良くと思う

◆ 「その他」

- 駅前がさみしい
- シャッター商店街が多い
- 街灯が少ない
- 道路の融雪が行き届いていないところがある

問5 鯖江市での暮らしと、現在住んでいるまちでの暮らしの暮らしやすさの比較

項目	実数	構成比(%)
鯖江市の方が暮らしやすい	2	7.4
現在住んでいるまちの方が暮らしやすい	11	40.7
どちらともいえない	14	51.9
全体	27	100.0

問5 現在住んでいる自治体名(都道府県)

項目	実数	構成比(%)
金沢市	3	11.1
首都圏(東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県)	12	44.4
近畿圏(大阪府、京都府、奈良県、滋賀県)	7	25.9
その他	4	14.8
不明	1	3.7
全体	27	100.0

問6 鯖江市に戻って暮らしたいと思う気持ち

項目	実数	構成比(%)
鯖江市にUターンして暮らしたいという気持ちが強くある	2	7.4
鯖江市にUターンして暮らしたいという気持ちがなんとなくある	14	51.9
鯖江市にUターンして暮らしたいという気持ちはあまりない	7	25.9
鯖江市にUターンして暮らしたいという気持ちは全くない	4	14.8
全体	27	100.0

問7 暮らし(住まい)と仕事の優先順位

項目	実数	構成比(%)
暮らしたいまちで暮らすことを優先し、仕事はそのまちで見つけない	3	11.1
希望する仕事に就くことを優先し、住まいはその仕事に通いやすいまちで見つけない	16	59.3
現時点ではどちらともいえない	8	29.6
全体	27	100.0

問8 鯖江市に戻る現実的な可能性

項目	実数	構成比(%)
鯖江市にUターンする可能性が高いと思う	8	29.6
鯖江市にUターンするかもしれないが、可能性は低いと思う	12	44.4
鯖江市にUターンする可能性は全くないと思う	1	3.7
鯖江市にこだわらず、福井県内の近隣市町にJターンする可能性がある	6	22.2
鯖江市以外の福井県内にJターンする可能性もない	3	11.1

問9 “家を継ぐ”という感覚

項目	実数	構成比(%)
将来は、家を継がなくてはならないという感覚を確実にもっている	1	3.7
将来は、家を継がなくてはならないという感覚をなんとなくもっている	7	25.9
将来は、家を継がなくてはならないという感覚はあまりない	12	44.4
将来は、家を継がなくてはならないという感覚はまったくない	4	14.8
兄弟または姉妹がすでに家を継いでいる、または継ぐ予定なので自分が家を継ぐことはない	3	11.1
全体	27	100.0

問10 年齢

項目	実数	構成比(%)
20歳未満	5	18.5
20～25歳	15	55.6
25～30歳	5	18.5
30歳以上	2	7.4
全体	27	100.0

問11 性別

項目	実数	構成比(%)
男性	14	51.9
女性	13	48.1
全体	27	100.0

問12 婚姻の有無

項目	実数	構成比(%)
はい	2	7.4
いいえ	25	92.6
全体	27	100.0

問12 子供の有無

項目	実数	構成比(%)
はい	1	3.7
いいえ	26	96.3
全体	27	100.0

問13 実家の家族構成

項目	実数	構成比(%)
三世同居	17	63.0
県外に兄弟姉妹	12	44.4
同居兄弟姉妹あり	13	48.1
全体	27	100.0

問14～16 大学生の場合の文理・学年種別

項目	実数	構成比(%)
文系 大学1年	3	11.1
文系 大学2年	4	14.8
文系 大学3年	3	11.1
文系 大学4年	3	11.1
文系 大学学年不明	1	3.7
理系 大学1年	0	0.0
理系 大学2年	0	0.0
理系 大学3年	2	7.4
理系 大学4年	1	3.7
理系 大学5年	0	0.0
理系 大学6年	0	0.0
理系 大学学年不明	1	3.7
無回答	9	33.3
全体	27	100.0

問17 社会人の場合の業種

項目	実数	構成比(%)
農林水産業	0	0.0
鉱業	0	0.0
建設業	0	0.0
製造業	1	3.7
電気・ガス・熱供給・水道業	0	0.0
情報通信業	2	7.4
運輸業	0	0.0
卸売・小売業	1	3.7
金融・保険業	0	0.0
不動産業	0	0.0
飲食店, 宿泊業	0	0.0
医療, 福祉	0	0.0
教育, 学習支援業	0	0.0
複合サービス事業	1	3.7
その他のサービス業	0	0.0
公務	3	11.1
非社会人	19	70.4
全体	27	100.0

問18 社会人の場合の職種

項目	実数	構成比(%)
経営者・役員	0	0.0
事務系管理職	0	0.0
技術系管理職	0	0.0
事務系正社員・正職員	3	11.1
技術系正社員・正職員	3	11.1
現場労働系正社員・正職員	1	3.7
事務系非正規社員・非正規職員	0	0.0
技術系非正規社員・非正規職員	1	3.7
現場労働系非正規社員・非正規職員	0	0.0
非社会人	19	70.4
全体	27	100.0

若者が住みたくなる・住み続けたくなるまちづくり
に関する調査研究

－平成 28 年3月発行－

福井県 鯖江市

〒916-8666

福井県鯖江市西山町 13-1

電話 0778-53-2263 (地方創生戦略室)

一般財団法人 地方自治研究機構

〒104-0061

東京都中央区銀座7-14-16 太陽銀座ビル2階

電話 03-5148-0661 (代表)

